

哲学（99102）

前期

Philosophy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 細野邦子

授業の概要

科学および技術の発展は、存在とは何か、自己とは何かなどの哲学の探求に大きな影響を与えてきた。それをふまえて、「群盲」なる我々が世界という「象」をどのように評してきたのかを見ていきたい。そして21世紀現在進行中の科学技術がもたらす諸問題を、それらに取り組むための哲学的ツールを紹介しつつ、受講生に自らの問題として考えてもらう。

到達目標

（1）我々が直面している諸問題を、哲学的ツールを用いて、自ら調べ考える姿勢・力を身につける。

評価方法

レポート等（4 0 %）および定期試験（6 0 %）による総合評価。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション
第2回	存在とは何か 1（世界の構造）
第3回	存在とは何か 2（空間・時間）
第4回	心とは何か 1（意識）
第5回	心とは何か 2（自己）
第6回	真理とは何か 1（实在論と非实在論）
第7回	真理とは何か 2（現実と仮想現実）
第8回	システムとは何か 1（第 1 世代システム論）
第9回	システムとは何か 2（第 2 ・第 3 世代システム論）
第10回	人工知能と哲学 1（知能とは何か）
第11回	人工知能と哲学 2（知能のシミュレーション）
第12回	バイオテクノロジーと哲学 1（生命とは何か）
第13回	バイオテクノロジーと哲学 2（「人間」の行方）
第14回	環境哲学 1（生態系とは何か）
第15回	環境哲学 2（環境哲学の歴史）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
講義中に紹介した参考書等を用いて復習する。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

Philosophy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 細野邦子

授業の概要

科学および技術の発展は、存在とは何か、自己とは何かなどの哲学の探求に大きな影響を与えてきた。それをふまえて、「群盲」なる我々が世界という「象」をどのように評してきたのかを見ていきたい。そして21世紀現在進行中の科学技術がもたらす諸問題を、それらに取り組むための哲学的ツールを紹介しつつ、受講生に自らの問題として考えてもらう。

到達目標

(1) 我々が直面している諸問題を、哲学的ツールを用いて、自ら調べ考える姿勢・力を身につける。

評価方法

レポート等（4 0 %）および定期試験（6 0 %）による総合評価。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション
第2回	存在とは何か 1（世界の構造）
第3回	存在とは何か 2（空間・時間）
第4回	心とは何か 1（意識）
第5回	心とは何か 2（自己）
第6回	真理とは何か 1（实在論と非实在論）
第7回	真理とは何か 2（現実と仮想現実）
第8回	システムとは何か 1（第 1 世代システム論）
第9回	システムとは何か 2（第 2 ・第 3 世代システム論）
第10回	人工知能と哲学 1（知能とは何か）
第11回	人工知能と哲学 2（知能のシミュレーション）
第12回	バイオテクノロジーと哲学 1（生命とは何か）
第13回	バイオテクノロジーと哲学 2（「人間」の行方）
第14回	環境哲学 1（生態系とは何か）
第15回	環境哲学 2（環境哲学の歴史）

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

講義中に紹介した参考書等を用いて復習する。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

Literature

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

読書離れの進む日本人をはじめとした学生に、文学の楽しみや効用を理解させる実践的な内容とする。英米の小説を中心に、作家の概要や背景を紹介し、実際に翻訳で作品に触れることにより、その魅力を見出してもらいたい。もともとは英語で書かれた作品であるので、日本語のみならず、原文にも触れる予定である。限りがある時間の中でできるだけ多くの作品に触れてもらいたい。前半は英国関連の小説、後半は米国でもほとんどがユダヤ系の作家による短編小説を扱うこととなる。

到達目標

- 1 生年順で紹介される英米作家のおいたちなどを知り、歴史や時代風潮を意識する。
- 2 他の言語で描かれた世界観に親しみ、異なった文化や宗教・思想を理解する。
- 3 英米の小説家や小説に触れ、教養として今後の学生・社会生活に活かせるようになる。
- 4 自分の分析や主張をデータ・根拠を取り入れながら論理的に記述できるようになる。

評価方法

毎回の授業での小レポート 30 % (到達目標1・4)
中間テスト 30 % (到達目標1～4)
定期テスト 40 % (到達目標1～4)

注意事項

積極的に文章を読み、書くことが問われる授業である。
情報化社会の中で、手軽に知ること慣れている中で、「考えること」をいわず取り組んでももらいたい。
遅刻は本人のみならず、他の学生の迷惑になるので、小レポートの用紙を始業チャイムと同時に配布している。減点対象とならぬよう、時間を守って参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	授業概要・自己紹介
第2回	メアリー・シェリー
第3回	チャールズ・ディケンズ
第4回	ヘンリー・ジェイムズ
第5回	ロバート・ステューブンソン
第6回	オスカー・ワイルド
第7回	キャサリン・マンスフィールド
第8回	中間まとめ
第9回	アンジア・イージアスカ
第10回	ヘミングウェイ
第11回	アーウィン・ショー
第12回	バーナード・マラマッド

回数	内容
第13回	J．D．サリンジャー
第14回	ポール・オースター
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・毎回次回に扱う作家の翻訳プリントを配布するので、3色ペンを用いながら自分なりに解釈しておく。
- ・毎回の授業に扱う用語を復習し、文章化して説明できるようにしておく。
- ・より興味をもてる作家の中から早い時期に1冊を選び読み進めておく。
- ・可能ならば翻訳だけでなく、原作（英語多読用リトールドでも可）にも取り組んでみる。

教科書

毎回プリントを配布する。

参考書

関連の翻訳書（定期テストで1冊は読むことを課している）、原書、本学図書館の多読用英語e-bookなど

備考

Literature

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

読書離れの進む日本人をはじめとした学生に、文学の楽しみや効用を理解させる実践的な内容とする。英米の小説を中心に、作家の概要や背景を紹介し、実際に翻訳で作品に触れることにより、その魅力を見出してもらいたい。もともとは英語で書かれた作品であるので、日本語のみならず、原文にも触れる予定である。限りがある時間の中でできるだけ多くの作品に触れてもらいたい。前半は英国関連の小説、後半は米国でもほとんどがユダヤ系の作家による短編小説を扱うこととなる。

到達目標

- 1 生年順で紹介される英米作家のおいたちなどを知り、歴史や時代風潮を意識する。
- 2 他の言語で描かれた世界観に親しみ、異なった文化や宗教・思想を理解する。
- 3 英米の小説家や小説に触れ、教養として今後の学生・社会生活に活かせるようになる。
- 4 自分の分析や主張をデータ・根拠を取り入れながら論理的に記述できるようになる。

評価方法

- 毎回の授業での小レポート 30 % (到達目標1・4)
- 中間テスト 30 % (到達目標1～4)
- 定期テスト 40 % (到達目標1～4)

注意事項

積極的に文章を読み、書くことが問われる授業である。
情報化社会の中で、手軽に知ること慣れている中で、「考えること」をいわず取り組んでももらいたい。
遅刻は本人のみならず、他の学生の迷惑になるので、小レポートの用紙を始業チャイムと同時に配布している。減点対象とならぬよう、時間を守って参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	授業概要・自己紹介
第2回	メアリー・シェリー
第3回	チャールズ・ディケンズ
第4回	ヘンリー・ジェイムズ
第5回	ロバート・ステューブンソン
第6回	オスカー・ワイルド
第7回	キャサリン・マンスフィールド
第8回	中間まとめ
第9回	アンジア・イージアスカ
第10回	ヘミングウェイ
第11回	アーウィン・ショー
第12回	バーナード・マラマッド

回数	内容
第13回	J．D．サリンジャー
第14回	ポール・オースター
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・毎回次回に扱う作家の翻訳プリントを配布するので、3色ペンを用いながら自分なりに解釈しておく。
- ・毎回の授業に扱う用語を復習し、文章化して説明できるようにしておく。
- ・より興味をもてる作家の中から早い時期に1冊を選び読み進めておく。
- ・可能ならば翻訳だけでなく、原作（英語多読用リトールドでも可）にも取り組んでみる。

教科書

毎回プリントを配布する。

参考書

関連の翻訳書（定期テストで1冊は読むことを課している）、原書、本学図書館の多読用英語e-bookなど

備考

History

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 時任英人

授業の概要

アメリカの政治・外交・社会・文化・歴史を理解する科目である。そうしたアメリカが日本に与えた影響を含めて事実の理解と説明ができる社会人を育成することを目的とする。

到達目標

- 1 政治的・経済的・文化的にもアメリカを理解し、討議できるようになる。
- 2 総合的視点からアメリカを知ることができ、日本との比較理解もできるようになる。

評価方法

授業時間中に米勝実施する小テスト20%（到達目標1を評価）レポート30%（到達目標2を評価）、定期試験50%（到達目標1、2を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

日々アメリカでの出来事に注意を払い、そのことについて理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（「歴史」とはなにか）
第2回	アメリカの歴史の特色I（地理的要因）
第3回	アメリカの歴史の特色II（アメリカの民主主義の意味）
第4回	アメリカの歴史の特色III（人種問題と多民族国家）
第5回	アメリカの歴史の特色IV（宗教）
第6回	アメリカの歴史の特色V（社会原理としての競争）
第7回	アメリカにおける保守と革新の意味
第8回	アメリカの政治社会における「暴力」意味
第9回	日本から見たアメリカ史の意義
第10回	アメリカナイゼーション
第11回	1960年代～80年代までのアメリカの文化の変質
第12回	1990年代以降のアメリカの文化の変質
第13回	リバタリアニズムの現代的意義
第14回	保守化するアメリカ (政治文化史的側面)
第15回	総まとめ

授業外学習

- ・講義した中から、その日のテーマに関する意見を授業の最後に100 字程度でまとめること。
- ・講義の中から関心あるテーマを選び、レポートととして課する。

教科書

使用しない。

参考書

講義で適宜紹介する。

備考

History

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 時任英人

授業の概要

現在の日本社会は、突然現出したのではなく、歴史的経験の積み重ねで出来ている。それで、とくに近代の歴史は複雑であるため、そのことを踏まえて理解・説明することが必要である。それゆえ、正確な近代史をもつ社会人となる人たちを育成する。

到達目標

- 1 常に現在に至る近代の歴史を意識しつつ、理解できるようにする。
- 2 今後の日本の方向性を理解するうえで必要となる知識と問題点を討議できるようにする。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標1と2を評価）、定期試験50%（到達目標1と2を評価）により評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

常に図書館を利用して勉強することに慣れ、講義についても理解しないと試験とレポートがまったくできないので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（日本史とは何か？）
第2回	明治維新の意義
第3回	開国と国内の動乱
第4回	アジア認識と富国強兵
第5回	アジアへの進出と日清戦争
第6回	日露戦争と国内政治の変質
第7回	明治の文化と国民生活
第8回	大正民本主義と国民の政治参加
第9回	第一次世界大戦と日本の地位の確立
第10回	国際社会の潮流と恐慌の勃発
第11回	軍部の台頭と国内外政策の変質
第12回	太平洋戦争の敗戦と復興への道
第13回	冷戦下の日本の再建
第14回	総合的日本史理解
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 図書館で各講義のテーマの理解を深めるために、関連事項を調べる必要がある
- 2 関連するテーマに関するレポートを課題として課する。

教科書

鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』 出版社:山川出版社 ISBN-13: 978-4634591127

参考書

適宜紹介する。

備考

宗教学（99405）

前期

Science of Religion

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 細野邦子

授業の概要

宗教は、世界情勢、社会問題、芸術・文化・科学などに、大きな影響を及ぼしている。世界の諸宗教のうち、「アブラハムの宗教」と呼ばれるユダヤ教・キリスト教・イスラム教、インド発祥のヒンドゥー教・仏教、さらに日本の神道を取り上げ、それらの歴史、教義、世界情勢等との関わりを、宗教学の基礎知識に抛りながら、学んでいく。

到達目標

(1) 世界情勢等を、宗教についての知識を手掛かりに、自ら調べ読み解く姿勢・力を身につける。

評価方法

レポート等（40%）および定期試験（60%）による総合評価。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ユダヤ教 1（歴史）
第3回	ユダヤ教 2（教義・思想）
第4回	キリスト教 1（歴史）
第5回	キリスト教 2（教義・思想）
第6回	イスラム教 1（歴史）
第7回	イスラム教 2（教義・思想）
第8回	ヒンドゥー教 1（歴史）
第9回	ヒンドゥー教 2（教義・思想）
第10回	仏教 1（歴史）
第11回	仏教 2（教義・思想）
第12回	神道 1（歴史）
第13回	神道 2（教義・思想）
第14回	科学と宗教 1（キリスト教）
第15回	科学と宗教 2（仏教）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

講義中に紹介した参考書等を用いて復習する。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 細野邦子

授業の概要

「宗教とは、言葉では言い尽くせない信仰体験を、信者同志伝え合うためのシンボルや比喩だらけの言葉に他ならない」とある宗教学者はいう。本講義では、それらの「言葉」を学び、諸宗教の相違性や共通性を理解し、人類の心に育まれてきた宗教について考える手がかりとしたい。

到達目標

宗教に対するバイアスを取り除き、科学的に宗教現象を理解する。

評価方法

レポート等（40%）および定期試験（60%）による総合評価。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション
第2回	宗教学への招待
第3回	祈り
第4回	儀礼
第5回	祭り
第6回	修行と戒律
第7回	神話
第8回	死後の世界
第9回	シャマニズム
第10回	聖地と巡礼
第11回	宗教学への接近
第12回	宗教団体の多様性
第13回	現代日本の宗教
第14回	科学と宗教
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教科書を予習する。

教科書

石井研士著『プレステップ宗教学＜第3版＞』，弘文堂，2020 ISBN978-4-335-00152-9

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,産,生
単位数	2．0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

オリエンテーション：言語学とは

言語学概論（1）ソシール以前とソシールの言語学 レポートⅠ「ソシールの言語学」

言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）

言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ）レポートⅡ「構造主義の言語学」

言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷

言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」

社会と言語の関係

言語の接触と選択（1）語種

言語の接触と選択（2）ことばの選択

ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」

コミュニケーション（1）定義・性質

コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション

コミュニケーション（3）コンテキスト

コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」

言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・ 配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを 5 回出題する。
- ・ 授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をノートにまとめる。
- ・ 授業内容を理解しノートにまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,産,生
単位数	2．0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

オリエンテーション：言語学とは

言語学概論（1）ソシール以前とソシールの言語学 レポートⅠ「ソシールの言語学」

言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）

言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ）レポートⅡ「構造主義の言語学」

言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷

言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」

社会と言語の関係

言語の接触と選択（1）語種

言語の接触と選択（2）ことばの選択

ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」

コミュニケーション（1）定義・性質

コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション

コミュニケーション（3）コンテキスト

コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」

言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを 5 回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をノートにまとめる。
- ・授業内容を理解しノートにまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

社会と言語（44253）

後期

Society and Language

教養科目

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,産,生
単位数	2. 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1, 2, 3）、期末課題（レポート）70%（到達目標 1, 2, 3）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

オリエンテーション：言語学とは

言語学概論（1）ソシール以前とソシールの言語学 レポートⅠ「ソシールの言語学」

言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）

言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ）レポートⅡ「構造主義の言語学」

言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷

言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」

社会と言語の関係

言語の接触と選択（1）語種

言語の接触と選択（2）ことばの選択

ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」

コミュニケーション（1）定義・性質

コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション

コミュニケーション（3）コンテキスト

コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」

言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計 60 時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを 5 回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をノートにまとめる。
- ・授業内容を理解しノートにまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。

【フィードバック】

- ・各回のシャトルカードで質問等に答えるとともに、重要な点については補足説明を行う。
- ・課題レポートについて、模範解答の呈示と解説を行う。

到達目標

- (1) 心理学の各領域での主要トピックを理解する。
- (2) 自身の生活体験と、講義内容を関連づけることができる。
- (3) 自他への人間理解を深める。

評価方法

シャトルカード（到達目標2・3）、課題レポート（到達目標1・2）と定期試験（到達目標1）で評価を行う。評価は、シャトルカード10%、課題レポート20%、定期試験70%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学に関係する調査・実験への参加を要請する場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー素朴心理学と行動科学としての心理学の 違い 予習：高校までに履修した内容で、心理学に関係すると思われるものを探す 復習キーワード：素朴心理学、イギリス経験主義哲学、構成主義心理学、機能主義心理学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、操作主義
第2回	知覚ー心理的世界と物理的世界 予習：3-19ページを読む。 復習キーワード：知覚的世界、物理的世界、感覚、知覚、図と地、群化の要因、錯覚、知覚的恒常性、注意
第3回	認知ー脳の機能、パターン認知 予習：21-33ページを読む。 復習キーワード：大脳半球機能差、パターン認識、トップダウン／ボトムアップ処理 課題レポート作成。
第4回	学習（1）条件づけのしくみ 予習：41-49ページを読む。 復習キーワード：学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、オペラント条件づけ、強化、消去、般化と分化、弁別、強化スケジュール
第5回	学習（2）学習理論の展開 予習：50-57ページを読む。 復習キーワード：社会的学習、行動療法、認知理論、連合理論 課題レポート作成。

回数	内容
第6回	記憶・思考（１）－記憶のしくみ 予習：34-37、59-73ページを読む。 復習キーワード：感覚貯蔵、短期記憶、長期記憶、リハーサル、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ、チャンク、体制化、忘却 課題レポート作成。
第7回	記憶・思考（１）－問題解決 予習：74-77ページを読む。 復習キーワード：問題解決、学習の構え、ヒューリスティック、アルゴリズム、メタ認知
第8回	発達（１）－発達観の変遷 予習：81-87ページを読む。 復習キーワード：愛着、敏感期、マターナル・ディプリベーション、野性児、遺伝的要因、環境的要因、相互作用
第9回	発達（２）－さまざまな発達課題 予習：88-95ページを読む。 復習キーワード：象徴遊び、自己中心性、前／具体的／形式的操作期、思春期、第二反抗期、自己像、自我同一性、モラトリアム、ライフ・サイクル、エディプス・コンプレックス 課題レポート作成。
第10回	動機づけ・情緒（１）－動機づけの種類 予習：97-103ページを読む。 復習キーワード：動機、誘因、一時的／二次的動機、内発的／外発的動機、ホメオスタシス、社会的動機、葛藤、欲求不満、自己実現
第11回	動機づけ・情緒（２）－動機づけ水準の変動（原因帰属など） 予習：104-111ページを読む。 復習キーワード：学習性無力感、原因帰属、自己効力感、ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動の認知説 課題レポート作成。
第12回	パーソナリティ（１）－こころの構造 予習：116-123ページを読む。 復習キーワード：イド、自我、超自我、リビドー、意識、無意識、集団的無意識、アニマ／アニムス、性格類型、性格特性
第13回	パーソナリティ（２）－適応 予習：124-131ページを読む。 課題レポート作成。 復習キーワード：自我防衛機制、コンプレックス
第14回	対人行動－対人認知、人間関係の深化 予習：152-167ページを読む。 復習キーワード：印象形成、認知的バランス理論、自己呈示、自己開示、説得、リアクタンス理論、ノンバーバル・コミュニケーション
第15回	集団と社会－集団の構造と機能 予習：169-185ページを読む。 復習キーワード：リーダーシップ、PM理論、集団思考、集団決定、社会的手抜き、集団規範、集団凝集性、集団モラル 課題レポート作成。

授業外学習

学習時間の目安：予習・復習をあわせて各回４時間

予習：教科書の該当ページを読み、概略をつかむ。キーワードについて調べておく。

復習：それぞれのキーワードを正しく説明することができるようにする。

各単元ごとに、指定したキーワードをもとに概念間の関連性とそれらの共通点・相違点を理解してまとめて、課題レポートを作成する。

教科書

心理学ナビゲータ Ver.2|神田義浩他|北大路書房|978-4-7628-2749-5

参考書

適宜案内する。

備考

Psychology

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。

【フィードバック】

- ・各回のシャトルカードで質問等に答えるとともに、重要な点については補足説明を行う。
- ・課題レポートについて、模範解答の呈示と解説を行う。

到達目標

- (1) 心理学の各領域での主要トピックを理解する。
- (2) 自身の生活体験と、講義内容を関連づけることができる。
- (3) 自他への人間理解を深める。

評価方法

シャトルカード（到達目標2・3）、課題レポート（到達目標1・2）と定期試験（到達目標1）で評価を行う。評価は、シャトルカード10%、課題レポート20%、定期試験70%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学に関係する調査・実験への参加を要請する場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー素朴心理学と行動科学としての心理学の 違い 予習：高校までに履修した内容で、心理学に関係すると思われるものを探す 復習キーワード：素朴心理学、イギリス経験主義哲学、構成主義心理学、機能主義心理学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、操作主義
第2回	知覚ー心理的世界と物理的世界 予習：3-19ページを読む。 復習キーワード：知覚的世界、物理的世界、感覚、知覚、図と地、群化の要因、錯覚、知覚的恒常性、注意
第3回	認知ー脳の機能、パターン認知 予習：21-33ページを読む。 復習キーワード：大脳半球機能差、パターン認識、トップダウン／ボトムアップ処理 課題レポート作成。
第4回	学習（1）条件づけのしくみ 予習：41-49ページを読む。 復習キーワード：学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、オペラント条件づけ、強化、消去、般化と分化、弁別、強化スケジュール
第5回	学習（2）学習理論の展開 予習：50-57ページを読む。 復習キーワード：社会的学習、行動療法、認知理論、連合理論 課題レポート作成。

回数	内容
第6回	記憶・思考（１）－記憶のしくみ 予習：34-37、59-73ページを読む。 復習キーワード：感覚貯蔵、短期記憶、長期記憶、リハーサル、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ、チャンク、体制化、忘却 課題レポート作成。
第7回	記憶・思考（１）－問題解決 予習：74-77ページを読む。 復習キーワード：問題解決、学習の構え、ヒューリスティック、アルゴリズム、メタ認知
第8回	発達（１）－発達観の変遷 予習：81-87ページを読む。 復習キーワード：愛着、敏感期、マターナル・ディプリベーション、野性児、遺伝的要因、環境的要因、相互作用
第9回	発達（２）－さまざまな発達課題 予習：88-95ページを読む。 復習キーワード：象徴遊び、自己中心性、前／具体的／形式的操作期、思春期、第二反抗期、自己像、自我同一性、モラトリアム、ライフ・サイクル、エディプス・コンプレックス 課題レポート作成。
第10回	動機づけ・情緒（１）－動機づけの種類 予習：97-103ページを読む。 復習キーワード：動機、誘因、一時的／二次的動機、内発的／外発的動機、ホメオスタシス、社会的動機、葛藤、欲求不満、自己実現
第11回	動機づけ・情緒（２）－動機づけ水準の変動（原因帰属など） 予習：104-111ページを読む。 復習キーワード：学習性無力感、原因帰属、自己効力感、ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動の認知説 課題レポート作成。
第12回	パーソナリティ（１）－こころの構造 予習：116-123ページを読む。 復習キーワード：イド、自我、超自我、リビドー、意識、無意識、集団的無意識、アニマ／アニムス、性格類型、性格特性
第13回	パーソナリティ（２）－適応 予習：124-131ページを読む。 課題レポート作成。 復習キーワード：自我防衛機制、コンプレックス
第14回	対人行動－対人認知、人間関係の深化 予習：152-167ページを読む。 復習キーワード：印象形成、認知的バランス理論、自己呈示、自己開示、説得、リアクタンス理論、ノンバーバル・コミュニケーション
第15回	集団と社会－集団の構造と機能 予習：169-185ページを読む。 復習キーワード：リーダーシップ、PM理論、集団思考、集団決定、社会的手抜き、集団規範、集団凝集性、集団モラル 課題レポート作成。

授業外学習

学習時間の目安：予習・復習をあわせて各回４時間

予習：教科書の該当ページを読み、概略をつかむ。キーワードについて調べておく。

復習：それぞれのキーワードを正しく説明することができるようにする。

各単元ごとに、指定したキーワードをもとに概念間の関連性とそれらの共通点・相違点を理解してまとめて、課題レポートを作成する。

教科書

心理学ナビゲータ Ver.2|神田義浩他|北大路書房|978-4-7628-2749-5

参考書

適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	21 ～ 18 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 濱坂 渉

授業の概要

芸術の領域の中で、主として第二次世界大戦後(1945~)から現代に至る美術の流れをたどる。現代における美術の変化ははなはだしく、これは近代によって始まる「見ること」の大きな変化と歩みを共にしている。私たちが日頃何気なく体験している日常生活の中の「見ること」－氾濫する映像、絶え間なく変動する社会環境、物理科学的な自然・世界観など－は、ここ100年余りの近・現代の歴史的・社会的変化によって形作られてきたものであり、私たちの感覚は歴史によって規定されているといってよい。そして美術は、こうした私たちの感覚の変化をはっきりと照らし出すものである。

【フィードバック】中間レポート、期末レポートで芸術の変化の動向と質的変容に覚醒すること。

到達目標

- ・現代の美術について積極的に「見ること」を通じて鑑賞できる。
- ・現代の美術の社会的背景や、歴史的に規定された感覚の変化を認識できる。
- ・現代美術史の座標軸を表現と関連して理解できる。

評価方法

中間レポート50%、期末レポート50%

注意事項

授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

授業計画

はじめに-モダニズム表現の確立と抽象のはじまり
イズムの時代-1：表現主義、キュビズム、オルフィスム、イタリア未来派、シュプレマティスム（絶対主義）ロシア構成主義の要約
イズムの時代-2：デ・ステイル、バウハウス、ダダ、シュールレアリスム、新即物主義、形而上絵画、日本の状況要約

第二次世界大戦後の美術-1（1945頃~1960頃）
人間像の再発見と素材表現：具象と抽象のドグマ：人工材料、自然素材 ,アブストラクシオン＝クレアシオン（抽象・創造）、アメリカン・シーン、日本の状況ほか
リアリズムの変容：アメリカ抽象表現主義、アンフォルメル（実存的な抽象）ポップアートのオブジェと情景彫刻、ヌーヴォーリアリズム、資本主義リアリズム
モダニズムの系譜：構成主義-その後：彫刻と絵画の狭間－プライマリー・ストラクチュア,絵画的抽象以後「カラー＝フィールド・ペインティング」「ハード・エッジ絵画」
絵画の仕組み：オブ・アート「シュボール／シュルファス（支持体／表面）」スーパー・リアリズム

第二次世界大戦後の美術-2（1960頃~1980頃）
形式の拡散、あるいは芸術哲学としての作品：ミニマリズム：反イリュージョンとプロセス、コンセプチャル・アート、パフォーマンス・アート、「フルクサス」
自然環境に対する3つの態度：キネティックアート：アースワーク、ランド・アートの功罪、環境と自然回帰
メッセージの多元性とインスタレーション：アルテポーベラ、インスタレーションの冒険、身体性、表現の多様化、新表現主義（ネオ・エクスプレッションizm）
公共芸術と形式の再構築：パブリックアートとサイトスペシフィックワーク、ニュー・ブリティッシュ・スカulpture

アートワールドのグローバル化の時代（1980頃~21世紀）
芸術のサバイバル戦略：グラフィティ・アート、ネオ・ジオ、シュミレーションニズム、マルチカルチュラリズム（多文化主義）メディア・

アート、物語性の追求と映像表現

日本と世界の現状と表現者の同時代性：

総復習、まとめ（期末レポート）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

一週間に4時間以上の自主的学習を必要とする。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～ 3 を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2、3 を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作
第2回	キーボードと英字タイプ
第3回	ローマ字タイプ
第4回	日本語の入力
第5回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第7回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第8回	表計算（1）入力と集計
第9回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第10回	メールの利用
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。
授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～ 3 を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2、3 を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作
第2回	キーボードと英字タイプ
第3回	ローマ字タイプ
第4回	日本語の入力
第5回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第7回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第8回	表計算（1）入力と集計
第9回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第10回	メールの利用
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。
授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

コンピュータリテラシ（99406）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 M
単位数	2. 0 単位
担当教員	 梶浦文夫

授業の概要

「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ための科目群の一つである。

高校時代の情報リテラシー教育を土台として、操作に関して復習するとともに、文章表現、情報デザインなど、情報の中身について学ぶ。

到達目標

- 1 パソコンを使って文章作成、発表資料作成、表やグラフの作成ができる。
- 2 テクニカルライティングの基本を身につけ、情報を分かりやすく表現して伝えることができる。
- 3 表現する内容に応じて、図やイラストや写真を適切に用いることができる。

評価方法

プレゼンテーション 3 0 %（到達目標 1, 2 および 3）、課題レポート 5 0 %（到達目標 1, 2 および 3）および講義に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標 1, 2 および 3）を総合的に評価する。再試験は行わない。

注意事項

1 人1 台の P C で実習できる実習室を使用する。

授業計画

- 1週目：講義の目的、進め方、P C 実習室の利用法、その他注意事項など
- 2週目：テクニカルライティングと事務的な文書
- 3週目：論文、レポートの書き方を学ぶための課題 1
- 4週目：課題 1 の作成と指導
- 5週目：分かりやすい表現としての情報デザイン
- 6週目：図、イラスト、写真の活用
- 7週目：情報デザインを学ぶための課題 2
- 8週目：課題 2 の作成と指導
- 9週目：表計算ソフトを使ったデータの扱い方
- 10週目：簡単なデータのまとめ方とその課題 3
- 11週目：課題 3 の作成と指導
- 12週目：分かりやすく効果的なプレゼンテーション
- 13週目：発表資料の作成
- 14週目：プレゼンテーション
- 15週目：プレゼンテーションと講評

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業時間内には完成できない課題を課するので、授業外の時間を活用して完成させ、それを通じて理解を定着させる。毎回予習と宿題の指示を行う。

教科書

使用しない。（授業中に適宜資料を配布する。）

参考書

非常に多岐にわたるため講義中に紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 W,W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～ 3 を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2、3 を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作
第2回	キーボードと英字タイプ
第3回	ローマ字タイプ
第4回	日本語の入力
第5回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第7回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第8回	表計算（1）入力と集計
第9回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第10回	メールの利用
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。
授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 W,W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～ 3 を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2、3 を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作
第2回	キーボードと英字タイプ
第3回	ローマ字タイプ
第4回	日本語の入力
第5回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第7回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第8回	表計算（1）入力と集計
第9回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第10回	メールの利用
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。
授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

コンピュータリテラシ（99304）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 高木翔土

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1) コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2) パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3) パソコンを用いて、表計算、グラフ作成、医学生物学に関連する統計検定ができる。
- 4) プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5) インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題(以下の4つ)の達成度によって評価する。

- ・ Word：文書作成(到達目標1, 2, 5)
- ・ Excel：表計算とグラフ作成(到達目標1, 3)
- ・ PowerPoint：自己紹介用スライド作成(到達目標1, 4, 5)
- ・ 総合：レポート作成(到達目標1, 2, 3, 5)

注意事項

生命医科学科 1 年次必修科目であり、臨床検査技師国家試験の一部に対応している。

授業計画

- 1 講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法、GoogleClassroomについてなど）
- 2 基礎① コンピュータの構造、基本操作、タイピング
- 3 インターネットの活用、利用マナー
- 4 Word 1 文書の体裁、ビジネス文書の作成
- 5 Word 2 表の活用と編集
- 7 Word 3 画像、図の活用と編集
- 8 Excel① データ入力とワークシート編集
- 9 Excel② 表計算、関数の利用
- 10 Excel③ グラフ作成
- 11 Excel④ 統計解析
- 12 PowerPoint① 基本操作
- 13 PowerPoint② 図、表の活用と編集
- 14 Powerpoint③ わかりやすいスライド作成
- 15 セキュリティとトラブルシューティング

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

資料を配布する。

備考

コンピュータリテラシ（99305）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 B
単位数	2. 0 単位
担当教員	 織田樹紀

授業の概要

日常、利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。指定のテキストに従い文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作を体系的に学ぶ。さらに収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成をする方法を習得します。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、表とグラフの問題点・改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて発表する演習を行います。

到達目標

- ・コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する。
- ・コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
- ・インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
- ・文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
- ・表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
- ・プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
- ・学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウィルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
- ・画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

- ・期末定期試験は実施しない。
- ・授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%
- ・授業時間中に実施する小テスト：25%
- ・グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%

注意事項

USBメモリを準備しておくこと。そのUSBメモリに学生番号・氏名を記入しておく

授業計画

- 1.インターネットの活用 インターネットの基本知識としくみ
- 2.コンピュータの構造と基本操作とタイピング
- 3.Word(1)文書入力
- 4.Word(2)表現力を向上させよう
- 5.Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について
- 6.Excel(1)データ入力とワークシート編集
- 7.Excel(2)データベースの活用
- 8.Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
- 9.Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点
- 10.PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識

- 11.PowerPoint(2)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 - 12.セキュリティと情報倫理(1)サイバー犯罪、コンピューターウィルスとセキュリティ
 - 13.セキュリティと情報倫理(2)知的財産権と保護
 - 14.講義の振り返りとグループワーク結果のプレゼンテーション準備
 - 15.グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

- ・合計60時間を目安とする。
 - ・こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること
 - ・個人課題・グループ課題を出題するので取り組み、提出すること
 - ・タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に取り組むこと（少なくとも毎回10分～15分程度）
-

教科書

情報リテラシー アプリ編<改訂版> Windows 10・Office 2016対応 FOM出版
ISBNコード:978-4-86510-347-2

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

コンピュータリテラシ（99301）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 K
単位数	2. 0 単位
担当教員	 織田樹紀

授業の概要

日常、利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。指定のテキストに従い文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作を体系的に学ぶ。さらに収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成をする方法を習得します。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、表とグラフの問題点・改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて発表する演習を行います。

到達目標

- ・コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する
- ・コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
- ・インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
- ・文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
- ・表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
- ・プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
- ・学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウィルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
- ・画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

- ・期末定期試験は実施しない。
- ・授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%
- ・授業時間中に実施する小テスト：25%
- ・グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%

注意事項

USBメモリを準備しておくこと。そのUSBメモリに学生番号・氏名を記入しておく

授業計画

- 1.インターネットの活用 インターネットの基本知識としくみ
- 2.コンピュータの構造と基本操作とタイピング
- 3.Word(1)文書入力
- 4.Word(2)表現力を向上させよう
- 5.Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について
- 6.Excel(1)データ入力とワークシート編集
- 7.Excel(2)データベースの活用
- 8.Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
- 9.Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点
- 10.PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識

- 11.PowerPoint(2)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 - 12.セキュリティと情報倫理(1)サイバー犯罪、コンピューターウィルスとセキュリティ
 - 13.セキュリティと情報倫理(2)知的財産権と保護
 - 14.講義の振り返りとグループワーク結果のプレゼンテーション準備
 - 15.グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

- ・合計60時間を目安とする。
 - ・こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること
 - ・個人課題・グループ課題を出題するので取り組み、提出すること
 - ・タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に取り組むこと（少なくとも毎回10分～15分程度）
-

教科書

情報リテラシー アプリ編<改訂版> Windows 10・Office 2016対応 FOM出版
ISBNコード:978-4-86510-347-2

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

コンピュータリテラシ（99311）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 高木翔土

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1) コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2) パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3) パソコンを用いて、表計算、グラフ作成、医学生物学に関連する統計検定ができる。
- 4) プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5) インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題(以下の4つ)の達成度によって評価する。

- ・ Word：文書作成(到達目標1, 2, 5)
- ・ Excel：表計算とグラフ作成(到達目標1, 3)
- ・ PowerPoint：自己紹介用スライド作成(到達目標1, 4, 5)
- ・ 総合：レポート作成(到達目標1, 2, 3, 5)

注意事項

生命医科学科 1 年次必修科目であり、臨床検査技師国家試験の一部に対応している。

授業計画

- 1 講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法、GoogleClassroomについてなど）
- 2 基礎① コンピュータの構造、基本操作、タイピング
- 3 インターネットの活用、利用マナー
- 4 Word 1 文書の体裁、ビジネス文書の作成
- 5 Word 2 表の活用と編集
- 7 Word 3 画像、図の活用と編集
- 8 Excel① データ入力とワークシート編集
- 9 Excel② 表計算、関数の利用
- 10 Excel③ グラフ作成
- 11 Excel④ 統計解析
- 12 PowerPoint① 基本操作
- 13 PowerPoint② 図、表の活用と編集
- 14 Powerpoint③ わかりやすいスライド作成
- 15 セキュリティとトラブルシューティング

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

資料を配布する。

備考

コンピュータリテラシ（99401）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	26 ～ 22 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

日常生活のあらゆる場面で遭遇するさまざまなコンピュータシステムの基本構成要素となっているパーソナルコンピュータ（略称パソコン）の仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

具体的には、大学生としての学びについて理解した上で、学習・研究などの知的活動にコンピュータを活用するための理論と方法を学び、大学での学びの基礎となる資質能力を身につける。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワーク中心で学んでいく。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. タイピングを含めた情報機器の操作について自分自身でできることが増える。
2. 大学生としての学びについて理解し、学びのために情報機器を利用できる。
3. 文書作成ソフト・プレゼンテーションソフトの特徴を理解して、レポートや発表資料の作成に利用できる。
4. セキュリティを理解し、気をつけることの大切さがわかる。

評価方法

- ・定期試験100%(到達目標の1、2、3、4を評価)お重みで判定する。ただし、未提出のレポート(品質が低いレポートを含む)があったり、プレゼンテーションを行っていない回(品質が低いプレゼンテーションを含む)がある場合には、減点の対象となる。
- ・定期試験は「授業の振り返り」として実施する。内容は「自分が参加したチームの発表内容や他のチームの発表内容、課題への取り組みやグループワークでの貢献度、授業での発言」など、アピールポイントを論述するものとする。日頃の学修成果を試す試験となっているので、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、および、時間外学習に取り組むこと。

注意事項

- ・授業はMacがある5号棟5階5519共同実験室で行う。入室には学生証が必要となるので、忘れないこと。
- ・USBメモリを持参すること。USBメモリには学生番号・氏名を記入し、忘れたり、無くさないように注意すること。
- ・他のグループのメンバーに大きな迷惑となるので、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。
- ・記録に残すため、発表会等の授業風景を撮影することがある。(個人が特定されないように配慮するが、写りたくない人は事前に連絡をすること)

授業計画

回数	内容
第1回	授業の進め方、機材の使い方の説明、自己紹介文作成
第2回	自己紹介によるプレゼンテーションの練習、体験
第3回	大学生としての学びとテキスト入力
第4回	大学生としての学びとテキスト入力についてのグループワーク
第5回	大学生としての学びとテキスト入力についてのグループワークの結果の発表

回数	内容
第6回	文書作成ソフトの基礎
第7回	文書作成ソフトを使ったグループワーク
第8回	文書作成ソフトを使ったグループワークの結果の発表1
第9回	文書作成ソフトを使ったグループワークの結果の発表2
第10回	表計算ソフトの基礎
第11回	プレゼンテーションソフトの基礎とセキュリティと情報倫理・ネットマナー
第12回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワーク(セキュリティと情報倫理・ネットマナー)
第13回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワークの結果のプレゼンテーション1
第14回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワークの結果のプレゼンテーション2
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、定期試験でアピールできるようにする。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、グループワークのために授業時間外に5号館5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」、世界思想社、2018、978-479-071-707-2

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

コンピュータリテラシ（99404）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 M
単位数	2. 0 単位
担当教員	 梶浦文夫

授業の概要

「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ための科目群の一つである。

高校時代の情報リテラシー教育を土台として、操作に関して復習するとともに、文章表現、情報デザインなど、情報の中身について学ぶ。

到達目標

- 1 パソコンを使って文章作成、発表資料作成、表やグラフの作成ができる。
- 2 テクニカルライティングの基本を身につけ、情報を分かりやすく表現して伝えることができる。
- 3 表現する内容に応じて、図やイラストや写真を適切に用いることができる。

評価方法

プレゼンテーション 3 0 %（到達目標 1, 2 および 3）、課題レポート 5 0 %（到達目標 1, 2 および 3）および講義に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標 1, 2 および 3）を総合的に評価する。再試験は行わない。

注意事項

1 人 1 台の P C で実習できる実習室を使用する。

授業計画

- 1 週目：講義の目的、進め方、P C 実習室の利用法、その他注意事項など
- 2 週目：テクニカルライティングと事務的な文書
- 3 週目：論文、レポートの書き方を学ぶための課題 1
- 4 週目：課題 1 の作成と指導
- 5 週目：分かりやすい表現としての情報デザイン
- 6 週目：図、イラスト、写真の活用
- 7 週目：情報デザインを学ぶための課題 2
- 8 週目：課題 2 の作成と指導
- 9 週目：表計算ソフトを使ったデータの扱い方
- 10 週目：簡単なデータのまとめ方とその課題 3
- 11 週目：課題 3 の作成と指導
- 12 週目：分かりやすく効果的なプレゼンテーション
- 13 週目：発表資料の作成
- 14 週目：プレゼンテーション
- 15 週目：プレゼンテーションと講評

授業外学習

学習時間の目安：合計 60 時間

授業時間内には完成できない課題を課するので、授業外の時間を活用して完成させ、それを通じて理解を定着させる。毎回予習と宿題の指示を行う。

教科書

使用しない。（授業中に適宜資料を配布する。）

参考書

非常に多岐にわたるため講義中に紹介する。

備考

社会と倫理 (99302)

前期

Social and Ethics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危,セ
単位数	2. 0 単位
担当教員	 唐川千秋  奥本寛  梶浦文夫  妹尾護  水田直美  小出肇  水野恭志  川上幸之介  山崎功晴  泉礼司  岡田誠剛  坂本尚史  徳田美智  高橋良平

授業の概要

教養科目のうち、「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ことを目的とする導入科目の1つにあたる。

現代社会で生活していくなかで直面するであろう、さまざまな倫理的課題について、自分の生き方や価値観に照らし合わせながら、どのように解決していくのかを考えることで、社会の一員として必要な、確固とした倫理観・態度を形成することを目的とする。

到達目標

- (1) 現代社会に存在するさまざまな倫理的な問題について多面的に考え、自分の言葉で表現することができる。
- (2) 根拠に基づいて、自分の意見を主張したり、他人の意見を評価・批判 (critical thinking) したりすることができる。

評価方法

各回の小テストないしは小レポート（3点×15回＝45点）（到達目標1）、および最終レポート（55点）（到達目標2）で評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

履修登録者数が教室収容定員数を超える場合、2週目からは水曜日1時限に2クラスを同時開講する。クラス分けについては別途指示する。

授業計画

【Aクラス】

- 1週目：オリエンテーション（動物生命科学科・唐川）
- 2週目：芸術と倫理（1） 映画・テレビ・ITの倫理（メディア映像学科・小出）
- 3週目：芸術と倫理（2） PC（ポリティカル・コレクトネス）と表現の変遷・自由（メディア映像学科・水田）
- 4週目：芸術と倫理（3） 現代アートと倫理（デザイン芸術学科・川上）
- 5週目：企業と倫理（1） コーポレートガバナンスと企業の社会的責任（危機管理学科・徳田）
- 6週目：企業と倫理（2） 経世済民（経済）の歴史と倫理（危機管理学科・高橋）
- 7週目：犯罪被害者支援の現状と課題（危機管理学科・坂本／外部講師）
- 8週目：科学技術と倫理（1） 責任ある研究活動（生命科学科・奥本）
- 9週目：科学技術と倫理（2） 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値（生命科学科・山崎）
- 10週目：科学技術と倫理（3） 科学技術の発展と環境破壊（健康科学科・妹尾）
- 11週目：生命と倫理（1） ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント（動物生命科学科・唐川）
- 12週目：生命と倫理（2） 人間の尊厳、尊厳死、脳死と臓器移植（健康科学科・水野／外部講師）
- 13週目：生命と倫理（3） 生殖医療の現状と問題点（生命医科学科・泉）
- 14週目：自然環境と倫理（1） 再生医療・遺伝子診断・優生学の問題（生命医科学科・岡田）
- 15週目：自然環境と倫理（2） 動物の福祉（動物生命科学科・梶浦）

【Bクラス】

1週目：オリエンテーション（動物生命科学科・唐川）

2週目：科学技術と倫理（1） 責任ある研究活動（生命科学科・奥本）

3週目：科学技術と倫理（2） 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値（生命科学科・山崎）

4週目：科学技術と倫理（3） 科学技術の発展と環境破壊（健康科学科・妹尾）

5週目：芸術と倫理（1） 映画・テレビ・ITの倫理（メディア映像学科・小出）

6週目：芸術と倫理（2） PC（ポリティカル・コレクトネス）と表現の変遷・自由（メディア映像学科・水田）

7週目：芸術と倫理（3） 現代アートと倫理（デザイン芸術学科・川上）

8週目：生命と倫理（1） ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント（動物生命科学科・唐川）

9週目：生命と倫理（2） 人間の尊厳、尊厳死、脳死と臓器移植（健康科学科・水野・外部講師）

10週目：生命と倫理（3） 生殖医療の現状と問題点（生命医科学科・泉）

11週目：自然環境と倫理（1） 再生医療・遺伝子診断・優生学の問題（生命医科学科・岡田）

12週目：自然環境と倫理（2） 動物の福祉（動物生命科学科・梶浦）

13週目：企業と倫理（1） コーポレートガバナンスと企業の社会的責任（危機管理学科・徳田）

14週目：企業と倫理（2） 経世済民（経済）の歴史と倫理（危機管理学科・高橋）

15週目：犯罪被害者支援の現状と課題（危機管理学科・坂本／外部講師）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

各回のトピックについて、参考図書・資料をもとに省察的な思考や自己モニタリングを行い、「何が問題となっているのか」「自分は、どのような論拠に基づいてどのように考えるのか」を自分の言葉で表現できるようにする。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 濱坂 渉

授業の概要

芸術の領域の中で、主として第二次世界大戦後(1945~)から現代に至る美術の流れをたどる。現代における美術の変化ははなはだしく、これは近代によって始まる「見ること」の大きな変化と歩みを共にしている。私たちが日頃何気なく体験している日常生活の中の「見ること」－氾濫する映像、絶え間なく変動する社会環境、物理科学的な自然・世界観など－は、ここ100年余りの近・現代の歴史的・社会的変化によって形作られてきたものであり、私たちの感覚は歴史によって規定されているといつてよい。そして美術は、こうした私たちの感覚の変化をはっきりと照らし出すものである。

【フィードバック】中間レポート、期末レポートで芸術の変化の動向と質的変容に覚醒すること。

到達目標

- 1.現代の美術について積極的に「見ること」を通じて鑑賞できる。
- 2.現代の美術の社会的背景や、歴史的に規定された感覚の変化を認識できる。
- 3.現代美術史の座標軸を表現と関連して理解できる。

評価方法

中間レポート50%、期末レポート50%

注意事項

授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

授業計画

はじめに-モダニズム表現の確立と抽象のはじまり

イズムの時代-1：表現主義、キュビズム、オルフィスム、イタリア未来派、シュプレマティスム（絶対主義）ロシア構成主義の要約

イズムの時代-2：デ・ステイル、バウハウス、ダダ、シュールレアリスム、新即物主義、形而上絵画、日本の状況要約

第二次世界大戦後の美術-1（1945頃~1960頃）

人間像の再発見と素材表現：具象と抽象のドグマ：人工材料、自然素材 ,アブストラクシオン＝クレアシオン（抽象・創造）、アメリカン・シーン、日本の状況ほか

リアリズムの変容：アメリカ抽象表現主義、アンフォルメル（実存的な抽象）ポップアートのオブジェと情景彫刻、ヌーヴォーリアリズム、資本主義リアリズム

モダニズムの系譜：構成主義-その後：彫刻と絵画の狭間－プライマリー・ストラクチュア,絵画的抽象以後「カラー＝フィールド・ペインティング」「ハード・エッジ絵画」

絵画の仕組み：オブ・アート「シュポール／シュルファス（支持体／表面）」スーパー・リアリズム

第二次世界大戦後の美術-2（1960頃~1980頃）

形式の拡散、あるいは芸術哲学としての作品：ミニマリズム：反イリュージョンとプロセス、コンセプチャル・アート、パフォーマンス・アート、「フルクスス」

自然環境に対する3つの態度：キネティックアート：アースワーク、ランド・アートの功罪、環境と自然回帰

メッセージの多元性とインスタレーション：アルテポーベラ、インスタレーションの冒険、身体性、表現の多様化、新表現主義（ネオ・エクスプレッショニズム）

公共芸術と形式の再構築：パブリックアートとサイトスペシフィックワーク、ニュー・プリティッシュ・スカルプチュア

アートワールドのグローバル化の時代（1980頃~21世紀）

芸術のサバイバル戦略：グラフィティ・アート、ネオ・ジオ、シュミレーションニズム、マルチカルチュラルイズム（多文化主義）メディア・アート、物語性の追求と映像表現 日本と世界の現状と表現者の同時代性について

総復習、まとめ（期末レポート）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
一週間に4時間以上の自主的学習を必要とする。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 後藤秀典  磯谷晴弘  松岡智子  近藤千晶  田丸稔  クリスウォルトン  井上昌崇  張慶南  柳田宏治  吉田磨希  森山知己  川上幸之介  正宗幸子

授業の概要

人々の暮らしや社会において芸術の果たす役割は大きく、様々な芸術活動が暮らしや社会に影響を与える場面が増えている。このような芸術の状況を概観し、その価値や可能性を理解することを目的とする。講義は、芸術の中でも特にデザイン、美術、工芸の領域を中心に、これら芸術諸分野の専門家によるオムニバス形式とし、それぞれの分野における暮らしと芸術の関係について歴史や今日の状況、未来への課題等を事例研究を交えて議論する。

到達目標

- 1 暮らしの中に存在する芸術について、歴史や今日の状況、未来への課題等について理解できるようになる。
- 2 人間の本質を理解し、人間性を尊重できる。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢（20％）、講義中の小テスト（80％）を基準として総合的に評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

- 1.オリエンテーション：学科長（後藤）より
- 2.日本美術史について：松岡
- 3.西洋美術について：ゲストスピーカー
- 4.美術系1（絵画について）：近藤（千）
- 5.美術系2（日本画について）：森山
- 6.美術系3（彫刻について）：田丸
- 8.美術系4（現代アートについて）：川上
- 7.工芸系1（ガラス工芸について）：磯谷
- 9.工芸系2（ガラス工芸について）：張
- 10.工芸系3（陶芸について）：井上
- 11.デザイン系1（プロダクトデザインについて）：柳田
- 12.デザイン系2（イラストレーションについて）：ウォルトン
- 13.デザイン系3（イラストレーションについて）：吉田
- 14.デザイン系4（ファッションデザインについて）：正宗
- 15.デザイン系5（ビジュアルデザインについて）：後藤

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

シラバスをチェックし、次の講義に備えて不明な点や質問事項を挙げる。受講後は、講義内容と身の回りの芸術作品について検討する。詳細は授業中に説明する。

教科書

使用しない。適宜プリントなどを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 21 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	近藤研二 田丸稔 土井原由子 水田直美 馬場始三 小出肇 中川浩一 丸田昌宏 大屋努 松田博義

授業の概要

今日の情報技術の進化・普及は留まることを知らない。情報ネットワークは、私たちの生活の基盤となるモノや空間にまで深く浸透し、携帯やパソコンなどデジタル化されたメディアなしの生活はもはや想像できない。この授業では、デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像、放送の領域を中心に、それぞれの分野における歴史を踏まえ、今日の状況や未来への課題について、オムニバス形式で概説する。

到達目標

1 デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像の領域についての幅広い知識を修得し、説明できる。

評価方法

- ・到達目標1は授業に取り組む態度・姿勢、授業内で行う小レポートにより評価し総合計60点以上を合格とする。
- ・評価の比率は、態度・姿勢40%、レポート60%を基準とする。

注意事項

- ・必ず、前期登録期間中に履修登録をしてください。後期での新規な登録追加はできません。
- ・教室の収容定員を超えるときは、前期期間中に履修許可者の選定を行います。その際、1年次生の履修を優先します。選定の日時については別途お知らせしますので、掲示板やポータルサイトに注意しておいてください。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス：近藤研二
第2回	Webデザイン（沿革と実例）：近藤 研二
第3回	1.アプリ（現状と実例）：馬場 始三
第4回	2.アプリ（開発言語）：馬場 始三
第5回	ゲーム（現状と実例・制作プロセス）：大屋 努
第6回	1.マンガ（歴史と作家）：松田博義
第7回	2.マンガ（実例）：松田博義
第8回	アニメ（アニメーション表現のエッジな領域）：中川 浩一
第9回	1.コミックイラスト（現状と実例）：土井原 由子
第10回	2.コミックイラスト（キャラクターデザイン、立体、アートというキーワードから）：田丸稔
第11回	映像（実例と制作プロセス）：丸田 昌宏

回数	内容
第12回	放送 (映像産業とCM) : 丸田 昌宏
第13回	言語表現 (コンテンツの言語表現) : 水田 直美
第14回	映画 (時代を反映した作品) : 小出 肇 「エンターテインメント映像とドキュメンタリー映像との比較と重要性」
第15回	まとめ : 小出 肇 「デジタル・AI的映像と アナログ思考的映像との比較と共存」

授業外学習

学習時間の目安 : 合計 6 0 時間

デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像の領域についての情報を、インターネットなどを活用して事前に収集しておくこと。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（１）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（２）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（３）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（４）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（５）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（１）語種
第9回	言語の接触と選択（２）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（１）定義・性質
第12回	コミュニケーション（２）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（３）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（４）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をノートにまとめる。
- ・授業内容を理解しノートにまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（１）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（２）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（３）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（４）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（５）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（１）語種
第9回	言語の接触と選択（２）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（１）定義・性質
第12回	コミュニケーション（２）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（３）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（４）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をノートにまとめる。
- ・授業内容を理解しノートにまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（１）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（２）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（３）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（４）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（５）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（１）語種
第9回	言語の接触と選択（２）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（１）定義・性質
第12回	コミュニケーション（２）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（３）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（４）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をノートにまとめる。
- ・授業内容を理解しノートにまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 時任英人

授業の概要

政治学が直面する諸問題の解決に向けて主体的に学ぶ態度や姿勢を学ぶ科目である。日本と世界が直面する日々の諸問題に関する解決法を発見し、多くの人達の考えや行動について理解を深め、自律的に自分でそれぞれについて解決法を身につけるのが重要である。これからどんな地域で生活しようとも自分を取り巻く情勢についての理解を持ち、その地域が直面する諸問題について周りの人たちに説明できその解決法を政治的に創出し、地域にとって必要とされる社会人の育成を目的としている。

到達目標

- 1 政治的現象の一つ一つがどのような意義を有するかを理解できる。
- 2 日々の政治現象を理解するうえでの政治的思考ができる。
- 3 日々の政治的事件を新聞やニュースで理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標1、3を評価）、定期試験50%（到達目標1、2、3を評価）によって成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

日々の新聞を読むことは義務であり、定期的に新聞・ニュースの内容を整理して発表してもらうことにする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（政治とは何か？）
第2回	政治学の基本的性格
第3回	政治体系と政治過程
第4回	人間の政治的性格についてI（政治的人間）
第5回	人間の政治的性格についてII（政治権力と人間）
第6回	人間と集団（政治的リーダーシップ）
第7回	政策と政策過程
第8回	民主政治I（ポリアーキーを中心として）
第9回	民主政治II（民主政治の経済的・社会的条件）
第10回	民主政治III(日本の民主主義について)
第11回	国際政治とは何か
第12回	政治難民問題とは何か
第13回	グローバリゼーションと現実主義的国際政治観
第14回	各自の考えを発表
第15回	総まとめ(反実仮想の勧め)

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・ 授業内容を復習し、次回の講義の内容について関連する専門用語を調べて理解しておくこと。
- ・ 講義の最後には、理解した内容について、100字ほどのレポートを出題する。
- ・ 全体として4000 字程度のレポートを提出するので、講義の全体的な流れを、復習をしておくこと。

教科書

加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤恭彦著『現代政治学 第4版』有斐閣 978-4641124554

参考書

講義で適宜紹介する。

備考

日本国憲法（99101）

前期

The Constitution of Japan

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 足守浩

授業の概要

現行憲法の前身である大日本帝国憲法と現行の日本国憲法を比較し、両者の違いを明らかにすることによって、日本国憲法の特徴を浮き彫りにしたい。さらに、日本国憲法の理念と現実との間のギャップにも目を向け、そこから生じてくる日本国憲法の今日的課題についても考察していきたい。その際、最新の最高裁判所の憲法判断にもふれることにする。

到達目標

将来、憲法改正問題に直面したときに、何がわが国の憲法として必要なのかを、自分で判断できるような憲法観をもつことができるようになる。

評価方法

講義内容を十分に消化吸収した上で、自分の考えを確立できることを評価する。定期試験（60％）、小テスト（30％）、授業に取り組む姿勢（10％）により評価する。

注意事項

日々、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等でニュース情報に接すること。

授業計画

回数	内容
第1回	大日本帝国憲法成立の経緯
第2回	日本国憲法成立史
第3回	日本国憲法の特徴
第4回	国民主権
第5回	戦争の放棄
第6回	基本的人権の尊重
第7回	社会権
第8回	三権分立
第9回	国会
第10回	議院内閣制
第11回	司法
第12回	財政
第13回	地方自治
第14回	憲法改正について
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- ・ 予習の時には、憲法の各条文に目を通し、復習の時には、講義ノートと教科書の関連箇所を精読すること。

教科書

小林 武著『ようこそ日本国憲法へ(法学書院)』[第3版] ISBN978-4-587-03237-1

参考書

適宜、講義中に指示する。

備考

日本国憲法（99151）

後期

The Constitution of Japan

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 足守浩

授業の概要

現行憲法の前身である大日本帝国憲法と現行の日本国憲法を比較し、両者の違いを明らかにすることによって、日本国憲法の特徴を浮き彫りにしたい。さらに、日本国憲法の理念と現実との間のギャップにも目を向け、そこから生じてくる日本国憲法の今日的課題についても考察していきたい。その際、最新の最高裁判所の憲法判断にもふれることにする。

到達目標

将来、憲法改正問題に直面したときに、何がわが国の憲法として必要なのかを、自分で判断できるような憲法観をもつことができるようになる。

評価方法

講義内容を十分に消化吸収した上で、自分の考えを確立できることを評価する。定期試験（60％）、小テスト（30％）、授業に取り組む姿勢（10％）により評価する。

注意事項

日々、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等でニュース情報に接すること。

授業計画

回数	内容
第1回	大日本帝国憲法成立の経緯
第2回	日本国憲法成立史
第3回	日本国憲法の特徴
第4回	国民主権
第5回	戦争の放棄
第6回	基本的人権の尊重
第7回	社会権
第8回	三権分立
第9回	国会
第10回	議院内閣制
第11回	司法
第12回	財政
第13回	地方自治
第14回	憲法改正について
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- ・ 予習の時には、憲法の各条文に目を通し、復習の時には、講義ノートと教科書の関連箇所を精読すること。

教科書

小林 武著『ようこそ日本国憲法へ(法学書院)』[第3版] ISBN978-4-587-03237-1

参考書

適宜、講義中に指示する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

刑事法と民事法の内容および法目的が違うことを理解し、社会生活における法律の重要性や裁判所の役割などの幅広い知識を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、刑事裁判の仕組み、裁判員制度の意義、刑事政策の目的など日常生活に密接に関係するものから、広く市民生活全般に関係するプライバシー権（個人情報）の尊重、基本的人権の思想、世界的に変遷しつつある家族関係の変化などを通じて現代社会の現状がどうなっているのかを知るようにする。自分独自の視点を持って問題の指摘と意見が言えることが大切なので、毎回、小プリントを配布して感想と質問を書いてもらう。次回の授業でそれに対する意見を述べたり返答をすることによって授業へのフィードバックを明確にする。

到達目標

- 1）刑事法と民事法とが区別出来るようになる。
- 2）裁判制度について理解する。
- 3）基本的人権について理解する。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合20%

授業内容への積極的な参加（毎回の感想）：評価割合20%

確認チェック・テスト（3回を予定）：評価割合30%

論述：評価割合30%

*合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第1回 法学の進め方について説明する。まず法学の基本原則を学び、その後到大卒のテーマとして4つの分野を学ぶ。各テーマ毎の特徴について説明するので、法学で何を学び、何を身につけるのかを理解する。毎回配布して回収する意見・質問用紙の使い方について説明するので、これを積極的に活用出来るようになる。

第2回 法学の基礎として裁判制度と法体系について学ぶ。法の一般原則や裁判制度について理解出来るようになる。意見・質問用紙への回答を行うので、授業内容の理解が深まることを確認出来る。

第3回 刑事法と民事法の区別について学ぶ。民事法の目的と内容および刑事法の目的と内容について理解出来るようになる。

第4回 刑事法（1）：刑事法について学ぶ。この大卒のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては裁判員制度について学ぶので、民間人を登用する参審制と陪審制の違いを理解出来るようになる。

第5回 刑事法（2）：刑事法についての2回目。今回の小テーマとしては刑事手続きと刑罰の種類について学ぶので、刑罰を科す目的を理解出来るようになる。

第6回 刑事法（3）：刑事法についての3回目。今回の小テーマとしては罪刑法定主義と犯罪報道について学ぶので、警察に逮捕されると未だ起訴されていないのに犯罪者扱いされる日本の報道の慣行について理解出来るようになる。

第7回 刑事法（4）：刑事法についての4回目。今回の小テーマとしては少年法について学ぶので、未成年者には原則として刑罰が科されないことを理解出来るようになる。

第8回 ネット社会とマスコミ報道（1）：ネット社会の特徴について学ぶ。この大卒のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては高度情報化社会の特質と将来像について学ぶので、これからの社会にとっての「情報」の意味について理解出来るようになる。

第9回 ネット社会とマスコミ報道（2）：ネット社会の特徴についての2回目。今回の小テーマとしては報道の自由とプライバシー権について学ぶので、なぜ個人情報保護法が成立し、しかし、現実には個人情報はどう扱われようとしているのかについて理解出来るようになる。

第10回 ネット社会とマスコミ報道（3）：ネット社会の特徴についての3回目。今回の小テーマとしてはマスコミ報道がなぜ陳腐化したかに

ついて学ぶので、ネット社会が情報独占を解き、個人でも自由に発信出来るようになったことによる長所と短所について理解・説明出来るようになる。

第11回 ネット社会とマスコミ報道（４）：ネット社会の特徴についての４回目。今回の小テーマとしてはビッグデータと個人情報について学ぶので、今日の社会における「個人情報」が飛躍的に重要になった現実を理解出来るようになる。

第12回 家族制度の変化（１）：現実問題としての家族制度の変化について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計４回を予定しており、今回の小テーマとしては20世紀を通じて徐々に進展してきた伝統的な家族関係の崩壊と再編について学ぶので、今、家庭内で何が起きているのかを理解出来るようになる。

第13回 家族制度の変化（２）：家族制度の変化についての２回目。今回の小テーマとしては婚姻制度の歴史と現状について学ぶので、現代人の意識と法制度が矛盾を起こしていることを理解出来るようになる。

第14回 家族制度の変化（３）：家族制度の変化についての３回目。今回の小テーマとしては親子関係が法律上どう規定されているかについて学ぶので、法的な枠組みと現実の社会がどのように齟齬を起こしているかを理解出来るようになる。

第15回 家族制度の変化（４）：家族制度の変化についての４回目。今回の小テーマとしては国際的な家族制度の変化について学ぶので、世界的な潮流としての家族関係の再編成が起きていることを理解出来るようになる。毎回提出してもらった意見・質問用紙への回答をまとめるので、授業内容の理解が深まる。

授業外学習

第１回 毎回プリントを配布して、論点となるテーマとそれに関連する時事問題を取り上げて学習する。普段聞くニュースと現実の社会が異なる場合も多々あるが、何が問題となっているのか疑問を持つことが大切である。「聞いて覚える」のではなく「考える」ことが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第２回 予習：裁判所の仕組みと裁判の方法について予め自分で調べることが大切である。復習：法の一般原則を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第３回 予習：民意法廷と刑事法廷の違いについて予め自分で調べることが大切である。復習：刑事法と民事法の区別が理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第４回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：裁判員制度の目的と仕組みを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第５回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：刑罰の種類と目的を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第６回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：マスコミ報道が罪刑法定主義に反する場合も多いことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第７回 予習：少年法について予め自分で調べることが大切である。復習：少年事件と成年の事件とは扱いが大きく異なることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第８回 予習：近年のマスコミ報道について予め自分で調べることが大切である。復習：高度情報化社会の特徴を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第９回 予習：日本国憲法に規定される表現の自由について予め自分で調べることが大切である。復習：プライバシー権の意義を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：ネット社会の特徴について予め自分で調べることが大切である。復習：ネット社会の進展に比例してマスコミ報道が陳腐化するようになった経緯を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：ビッグデータとは何かについて予め自分で調べることが大切である。復習：個人情報の集まりであるビッグデータの重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：家族法の規定について予め自分で調べることが大切である。復習：伝統的な家族関係が今日では大きく変化しつつあることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：家族法（婚姻制度）について予め自分で調べることが大切である。復習：婚姻制度の変遷を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第14回 予習：家族法（親子関係）について予め自分で調べることが大切である。復習：親子関係の変化を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：世界的な家族関係の現況を理解し、プリントのテーマをおさらいする。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計 6 0 時間

教科書

毎回、プリントを配布する。

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

Economics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 韓亮

授業の概要

この講義は現代社会の経済事情・経済問題に関心のある学生を対象に経済学の基礎を学ぶ。経済学の基本概念・基礎理論を学ぶことを通じて、経済学的な考え方・経済社会に対する洞察力、判断力を養う。

到達目標

経済学の基礎知識と基本理論を理解する

評価方法

受講態度： 3 0 %

小テスト： 3 0 %

期末テスト： 4 0 %

注意事項

授業中に無用な私語を禁止する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・経済学とは何か？
第2回	経済学の考え方
第3回	経済学の歴史（1）
第4回	経済学の歴史（2）
第5回	経済学の歴史（3）
第6回	ミクロ経済学：需要と供給
第7回	ミクロ経済学：消費者行動と価格メカニズム
第8回	ミクロ経済学：企業
第9回	ミクロ経済学：市場
第10回	ミクロ経済学：労働市場
第11回	マクロ経済学：GDP
第12回	マクロ経済学：貨幣と金融
第13回	マクロ経済学：貿易と為替レート
第14回	マクロ経済学：経済成長
第15回	まとめ

授業外学習

回数	内容
----	----

回数	内容
第1回	特になし
第2回	教科書の序章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第3回	重農主義・重商主義・『国富論』について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第4回	新古典派経済学とケインズ経済学について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第5回	マルクス経済学、中国・旧ソ連について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第6回	教科書の第1章と第2章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第7回	教科書の第3章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第8回	企業について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第9回	教科書の第4章・第5章・第6章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第10回	教科書の第7章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第11回	教科書の第8章・第9章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第12回	教科書の第11章と第12章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第13回	教科書の第13章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第14回	教科書の第14章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（学習時間の目安：4時間）

教科書

中谷 武・中村 保『1からの経済学』碩学舎、2010年。ISBN978-4-502-68080-9

参考書

マンキュー『マンキュー入門経済学』（第2版）東洋経済新報社、2014年。ISBN：9784492314432

伊東元重『入門経済学第4版』日本評論社、2015年。ISBN 978-4-535-55817-5

備考

Economics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 20 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	韓 亮

授業の概要

この講義は現代社会の経済事情・経済問題に関心のある学生を対象に経済学の基礎を学ぶ。経済学の基本概念・基礎理論を学ぶことを通じて、経済学的な考え方・経済社会に対する洞察力、判断力を養う。

到達目標

経済学の基礎知識と基本理論を理解する

評価方法

- 受講態度： 3 0 %
- 小テスト： 3 0 %
- 期末テスト： 4 0 %

注意事項

授業中に無用な私語を禁止する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・経済学とは何か？
第2回	経済学の考え方
第3回	経済学の歴史（1）
第4回	経済学の歴史（2）
第5回	経済学の歴史（3）
第6回	ミクロ経済学：需要と供給
第7回	ミクロ経済学：消費者行動と価格メカニズム
第8回	ミクロ経済学：企業
第9回	ミクロ経済学：市場
第10回	ミクロ経済学：労働市場
第11回	マクロ経済学：GDP
第12回	マクロ経済学：貨幣と金融
第13回	マクロ経済学：貿易と為替レート
第14回	マクロ経済学：経済成長
第15回	まとめ

授業外学習

回数	内容
----	----

回数	内容
第1回	特になし
第2回	教科書の序章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第3回	重農主義・重商主義・『国富論』について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第4回	新古典派経済学とケインズ経済学について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第5回	マルクス経済学、中国・旧ソ連について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第6回	教科書の第1章と第2章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第7回	教科書の第3章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第8回	企業について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第9回	教科書の第4章・第5章・第6章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第10回	教科書の第7章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第11回	教科書の第8章・第9章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第12回	教科書の第11章と第12章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第13回	教科書の第13章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第14回	教科書の第14章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（学習時間の目安：4時間）

教科書

中谷 武・中村 保『1からの経済学』碩学舎、2010年。ISBN978-4-502-68080-9

参考書

マンキュー『マンキュー入門経済学』（第2版）東洋経済新報社、2014年。ISBN：9784492314432

伊東元重『入門経済学第4版』日本評論社、2015年。ISBN 978-4-535-55817-5

備考

異文化理解（99203）

前期

Cross-cultural understanding

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 時任英人

授業の概要

ますます日本のあらゆる地域で異文化交流が進展する状況の中で、そのような現象をどう理解し、その上でそのような交流に立ち向かうことができるようになる人材の育成を目的とする。アメリカで勉強された人たちで制作されたテキストのため、講義ではすべての具体例を日本、しかも私たちが居住するこの地域の例から説明する。

このようなことから異文化理解に必要な異文化の理解の仕方や価値観を修得し、これからの日本社会の如何なる異文化交流の場面に遭遇しても正面から立ち向かえる人材を育成する。

到達目標

- 1 異文化交流を理解し、様々な場面を想定して対処できる。
- 2 異文化コミュニケーションを実践できるようになる。

評価方法

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標2を評価）、定期試験50%（到達目標1、2を評価）によって成績を評価し、総合計60点を合格とする。

注意事項

講義の前に図書館で関連する事項を調べ、今後の自分のテーマを指定した参考文献を読みつつ検討することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（文化の定義）
第2回	コミュニケーションについて
第3回	文化とコミュニケーション
第4回	文化の中におけるアイデンティティ
第5回	異文化に対する先入観と偏見
第6回	深層文化の探求
第7回	価値観の国際比較
第8回	言語の構造とコミュニケーション
第9回	非言語コミュニケーション
第10回	カルチャーショックとその克服
第11回	異文化コミュニケーション
第12回	異文化コミュニケーションの能力
第13回	異文化コミュニケーションの研究に関する歴史
第14回	ソフトパワーの時代をどう生きるか
第15回	異文化の今後

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：次回のテキストの授業内容を理解し、そこで使われる専門用語についてその言葉の意味を具体的場面で理解しておくこと。

復習：復習として、講義の内容を使った具体例に関するレポートを、5回出題する。

教科書

教科書:石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション－多文化共生と平和構築に向けて』(有斐閣選書、2013年)ISBN-13: 978-4641281332

参考書

参考文献 青木保『異文化理解』(岩波新書、2001年)ISBN-13: 978-4004307402

青木保『多文化世界』(岩波新書、2003年)ISBN-13: 978-4004308409

池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』(ミネルヴァ書房、2010年)ISBN-13: 978-4623056095

備考

Physics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 山本健治

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群の一つである。
押し相撲では、相手から受ける「力の持続」が自分を後退させる。ボール投げでも、手から受ける「力の持続」がボールの勢いを増やしている。ニュートンにとって「持続的作用」は「力積（力の時間積分）」であった。デカルトはビリヤードに興じ、球の衝突を真剣に考えたことから、いち早く「運動量を変化させる」素因に気づいた。ただ、微積分法の発見はニュートンを待たねばならなかった。
人類が自然を理解してきた歴史は、完成された学問体系より数奇で味わい深い。身近な現象でさえも、偉大な発見の履歴をたどれば、かつては未知の世界のテーマであった。「運動量の変化」と「力積」の関係が運動方程式の、そして「系のエネルギーの変化」と「系になされる仕事」の関係がエネルギー保存法則の、それぞれの発見を導いたように、である。

【アクティブ・ラーニング】視聴覚の話題をもとに、基本的なテーマを討論とワークシート上で考えていく。

【フィードバック】ワークシートでの確認と反転学習の解答提示の間を2週かけて巡り、身近な現象の理解と概念のイメージ形成を図っていく。

到達目標

力とトルク（力のモーメント）のつり合いや運動のしくみを考え、物理で広がる広大な世界に気づいて、保存法則や運動法則を身の回りの出来事に適用して理解すること。

評価方法

受理したワークシート解答（3 0 点）、反転学習課題レポート（3 0 点）、確認テストの成績（4 0 点）を基本に、全体的、構成的な評価をする。

注意事項

自分用の受講ノートを用意し、常時テイクノートしていくこと。
2 週に一度、次時までの反転学習課題をテキストとプリントで指示する。
プリントは授業形態上、受講ノートとともに「書き込む参考書」として活用すべきである。2 週単位で綴じるか、またはノート用紙を毎時挿入するかして管理すること。

授業計画

回数	内容
第1回	力は4 つ！なぜ2 つしか見えぬ？
第2回	機関車はなぜ重い？
第3回	作用力と反作用力はつり合わない！
第4回	吊橋の塔はなぜ高い？
第5回	時間をかけて受ける力で物は勢いを増す
第6回	いろいろな力と運動
第7回	力でされる仕事
第8回	発電の原理はモーターにあり！
第9回	目からウロコ、光の不可思議さ

回数	内容
第10回	エンジンと逆エンジン
第11回	ブレーキから生まれたIHクッキング
第12回	エネルギー保存の法則
第13回	変化球とカルマン渦は兄弟
第14回	なぜ台風は左回りか？
第15回	最終確認テストとまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（15週）

【フィードバック（2週で授業と一体）】

- ・1週目（4時間）：ノートに「身近な現象」の理解を要点記入、または補足記入し、ワークシートへ転記する。
 - ・2週目（4時間）：（1週目後に）成果の応用へ思いを巡らせ（反転学習し）た上で、まとめをノート記入、また課題プリントに記入する。
 - ・3週目以降は（次のテーマについて）1週目と同様の取り組みをする。
- （以上、2週1セットの繰り返し中に、5回前後の課題レポート提出を含む）

教科書

物理2600年の歴史を変えた51のスケッチ

ドン・S・レモンズ 著

村山 斉 解説

倉田幸信 訳

プレジデント社

ISBN978-4-8334-2241-3

参考書

視聴覚教材に合わせたプリント、課題プリントを毎時間配布する。

備考

Physics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 山本健治

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群の一つである。
押し相撲では、相手から受ける「力の持続」が自分を後退させる。ボール投げでも、手から受ける「力の持続」がボールの勢いを増やしている。ニュートンにとって「持続的作用」は「力積（力の時間積分）」であった。デカルトはビリヤードに興じ、球の衝突を真剣に考えたことから、いち早く「運動量を変化させる」素因に気づいた。ただ、微積分法の発見はニュートンを待たねばならなかった。
人類が自然を理解してきた歴史は、完成された学問体系より数奇で味わい深い。身近な現象でさえも、偉大な発見の履歴をたどれば、かつては未知の世界のテーマであった。「運動量の変化」と「力積」の関係が運動方程式の、そして「系のエネルギーの変化」と「系になされる仕事」の関係がエネルギー保存法則の、それぞれの発見を導いたように、である。

【アクティブ・ラーニング】視聴覚の話題をもとに、基本的なテーマを討論とワークシート上で考えていく。

【フィードバック】ワークシートでの確認と反転学習の解答提示の間を2週かけて巡り、身近な現象の理解と概念のイメージ形成を図っていく。

到達目標

力とトルク（力のモーメント）のつり合いや運動のしくみを考え、物理で広がる広大な世界に気づいて、保存法則や運動法則を身の回りの出来事に適用して理解すること。

評価方法

受理したワークシート解答（3 0 点）、反転学習課題レポート（3 0 点）、確認テストの成績（4 0 点）を基本に、全体的、構成的な評価をする。

注意事項

自分用の受講ノートを用意し、常時テイクノートしていくこと。
2 週に一度、次時までの反転学習課題をテキストとプリントで指示する。
プリントは授業形態上、受講ノートとともに「書き込む参考書」として活用すべきである。2 週単位で綴じるか、またはノート用紙を毎時挿入するかして管理すること。

授業計画

回数	内容
第1回	力は4 つ！なぜ2 つしか見えぬ？
第2回	機関車はなぜ重い？
第3回	作用力と反作用力はつり合わない！
第4回	吊橋の塔はなぜ高い？
第5回	時間をかけて受ける力で物は勢いを増す
第6回	いろいろな力と運動
第7回	力でされる仕事
第8回	発電の原理はモーターにあり！
第9回	目からウロコ、光の不可思議さ

回数	内容
第10回	エンジンと逆エンジン
第11回	ブレーキから生まれたIHクッキング
第12回	エネルギー保存の法則
第13回	変化球とカルマン渦は兄弟
第14回	なぜ台風は左回りか？
第15回	最終確認テストとまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（15週）

【フィードバック（2週で授業と一体）】

- ・1週目（4時間）：ノートに「身近な現象」の理解を要点記入、または補足記入し、ワークシートへ転記する。
 - ・2週目（4時間）：（1週目後に）成果の応用へ思いを巡らせ（反転学習し）た上で、まとめをノート記入、また課題プリントに記入する。
 - ・3週目以降は（次のテーマについて）1週目と同様の取り組みをする。
- （以上、2週1セットの繰り返し中に、5回前後の課題レポート提出を含む）

教科書

物理2600年の歴史を変えた51のスケッチ

ドン・S・レモンズ 著

村山 斉 解説

倉田幸信 訳

プレジデント社

ISBN978-4-8334-2241-3

参考書

視聴覚教材に合わせたプリント、課題プリントを毎時間配布する。

備考

化学（99255）

後期

Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 佐藤恒夫

授業の概要

日常の暮らしに必要とされる基礎的な一般化学事項を分かりやすく解説する。

到達目標

- 1 一般化学の基本的な考え方を、化学反応式、物質量、酸と塩基、酸化還元などを用いて理解し説明できる。
- 2 一般化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける一般化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 2 0 %（到達目標 1 を評価）、レポート 2 0 %（到達目標 2 を評価）、定期試験 6 0 %（到達目標 1， 3 を評価）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

関数電卓を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	科学における化学
第2回	原子
第3回	元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学反応式
第6回	濃度の表しかた
第7回	酸化と還元
第8回	物質の性質と状態
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液
第13回	透析と浸透圧
第14回	酸および塩基と pH
第15回	放射線と放射能

授業外学習

学習時間の目安：合計 60 時間

- ・授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み、概略をつかんでおくこと。
- ・復習として、課題レポート（宿題）を 5 回出題する。
- ・レポートなどは初めに人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

はじめて学ぶ化学・化学同人・野島高彦・9784759814941

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 20 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 佐藤恒夫

授業の概要

日常の暮らしに必要とされる基礎的な一般化学事項を分かりやすく解説する。

到達目標

- 1 一般化学の基本的な考え方を、化学反応式、物質量、酸と塩基、酸化還元などを用いて理解し説明できる。
- 2 一般化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける一般化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 2 0 %（到達目標 1 を評価）、レポート 2 0 %（到達目標 2 を評価）、定期試験 6 0 %（到達目標 1， 3 を評価）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

関数電卓を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	科学における化学
第2回	原子
第3回	元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学反応式
第6回	濃度の表しかた
第7回	酸化と還元
第8回	物質の性質と状態
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液
第13回	透析と浸透圧
第14回	酸および塩基と pH
第15回	放射線と放射能

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・ 授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み、概略をつかんでおくこと。
- ・ 復習として、課題レポート（宿題）を 5 回出題する。
- ・ レポートなどは初めに人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・ レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

はじめて学ぶ化学・化学同人・野島高彦・9784759814941

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

人間と環境（44351）

後期

Human Beings and Environment

教養科目

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲明  加計悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡）課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計）課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

・予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。

- ・各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

人間と環境（44401）

前期

Human Beings and Environment

教養科目

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲明  加計悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡）課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計）課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

・予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。

- ・各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

Earth Science

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤妹尾護

授業の概要

地球の誕生から、その後の約46 億年の間に地球環境が自然のシステムの中でどのように変化してきたかを理解することによって、現在の人間活動による急激な環境変化を再考する機会とする。また、地球科学的事件によって、生物や人間生活にどのような影響が及んだかを説明すると共に、私たちの身近な環境問題の現状と保全方法についても取り上げる。

到達目標

- 1 約46 億年前の地球誕生から現在へと、地球環境がどのように変化したかを理解し、説明できる。
- 2 地球科学的時件によって、生物や人間生活にどのような影響及んだかを理解し、論述することができる。

評価方法

ミニレポート 2 0 %（到達目標 1 を評価）、定期試験 8 0 %（到達目標 1、2 を評価）により成績評価を行う。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、参考資料、授業外学習、評価方法等の説明）
第2回	隕石の種類とその起源
第3回	星の誕生と一生
第4回	原始太陽の誕生
第5回	太陽系惑星の形成
第6回	地球の誕生
第7回	地球の進化と地球環境の変化
第8回	地球の進化の歴史と現在の地球環境
第9回	地球科学的事件－過去に起こった生物種の絶滅（1）
第10回	地球科学的事件－過去に起こった生物種の絶滅（2）
第11回	地球科学的事件－過去に起こった生物種の絶滅（3）
第12回	地球科学的事件－火山活動（1）
第13回	地球科学的事件－火山活動（2）
第14回	地球科学的事件－火山活動の気候への影響
第15回	総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

・前回の授業内容について復習するとともに、配布プリント等により、次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。

教科書

配布プリントを使用する。（教科書は使用しない）

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2．0 単位
担当教員	 加藤敬史

授業の概要

地震はなぜ起こるのか、火山はなぜ限られた地域に集中して分布するのか。アフリカと南米に同じ生物の化石が発見されるのはなぜか、ヒマラヤ山頂に古生代の海の生物の化石が見つかるのはなぜか……。地球に対する我々の様々な疑問についてプレートテクトニクスという考え方は単純で明快な解答を導いている。この講義では1）地球内部の構造とプレートテクトニクス理論、2）プレート運動と生物の絶滅・進化の関わり、そして、3）日本列島の成因論について、プレート理論の成立の歴史をひもときつつ解説する。

到達目標

プレート運動によって引き起こされる地球の海陸分布の変化は、生命の進化や地球環境にも深く関わっている。この講義では、プレート理論の大枠と多くの要素が複雑に絡み合う地球システムを理解することを目標としている。具体的には、1）プレートとは何か、地球の構造とともに説明ができる、2）プレート境界と大地形、地震・火山などの地質現象の関係を説明できる、3）日本列島の形成をプレート運動によって説明できる、4）プレート運動と地球環境、生物の進化の関連について説明ができるようになり、これらの理解から地球システムの概略をイメージできる様になることを到達目標としている。

評価方法

課題（20％）、講義への意欲的な取り組み（10％）定期試験（70％）の割合で評価する。なお、講義への意欲的な取組については、質問カードやe-mailでの質問や、講義中の発言など、授業に参加し、積極的に学ぶ態度とその内容を考慮して評価する。

注意事項

この講義に関連して、生命科学部の講義、基礎地学1、基礎地学2（いずれも前期開講）を受講するとより理解が深まる。これらの科目については他学科履修を積極的に受け入れている。また、地球科学の理解を深めるため校外実習を行う場合がある。実施時期については講義最初のオリエンテーションで紹介する。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	地球の姿
第3回	地球の内部構造1（地球内部を観察する手法、地震波の性質）
第4回	地球の内部構造2（地震波で観察する地球の構造）
第5回	地質構造の成因と大陸移動説
第6回	プレートテクトニクスと地質構造1（プレートとは何か）
第7回	プレートテクトニクスと地質構造2（プレート境界と大地形）
第8回	プレートテクトニクスと地質構造3（沈み込み帯の地質現象）
第9回	付加体地質学
第10回	プレート運動と生命史
第11回	プレート運動から理解する日本列島の地質1（日本列島の基盤岩類）
第12回	プレート運動から理解する日本列島の地質2（日本列島構造発達史）
第13回	地球環境の変遷とプレート運動1（相対年代・絶対年代・地質年代区分）

回数	内容
第14回	地球環境の変遷とプレート運動2（地球史と大陸の配置）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

ホームページ（<http://www.kusa.ac.jp/~tkato>）上に、講義で使用するスライド、予習復習の項目などが掲載されている。各回の指示をよく読んで、予習、復習を行うこと。また、各講義に課題やQuickQuizを提示してあるので講義の進行に合わせて提出すること（各講義の予習復習および課題については2時間程度で完了できるものを用意している）。提出は指定のメールフォームで行うこと。※パソコン、スマホなどでのアクセスが困難な学生は手書きのレポートも受け付ける。

教科書

なし（配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する。）

参考書

なし（配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する。）

備考

Mathematics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 梶浦文夫

授業の概要

「自然とのかかわりを認識し、論理的批判的思考力を身につける」ための科目群の一つである。
身の回りにあるのに気づかないことが多い数学について考える。今やパソコンだけにとどまらず、スマホなど身の回りのどこにでもあるコンピュータがどのような数学で成り立っているのか、私たちの大切な情報を守る暗号化ってどのようなものか、GPSに限らず様々な位置が数字で表されていることなどについて実際に手計算をしながら学ぶ。

到達目標

- 1 2進数と10進数の違いを説明でき、2進数の様々な演算が理解できる。
- 2 暗号の概要と現在使われているRSA暗号の原理が分かる。

評価方法

小テスト30％（到達目標 1 および 2）、中間テスト20％（到達目標 1）定期試験50％（到達目標 1 および 2）で評価する。

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	講義内容(身の回りにある数学)、ねらい、目標、注意など
第2回	身の回りにあるコンピュータ
第3回	コンピュータが扱う数
第4回	2進数と10進数
第5回	2進数、8進数、16進数など
第6回	2進数の演算
第7回	練習問題演習
第8回	古代、近代暗号の歴史
第9回	第2次大戦中の暗号 エニグマ
第10回	中間テスト
第11回	現代暗号の基礎 素数、メルセンヌ素数
第12回	現代暗号の基礎 剰余演算
第13回	現代暗号の基礎 RSA暗号の原理
第14回	現代暗号の基礎 RSA暗号演習
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時間演習問題に取り組む。ほとんどの場合、時間内に終わらなかった問題を宿題とする。必要に応じて予習の指示を与える。

教科書

適宜資料と問題プリントを配布する。

参考書

講義中に参考図書、参考webページを紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 菅正樹  内藤佐和

授業の概要

健康的な生活を送るためには、運動や食生活についての知識が不可欠である。
本講義では、健康と運動の関連性について、運動生理学分野の基礎的な知識をもとに、健康維持増進のための運動方法を学ぶ。
また、栄養学的にどのような食生活が理想的であるのかも学び、自身の生活習慣の問題点と改善方法について考察し、健康的な生活を営むことができる人材を育成する。

到達目標

- 1 健康を維持増進するための運動および食生活について理解し説明できる
- 2 自身の食生活および運動習慣について改善点を考察し、実践できるようになる

評価方法

レポート20%（到達目標2を評価）および定期試験80%（到達目標1，2を評価）により総合的に評価する。

注意事項

受講状況を重要視する。
授業の順番や進度は前後することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（菅）
第2回	健康とは（菅）
第3回	トレーニングの原則（菅）
第4回	運動の必要性（菅）
第5回	適度な運動（菅）
第6回	食生活の変化と健康課題（内藤）
第7回	バランスのよい食事とは（内藤）
第8回	健康と食生活習慣（内藤）レポート（食事バランスガイドを用いた食事調査）
第9回	栄養素の種類と働き（内藤）
第10回	運動と栄養（内藤）
第11回	食の安全（内藤）
第12回	食環境と健康（内藤）
第13回	疾病と食生活（内藤）
第14回	健康食品について（内藤）
第15回	まとめ（内藤）

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

事前に関連する資料やテキストをよく読み、専門用語等が理解できるよう予習しておくこと（各2時間）。
練習課題を実施するので、復習をしておくこと。また、授業内容の理解度向上のため、課題レポートを出題する（各 2 時間）。

教科書

「栄養の基本がわかる図解事典」、成美堂出版、中村丁次監修、ISBN：978-4-415-32028-1

参考書

最新の参考文献等を適宜紹介する。

備考

Biology

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲 明  加計 悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

- ・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

- ・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡）課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計）課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。

- ・各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

Biology

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲明  加計悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

- ・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

- ・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡）課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計）課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。

- ・各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

Statistics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 洲脇史朗

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群にあたる。
数学的理論より統計学的考え方の直観的理解を重視し、特に記述統計学の基本概念について具体的な問題の解法例を参照しながら進める。

到達目標

到達目標Ⅰ：高校で学んだ内容から始めて、基礎的な統計に関する学力を身に付けることができる。
到達目標Ⅱ：研究論文で必要とされる検定の考えを理解し、卒業論文に役立てることができる。

評価方法

到達目標Ⅰ：毎回の課題提出（30％），定期試験（30％）
到達目標Ⅱ：定期試験（40％）

注意事項

『√』を計算出来る電卓を持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	度数分布
第2回	代表値
第3回	分散
第4回	相関係数
第5回	確率変数
第6回	正規分布
第7回	二項分布
第8回	母集団と標本
第9回	区間推定 1
第10回	区間推定 2
第11回	母平均の検定 1
第12回	母平均の検定 2
第13回	母分散の検定
第14回	ば比率の検定
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
以前学んだ内容を必ず復習してから授業に臨むこと。

毎回の課題を自分の力で、確実に実行すること。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

Statistics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 洲脇史朗

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群にあたる。
数学的理論より統計学的考え方の直観的理解を重視し、特に記述統計学の基本概念について具体的な問題の解法例を参照しながら進める。

到達目標

到達目標Ⅰ：高校で学んだ内容から始めて、基礎的な統計に関する学力を身に付けることができる。
到達目標Ⅱ：研究論文で必要とされる検定の考えを理解し、卒業論文に役立てることができる。

評価方法

到達目標Ⅰ：毎回の課題提出（30％），定期試験（30％）
到達目標Ⅱ：定期試験（40％）

注意事項

『√』を計算出来る電卓を持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	度数分布
第2回	代表値
第3回	分散
第4回	相関係数
第5回	確率変数
第6回	正規分布
第7回	二項分布
第8回	母集団と標本
第9回	区間推定 1
第10回	区間推定 2
第11回	母平均の検定 1
第12回	母平均の検定 2
第13回	母分散の検定
第14回	ば比率の検定
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
以前学んだ内容を必ず復習してから授業に臨むこと。

毎回の課題を自分の力で、確実に実行すること。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

Theory of the Mass Media

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 濱家輝雄

授業の概要

多メディアの時代にあって「マスコミ」の社会的責任は重大であり影響力も大きい。新聞・テレビ・雑誌・ラジオというメディアにインターネットも加わり、これまでの時代に比べ情報が氾濫し過密化している。正しい情報・必要な情報を選択する能力～メディアリテラシーを自分のものとするための方法論を考察しながら、夫々の「マスコミ」の現状分析・過去の歴史、そして将来のマスコミの有り方について講義を進め、マスメディアのコンプライアンスとは？言論・表現の自由とは？などマスメディアと向き合う基本的な能力の育成を目的としている。

到達目標

政治・経済・文化・スポーツ・芸能・一般ニュースへのアンテナ度を高め、マスコミ情報に対する判断力(メディアリテラシー) の基礎を身に付けることができる。

評価方法

授業に取組む態度・姿勢、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。評価比率は、それぞれ1 0 %、 3 0 %、 6 0 %を基準とする。

注意事項

社会人基礎力であるコミュニケーション能力にも繋がるので、日々のニュースにアンテナを持ち、一般教養を高める意識を持って履修すること。

授業計画

- 授業計画 1 : マスコミ学概論・多メディア多チャンネルの時代～情報の氾濫
- 授業計画 2 : 新聞の誕生から近代新聞のはじまり
- 授業計画 3 : 近代新聞の成立ー明治初期
- 授業計画 4 : 近代新聞・報道新聞へのあゆみ
- 授業計画 5 : 明治3 0 年代以後～商業新聞の成立
- 授業計画 6 : 大正期の新聞～言論・報道機関の確立
- 授業計画 7 : 大正デモクラシーと新聞
- 授業計画 8 : 昭和初期からのマスコミの時代最盛期
- 授業計画 9 : 言論統制への道～軍部の台頭と終焉
- 授業計画 1 0 : 第2 次大戦後の新聞～民主化と新聞復興
- 授業計画 1 1 : これからの新聞の使命と将来
- 授業計画 1 2 : 新聞と放送のジャーナリズム
- 授業計画 1 3 : 放送局の役割りとコンプライアンス（法令遵守）
- 授業計画 1 4 : 日本の放送ネットワークとローカル局（番組と広告）
- 授業計画 1 5 : マスコミのあるべき姿と将来ー総復習・まとめ

授業外学習

日常的にマスコミが発信する情報を新聞やテレビのニュースなどでチェックし、時事用語などの意味を調べて理解しておくこと。（各4 時間）メディアからのニュースに関してのレポートあり。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜資料を配布する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 濱家輝雄

授業の概要

多メディアの時代にあって「マスコミ」の社会的責任は重大であり影響力も大きい。新聞・テレビ・雑誌・ラジオというメディアにインターネットも加わり、これまでの時代に比べ情報が氾濫し過密化している。正しい情報・必要な情報を選択する能力～メディアリテラシーを自分のものとするための方法論を考察しながら、夫々の「マスコミ」の現状分析・過去の歴史、そして将来のマスコミの有り方について講義を進め、マスメディアのコンプライアンスとは？言論・表現の自由とは？などマスメディアと向き合う基本的な能力の育成を目的としている。

到達目標

政治・経済・文化・スポーツ・芸能・一般ニュースへのアンテナ度を高め、マスコミ情報に対する判断力(メディアリテラシー) の基礎を身に付けることができる。

評価方法

授業に取組む態度・姿勢、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。評価比率は、それぞれ1 0 %、 3 0 %、 6 0 %を基準とする。

注意事項

社会人基礎力であるコミュニケーション能力にも繋がるので、日々のニュースにアンテナを持ち、一般教養を高める意識を持って履修すること。

授業計画

- 授業計画 1 : マスコミ学概論・多メディア多チャンネルの時代～情報の氾濫
- 授業計画 2 : 新聞の誕生から近代新聞のはじまり
- 授業計画 3 : 近代新聞の成立ー明治初期
- 授業計画 4 : 近代新聞・報道新聞へのあゆみ
- 授業計画 5 : 明治3 0 年代以後～商業新聞の成立
- 授業計画 6 : 大正期の新聞～言論・報道機関の確立
- 授業計画 7 : 大正デモクラシーと新聞
- 授業計画 8 : 昭和初期からのマスコミの時代最盛期
- 授業計画 9 : 言論統制への道～軍部の台頭と終焉
- 授業計画 1 0 : 第2 次大戦後の新聞～民主化と新聞復興
- 授業計画 1 1 : これからの新聞の使命と将来
- 授業計画 1 2 : 新聞と放送のジャーナリズム
- 授業計画 1 3 : 放送局の役割りとコンプライアンス（法令遵守）
- 授業計画 1 4 : 日本の放送ネットワークとローカル局（番組と広告）
- 授業計画 1 5 : マスコミのあるべき姿と将来ー総復習・まとめ

授業外学習

日常的にマスコミが発信する情報を新聞やテレビのニュースなどでチェックし、時事用語などの意味を調べて理解しておくこと。（各4 時間）メディアからのニュースに関してのレポートあり。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜資料を配布する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 加藤敬史  小山悦司  クリスウォルトン  権純珍

授業の概要

芸術と科学の協調を目指した本学の設立理念を具体的に認識するために、研究成果の実例を挙げてオムニバス形式で概説する。歴史的にも芸術の変遷と科学の発展が互いに深い関係を有することを理解する。また、現在における芸術分野と科学分野の共同による研究動向に対する関心を高め、さらに将来に向けて芸術的なセンスや科学的な思考法を育成する。倉敷芸術科学大学での学びの基礎となる導入科目である。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「2-(1)大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」「4.芸術的なセンスや科学的な思考法に基づいた豊かな創造性を持って活躍できる力量を身につける」に対応させて目標を設定している。授業方法として、アクティブ・ラーニング（グループワーク）を取り入れている。

到達目標

- 1 芸術と科学の協調を目指した本学の設立理念を理解し説明できる。
- 2 芸術と科学の協調による研究や取組について理解し説明できる。
- 3 芸術的なセンスや科学的な思考法に基づいた豊かな創造性の基盤を身につける。
- 4 授業全体を通して、芸術と科学の協調の意義や重要性について理解し説明できる。

評価方法

毎回の授業で実施する小レポート等 6 0 %（到達目標1・2・3を評価）と総合レポート 4 0 %（到達目標4を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

芸術と科学の協調に関しては、芸術科学会（<http://www.art-science.org/>）のWebページで諸事例が紹介されているので授業内容の理解に役立つ。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス ＜加藤 敬史・ 小山 悦司・ クリス ウォルトン・ 権 純珍＞、本学における「芸術と科学の協調」＜学長＞
第2回	芸術と科学の協調に関する共同研究の成果報告その1 （学生と研究者の意見交換）＜共同研究担当者＞
第3回	芸術と科学の協調に関する共同研究の成果報告その2 （学生と研究者の意見交換）＜共同研究担当者＞
第4回	複製技術時代の芸術 ― 日本における写真の誕生＜松岡 智子＞
第5回	「芸術と科学の協調」によるまちづくり（グループワーク）＜小山 悦司＞
第6回	ビジュアルコミュニケーションの表現 ＜クリス・ウォルトン＞
第7回	創造性の心理 ＜唐川 千秋＞
第8回	日本画の線における価値の見つけ方 ＜森山 知己＞
第9回	化石で見る生物の形の変遷 ＜加藤 敬史＞
第10回	デジタルテクノロジーとものづくり ＜大屋 努＞
第11回	がん細胞と芸術 ＜佐藤正和＞

回数	内容
第12回	スポーツ科学から考える身体の形態と機能 <枝松 千尋>
第13回	現代の美術と科学 <近藤 千晶>
第14回	コンピュータとデザイン表現 <近藤 研二>
第15回	まとめ・総合レポート作成 <加藤 敬史・小山 悦司・クリス ウォルトン・権 純珍>

授業外学習

- ・日頃からニュースや新聞等の視聴あるいはインターネットを通して、芸術と科学をめぐる情報を収集し、動向を把握するよう努めること。
- ・各授業で小レポート、最終回に総合レポートを作成するので、レポート作成に必要な基本事項を確認し、文章表現力を高めるよう努めること。

以上の活動や準備を含めて、合計60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

備考

基本数学（44353）

前期

Basic Mathematics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 洲脇史朗

授業の概要

大学の分野で数学を用いるためにはさまざまな計算に習熟していることが望ましい。この講義では特に【確認テスト】形式で問題演習し、そのプリントを毎回提出とする。

到達目標

- 1．高校までに学んだ基礎的な数学を復習し、毎回の演習を通してその定着を図り、今後の大学での授業や研究に役立てることができる。
- 2．自分が所属する学科で必要とされる数学的知識を確認し、卒業研究に対応できる数学力を獲得するための学習計画を作成することができる。

評価方法

到達目標 1：毎回の課題提出（30％）,定期試験（50％）

到達目標 2：各自が所属する学科で卒業までに必要とされる数学力を調べ、その数学力を獲得するための学習計画の提出（20％）

注意事項

積極的な取り組みを継続すること。

授業計画

回数	内容
第1回	数と文字式
第2回	一次方程式
第3回	因数分解
第4回	二次方程式
第5回	図形と三角比
第6回	三角関数
第7回	指数関数
第8回	対数関数
第9回	微分法Ⅰ
第10回	微分法Ⅱ
第11回	積分法Ⅰ
第12回	積分法Ⅱ
第13回	数列
第14回	極限
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

以前学んだ内容を必ず復習してから授業に臨むこと。
卒業研究までに必要な数学力を調べること。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書

各自で使い慣れたものを持参して利用すること。

備考

基本英語（44201）

前期

Basic English

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

リメディアルのクラスとして高校3年生までに身につけるべき文法事項を総復習する。
英語IとIIの準備や補助として、特に学科のクラス編成でアルファベットの後に2のついているクラスの学生に受けることを勧める。

到達目標

- 1 基本的な英文法事項を包括的に復習する。
- 2 書き換え問題や会話文の穴埋めを通して英語I・IIや英会話I・IIに必要な英作・英会話力の基礎を身につける。

評価方法

小テスト30%（到達目標2） 中間テスト30%（到達目標1） 定期テスト40%（到達目標1）

注意事項

苦手意識をなくすために積極的に学ぼう

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明
第2回	b e動詞
第3回	一般動詞
第4回	未来形・進行形
第5回	助動詞
第6回	能動態・受動態
第7回	動名詞・分詞
第8回	中間まとめ
第9回	不定詞
第10回	現在完了形・過去形
第11回	名詞・冠詞・数詞
第12回	代名詞
第13回	形容詞・副詞
第14回	前置詞
第15回	接続詞

授業外学習

小テスト用の勉強 30分
復習 1時間半（CDでの音読を含む）
次回の予習 2時間

教科書

English Grammar Onward & Upward, Shigeru Shibagakiほか著（センゲージラーニング）
ISBN978-4-86312-054-9

参考書

使いやすい辞書
図書館のebSCO 英文多読教材

備考

Basic English

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

リメディアルのクラスとして高校3年生までに身につけるべき文法事項を総復習する。
英語IとIIの準備や補助として、特に学科のクラス編成でアルファベットの後に2のついているクラスの学生に受けることを勧める。

到達目標

- 1 基本的な英文法事項を包括的に復習する。
- 2 書き換え問題や会話文の穴埋めを通して英語I・IIや英会話I・IIに必要な英作・英会話力の基礎を身につける。

評価方法

小テスト30%（到達目標2） 中間テスト30%（到達目標1） 定期テスト40%（到達目標1）

注意事項

苦手意識をなくすために積極的に学ぼう

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明
第2回	b e動詞
第3回	一般動詞
第4回	未来形・進行形
第5回	助動詞
第6回	能動態・受動態
第7回	動名詞・分詞
第8回	中間まとめ
第9回	不定詞
第10回	現在完了形・過去形
第11回	名詞・冠詞・数詞
第12回	代名詞
第13回	形容詞・副詞
第14回	前置詞
第15回	接続詞

授業外学習

小テスト用の勉強 30分
復習 1時間半（CDでの音読を含む）
次回の予習 2時間

教科書

English Grammar Onward & Upward, Shigeru Shibagakiほか著（センゲージラーニング）
ISBN978-4-86312-054-9

参考書

使いやすい辞書
図書館のebSCO 英文多読教材

備考

基本化学（44501）

前期

Basic Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 佐藤恒夫

授業の概要

自然現象や物質の化学的性質を理論的に考えて説明するには、化学の基礎的な知識が必要である。この講義では、多くの化学的な基礎知識を身につけて自然現象や物質の化学的な性質を論理的に説明できる力を養う。そのために、化学の法則や基本的な定義を学ぶとともに、その根底にある原子論や化学反応の量的な変化を理解する。

到達目標

- 1 基本化学の考え方を、化学反応式、基礎理論、物質の化学的性質などを用いて理解し説明できる。
- 2 基本化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける基本化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20％（到達目標1を評価）、レポート20％（到達目標2を評価）、定期試験60％（到達目標1，3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教養の「化学」も受講するとより理解が深まる。
- ・関数電卓を用意しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	人間生活と化学
第2回	物質の成り立ちⅠ：物質の成分、物質の三態
第3回	物質の成り立ちⅡ：原子の構造と電子配置、周期表と元素の性質
第4回	化学結合Ⅰ：イオン結合
第5回	化学結合Ⅱ：共有結合
第6回	化学結合Ⅲ：金属結合
第7回	物質量と化学反応Ⅰ：原子量、分子量、式量
第8回	物質量と化学反応Ⅱ：物質量、溶液の濃度
第9回	物質量と化学反応Ⅲ：化学反応式、化学反応の量的関係
第10回	酸と塩基Ⅰ：酸と塩基、水素イオン濃度とpH
第11回	酸と塩基Ⅱ：塩の性質
第12回	酸と塩基Ⅲ：酸と塩基の中和
第13回	酸化還元反応Ⅰ：酸化と還元、酸化剤と還元剤
第14回	酸化還元反応Ⅱ：電池

回数	内容
第15回	酸化還元反応Ⅲ：電気分解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み。概略をつかんでおくこと。
- ・復習として、課題レポートを6回出題する。
- ・レポートなどは、最初に人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

化学基礎の必修整理ノート・文栄堂・ト部吉庸・9784578242789

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

Basic Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 佐藤恒夫

授業の概要

自然現象や物質の化学的性質を理論的に考えて説明するには、化学の基礎的な知識が必要である。この講義では、多くの化学的な基礎知識を身につけて自然現象や物質の化学的な性質を論理的に説明できる力を養う。そのために、化学の法則や基本的な定義を学ぶとともに、その根底にある原子論や化学反応の量的な変化を理解する。

到達目標

- 1 基本化学の考え方を、化学反応式、基礎理論、物質の化学的性質などを用いて理解し説明できる。
- 2 基本化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける基本化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 2 0 %（到達目標 1 を評価）、レポート 2 0 %（到達目標 2 を評価）、定期試験 6 0 %（到達目標 1， 3 を評価）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

- ・教養の「化学」も受講するとより理解が深まる。
- ・関数電卓を用意しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	人間生活と化学
第2回	物質の成り立ちⅠ：物質の成分、物質の三態
第3回	物質の成り立ちⅡ：原子の構造と電子配置、周期表と元素の性質
第4回	化学結合Ⅰ：イオン結合
第5回	化学結合Ⅱ：共有結合
第6回	化学結合Ⅲ：金属結合
第7回	物質量と化学反応Ⅰ：原子量、分子量、式量
第8回	物質量と化学反応Ⅱ：物質量、溶液の濃度
第9回	物質量と化学反応Ⅲ：化学反応式、化学反応の量的関係
第10回	酸と塩基Ⅰ：酸と塩基、水素イオン濃度と pH
第11回	酸と塩基Ⅱ：塩の性質
第12回	酸と塩基Ⅲ：酸と塩基の中和
第13回	酸化還元反応Ⅰ：酸化と還元、酸化剤と還元剤
第14回	酸化還元反応Ⅱ：電池

回数	内容
第15回	酸化還元反応Ⅲ：電気分解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み。概略をつかんでおくこと。
- ・復習として、課題レポートを6回出題する。
- ・レポートなどは、最初に人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

化学基礎の必修整理ノート・文栄堂・ト部吉庸・9784578242789

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

Basic Physics

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 中山広文

授業の概要

物理の本質は論理的にものを考える力である。どのような考え方をしてこのような法則に気づいたのか，この法則からどのような仮定をすると実際の自然現象が説明できるようになるのかというプロセスを追っていくと，論理的な積み上げが理解できるようになる。
この講義は，力学的な内容を通してこれらのプロセスを体験することによって論理的な考え方を身につけるとともに，論理的な積み上げができることによって物理が少しずつ楽しくなるような内容である。

到達目標

- ・ニュートンの3法則を理解することによって、物体がどのような運動をするかを予測できる。
- ・様々な物理現象をエネルギーの変換と保存の観点から説明できる。

評価方法

課題提出等の平常点（40％）と定期試験の成績（60％）で評価する。

注意事項

- ・演習課題は必ず解くこと。

授業計画

回数	内容
第1回	力の表し方と合成・分解（1）
第2回	力の表し方と合成・分解（2）
第3回	力の種類
第4回	力のつりあい
第5回	作用反作用の法則
第6回	剛体と力のモーメント
第7回	速度と加速度
第8回	慣性の法則
第9回	運動方程式（1）
第10回	運動方程式（2）
第11回	重力場と重力による運動
第12回	仕事
第13回	運動エネルギー・位置エネルギー
第14回	力学的エネルギー
第15回	運動量

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回復習として、演習課題を出題する。解答はWeb上の解答フォームへの入力を基本とする。

教科書

使用しない

参考書

初歩の物理－力学・電磁気入門－ 小野文久著 裳華房

備考

倉敷まちづくり基礎論（99407）

前期

Foundation of Kurashiki Community Development

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 村山公保  坂本尚史

授業の概要

倉敷は全国的に見ても特別な街である。しかし、倉敷市に住んでいても、何が特別なのか、明確に説明できる人は少ない。本講義では、倉敷について理解を深めるとともに、倉敷内外で行われている地域のまちづくり活動について学ぶ。日頃からまちづくりについて考えようとする心を育てながら、まちづくりに参加するときの土台となる基礎力を身につける。

具体的には倉敷の歴史や産業、観光の現状を知るとともに、市民・行政など様々な組織・団体から講師を招いてまちづくりの話を聞いたり、倉敷美観地区を実際に歩いて目で見て肌で感じたり、学生同士で議論したり、それを自分の言葉でレポートにまとめるなどして、まちづくりに関する理解を深めるとともに、まちづくりに関する意識を高め、地域社会の構成員として活躍するための土台作りをする。

科目の運営は、産官学の連携協力（特に倉敷市）を得るとともに、大学コンソーシアム岡山に加入している他大学との単位互換科目として双方向ライブ遠隔授業の形態で実施される。1人ひとりが発言をするという、学生参加型アクティブラーニングのスタイルも取り入れる。

「倉敷まちづくり実践論」の受講を予定している学生は、この授業を事前に履修しておくことが望ましい。

本科目は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）として実施される「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、フィールドワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】倉敷の歴史や産業、観光の現状を知るとともに、市民・行政など様々な組織・団体から講師を招いて、まちづくりに関する理解を深め意識を高める。具体的には、15回の授業のうち9回は、倉敷市観光課・まちづくり推進課・歴史資料整備室、NPO法人、観光関連企業、地域のまちづくり団体、商店街振興組合など、学外から招聘した講師（実務家）による講話がなされる。

到達目標

1. 倉敷についての理解が深まる。
2. まちづくりに関する興味・関心が高まる。
3. 自分の考えや意見を持ち、それを発言したり、文章に書いたりする能力が高まる。
4. まちづくりやまち歩きについて、グループ内で話し合ったり、グループで一緒に行動したりできるようになる。

評価方法

- ・定期試験100%(到達目標の1、2、3、4を評価)の重みで判定する。ただし、未提出のレポート(品質が低いレポートを含む)があったり、プレゼンテーションを行っていない回(品質が低いプレゼンテーションを含む)がある場合には、減点の対象となる。
- ・定期試験は「授業の振り返り」として実施する。内容は「外部講師の講演を聞いて得たこと、自分が参加したまち歩きの内容・まちあるきレポートでの貢献度、授業での発言」など、自分が成長した点や成長するために努力した点についてアピールポイントを論述するものとする。日頃の学修成果を試す試験となっているので、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、および、時間外学習に取り組むこと。

注意事項

- ・外部講師に対して失礼にならないような受講マナーが求められる。授業中は私語を慎み、静かにすること。騒がしい学生は退場処分とし、単位不認定とする事がある。
- ・外部講師等の都合により日程や内容が変更になる場合がある。
- ・大学コンソーシアム岡山の双方向ライブ遠隔科目であり、他大学の学生がテレビ会議システムで参加することがある。
- ・グループワークを行うので、グループのメンバと連絡を取り合い、お互いに協力しながら、「まち歩き」および「まち歩きレポートの作成」を行うこと。
- ・記録に残すため、講演・発表会等の授業風景を撮影することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	(4/23) 外部講師講演「倉敷の歴史と歴史資料整備室の活動」倉敷市歴史資料整備室 山本太郎様（村山公保）
第2回	(5/7) まち歩きレポートについての説明とグループ分け（村山公保）
第3回	(5/14) 学内講師講演「大原美術館について」芸術学部 松岡智子様（村山公保）
第4回	(5/21) 外部講師講演「ゲストハウスによるまちづくり」田川寿一様 (ELEVEN VILLAGE代表)（坂本尚史）
第5回	(5/28) 外部講師講演「「倉敷市のまちづくり」～まちづくり推進～」 倉敷市建設局まちづくり部まちづくり推進課 高木浩様（村山公保）
第6回	(6/4) 外部講師講演「臨鉄ガーデンが果たすまちづくり社会実験」水島家守舎NAdia 土屋遼介様（坂本尚史）
第7回	(6/11) 美観地区まち歩き発表会（村山公保）
第8回	(6/18) 外部講師講演「宿場町を復活させる矢掛屋の取り組み」株式会社シャンテ CEO 安達誠治様
第9回	(6/25) 外部講師講演「美観地区住人によるまちづくり(仮題)」 NPO法人 倉敷町家トラスト 代表理事 中村泰典様（坂本尚史）
第10回	(7/2) 外部講師講演「高松丸亀町商店街の再開発」高松丸亀町商店街振興組合 理事長 古川康造様（村山公保）
第11回	(7/9) 外部講師講演「僕らの「まちづくり」は「まちで遊ぶ」こと」ミズシマ盛りあげ隊 尾崎勝也様（坂本尚史）
第12回	(7/16) 自分たちで決めたまち歩き発表会（村山公保）
第13回	(7/23) 授業の振り返りの討論会（村山公保）
第14回	(7/30) 授業を終えた後の学びについて（村山公保）
第15回	(8/6) まとめ（村山公保）

授業外学習

学習時間の目安: 合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、定期試験でアピールできるようにする。

・外部講師の講演のあとは、その内容振り返り、己の糧にするため、ミニレポートを毎回作成する。またミニレポートには次の回の予習が含まれることがあるので、しっかりと予習すること。ミニレポートはホッチキス等で綴じて、定期試験と同時に提出する。(作成したミニレポートの紛失等に備えて、コピーをとったり、スマホで写真を撮るなどの対策をしておくこと。)

・倉敷についての理解を深めるとともに、まちづくりについての意識を高めるため、まちあるきレポートを作成する。具体的には、グループ単位で、(1)美観地区界隈を歩く、(2)自分たちで決めた場所を歩く、ということを行い、グループ単位でレポートを作成し、グループ単位で発表し、発表時にレポートを1部提出する。原則として以下のスケジュールで行うこと。

(1)は5月8日～6月10日の間にまち歩きを行い、レポートを作成し、6月11日に発表する。
(2)は5月8日～7月15日の間にまち歩きを行い、レポートを作成し、7月16日に発表する。
ただし、発表が間に合わなかった人は7月23日、7月30日に発表することができる。

・グループは2名～9名とする。どうしても1名にしかならない場合には教員と相談の上、決定する。

・地域課題の発見・問題解決のための事前学修や事後学修のために5号館5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

適宜指示する。

倉敷まちづくり実践論（99651）

後期

Practice of Kurashiki Community Development

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	Ⓐ 小山悦司 Ⓑ 橋元純也

授業の概要

学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。倉敷市内での実践的かつ探索的なフィールドワーク（まち歩き・インタビュー）を行う。こうした地域でのまちづくり活動を通して、課題を発見し、データを収集分析して、解決方法を提言できる知識・技能を育成する。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】 フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション

【フィードバック】 最終回の授業において、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応した目標を設定している。

- （1）フィールドワークなどにより、地域の課題を発見し説明することができる。
- （2）地域課題の解決に向けて、インタビューによる実態把握、関連データの蓄積、先進事例の把握など、適切な情報を収集することができる。
- （3）地域課題の解決方法をレポートやプレゼンテーションにより他者に明確に説明することができる。
- （4）まちづくりに対する主体的・実践的な態度や姿勢を身に付け自己を客観的に評価できる力を獲得する。

評価方法

活動計画レポート（20%）、活動報告レポート（20%）と、まちづくり提言レポート（40%）、プレゼンテーション（20%）に基づいて評価する。

到達目標（1）（2）は活動計画レポート、活動報告レポート、まちづくり提言レポート、（3）はプレゼンテーション、（4）は多面的に評価するルーブリックを用いてそれぞれの到達度を評価する。

注意事項

前期に開講される「倉敷まちづくり基礎論」を履修し、単位を取得していることが望ましい。

学内での授業に加えて、倉敷駅周辺や美観地区など、学外でも授業を実施する。会場の都合で日程が変更になる場合があるので、掲示によく注意しておくこと。

実際にフィールドワーク・まち歩きやグループワーク・プレゼンテーションを行うので、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

授業計画

1. オリエンテーション 〈小山・橋元〉

【10月3日 3限（13:10-14:40）】

2. 倉敷のまちづくりに向けた取組と将来構想 〈小山・橋元〉

【10月3日 4限（14:55-16:25）】

3. グループ編成+まちづくり活動計画の作成 〈小山・橋元〉

【10月3日 5限（16:40-18:10）】

※活動計画レポート提出

- 4～6. フィールドワークⅠー学生によるまちづくりの活動Ⅰー

10/4～12/4の間に阿智神社秋の大祭（10/17・18）、「倉敷屏風祭」（10/17・18）、「倉敷三斎市」（10/18、11/15）、「倉敷路地市庭（毎週土曜）」などにて実践活動

※必要に応じて担当教員が巡回指導

7. 学生によるまちづくり活動の諸事例 〈小山・橋元〉

【12月5日 3限（13:10-14:40）】

8. 学生によるまちづくり活動Ⅰの報告と討議 〈小山・橋元〉

- 【12月5日 4限（14:55-16：25）】
9. 学生によるまちづくり活動Ⅰの報告と討議 〈小山・橋元〉
- 【12月5日 5限（16：40-18:10）】
- ※活動報告レポート提出
- 10～12. フィールドワークⅡ—学生によるまちづくりの活動Ⅱ—
- 12/6～1/8の間に、「倉敷三斎市」（12/20）、「倉敷路地市庭（毎週土曜）」などにて実践活動
- ※必要に応じて担当教員が巡回指導
13. まちづくりに向けての提言（グループワーク） 〈小山・橋元〉
- 【1月9日 3限(13:10-14:40)】
14. まちづくりに向けての提言（プレゼンテーション） 〈小山・橋元〉
- 【1月9日 4限（14：55-16：25）】
15. まちづくりに向けての提言（提言レポート作成） 〈小山・橋元〉
- 【1月9日 5限(16:40-18:10)】

授業外学習

- ・実際にフィールドワーク・まち歩きを行い情報や資料を収集して、活動計画レポート、活動報告レポート、まちづくり提言レポートを作成する。
 - ・グループワークやプレゼンテーションを実施するので、事前に関連情報を収集するなどの準備が必要となる。
 - ・「倉敷三斎市（毎月第3日曜）」「倉敷路地市庭（毎週土曜）」などの活動にも参加して、まちづくりに関する知見を得るための事前準備をしておくこと。
 - ・授業の最終回で「まちづくりに向けての提言（プレゼンテーション）」を行うので準備をしておくこと。
- 以上の活動や準備を含めて、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

まちづくりインターンシップ（99601）

前期

Internship of Community Development

教養科目

年次	2年
対象	25～17 芸,産,生,危
単位数	2. 0単位
担当教員	 小山悦司  谷川真利子  橋元純也

授業の概要

学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」というコンセプトで地域の活性化も目的としている。

まちづくりや地域振興に関わる団体・NPO法人等で、60時間（教室内授業を含む）以上のインターンシップ活動を行う。

まちづくりや地域振興に関連した職務体験を通して、地域における課題に直面し、活性化の方策を探り、その成果をまとめて報告するという一連の学習（学修）に取り組む。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】 フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】 最終回の授業において、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】本年度は、高梁川流域の企業等を紹介する「龍の仕事展」を受け入れ先として、インターンシップを行う。インターンシップの事前研修Ⅰ・Ⅱ、企業研修、中間研修、直前研修、実践研修、成果発表、事後研修、最終成果発表などの一連のプログラムにおいて、地元企業の代表取締役（人事・研修部署経験）、ビジネスマナー研修講師等の実務家（講師）により、実践的な指導がなされる。

到達目標

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応した目標を設定している。

- 1 インターンシップのねらいや育成する能力そして基本的なビジネスマナーについて理解し説明できる。
- 2 インターンシップ活動を通じて、課題を発見し解決方法を提示できる能力を身に付ける。
- 3 インターンシップ活動の成果等をレポートやプレゼンテーションにより他者に明確に説明することができる。
- 4 社会人基礎力として、主体性、実行力、傾聴力、規律性、協働性等を身に付ける。
- 5 自分に能力を発揮するにふさわしい仕事に就くための力（就業力）を身に付ける。

評価方法

毎回の授業で実施する小レポート20%（到達目標1・2・4・5を評価）、課題レポート30%（到達目標2・4・5を評価）、インターンシップ活動記録20%（到達目標2・4・5を評価）、プレゼンテーション30%（到達目標3を評価）に基づいて評価し、総合計60点以上で合格とする。

注意事項

- ・「倉敷まちづくり基礎論」および「倉敷まちづくり実践論」を履修しておくことが望ましい。
- ・学外での活動が中心となるため、スケジュール管理、時間管理、健康管理、礼儀・作法が求められる。
- ・受け入れ先との日程調整等により予定が変更になる場合があるので掲示に注意すること。

授業計画

オリエンテーション【4月27日5限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップの基礎理解と受入先の検討【5月11日5限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップの心構えと準備【5月25日5限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップの流れ・諸手続き【6月8日5限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップの最終準備【6月22日5限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップ活動－経過報告会【7月25日3限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップ活動－経過報告会【7月25日4限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップ活動－経過報告会【9月10日3限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップ活動－経過報告会【9月10日4限】（小山・谷川・橋元）

インターンシップの成果報告とグループ・ディスカッション【9月23日3限】（小山・橋元）

授業外学習

- ・インターンシップに参加する前に、受け入れ先等についてインターネットなどで情報を収集しておくこと。
 - ・インターンシップの実施について、記録簿等の提出物に記入しておくこと。
 - ・インターンシップの期間中、就業前に一日の目標を立て、実施後、その日の振り返りをし、次のインターンシップ活動の改善に生かすこと。
 - ・インターンシップで得られた成果等を取りまとめたレポートを作成すること。
 - ・インターンシップの成果等を報告するプレゼンテーションを実施するので準備しておくこと。
 - ・以上の活動や準備で合計して30時間以上の授業外学習が必要となる。
-

教科書

特に教科書は使用しない。自作教材を配布する。

参考書

必要に応じて別途指示する。

備考

倉敷と仕事（99355）

後期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 21 K,N,R,,
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 小山悦司 👤 橋元純也 👤 菅正樹

授業の概要

地域の課題解決に向けて主体的に学ぶ態度や姿勢を育成する科目である。大学が立地する倉敷市のまちづくりの理念を共有して課題を発見し、その解決に向けて様々な人々と協働して取り組むことのできる資質や能力を獲得することをねらいとしている。「くらしき若衆」育成プログラムの基盤となる科目であり、「くらしき若衆」として認定されるための必修科目である。

授業方法として、アクティブ・ラーニング（グループワーク、フィールドワーク、課題解決型学習、プレゼンテーション）を取り入れている。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、地域貢献力の高い人材の育成をめざした科目である。

【実務経験のある教員による授業科目】15回の授業のうち9回は、倉敷市文化振興財団理事長、語らい座大原本邸 館長、倉敷青年会議所理事長など、学外から招聘した講師（実務家）による講話がなされる。

到達目標

- (1) 倉敷市の課題やまちづくりの理念について理解し説明できる。
- (2) グループワーク等により地域課題の解決に向けた提言を行うことができる。
- (3) 倉敷市の企業や団体についての理解が深まり地元への就業意識が高まる。
- (4) 将来の進路実現に向けて職業に対する理解やキャリア形成力が高まる。
- (5) コミュニケーション能力など社会人基礎力の重要性を理解し説明できる。

評価方法

授業で毎回実施する小レポート（４０％）、２回の課題レポート（４０％）、プレゼンテーション（２０％）に基づいて評価する。

到達目標（１）（３）（５）は小レポートと２回の課題レポート、（２）はプレゼンテーション、（４）は多面的に評価するルーブリックにより成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実際にフィールドワーク・まち歩きやグループワーク・プレゼンテーションを行うので、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

最終回の授業において、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

授業計画

- 1 （9/30）オリエンテーション（小山・橋元・菅）
- 2 （10/7）「倉敷の地域づくりの現状と今後の展望」倉敷市まちづくり推進課（小山・橋元・菅）
- 3 （10/14）フィールドワークのスケジュール&グループ編成（橋元・菅）
- 4 （10/21）「倉敷の歴史と文化（倉敷町衆講座）」倉敷市文化振興財団 理事長 岡荘一郎様（橋元・菅）
- 5 （10/28）「倉敷に宿る大原精神（倉敷町衆講座）」公益財団法人有隣会 林良子様（小山・橋元・菅）
フィールドワーク・まち歩き 10/30（金）～11/15（日）
- 6 （11/4）「倉敷の安全・安心をめぐる地域課題」倉敷市防災危機管理室（橋元・菅）
〔課題レポート1：倉敷の魅力と課題〕
- 7 （11/11）「地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について」倉敷市企画経営室（橋元・菅）
- 8 （11/18）「仕事や人との関わり：社会人基礎力」オフィスリファイン桑田朋美様（橋元・菅）
- 9 （11/25）「生涯人生設計と就職に向けて」（株）はたらこらぼ井上翔平様（橋元・菅）
- 10 （12/2）「地域貢献と産業の活性化」倉敷青年会議所 理事長様（橋元・菅）
- 11 （12/9）「キャリア形成とインターンシップ」D-INTERNSHIP事務局長久保田正彦様（橋元・菅）
- 12 （12/16）「地域課題の整理（グループワーク）」【22103教室】【22012教室】（小山・橋元・菅）
- 13 （1/6）「提言に向けた資料作成（グループワーク）」【22103教室】【22012教室】（小山・橋元・菅）
- 14 （1/13）「全グループの提言（プレゼンテーション）」（橋元・菅）

15 (1/20) グループ提言「若者の感じた倉敷と将来ビジョン」 (小山・橋元・菅)
〔課題レポート2：倉敷市の地域課題の解決に向けて〕

授業外学習

- ・与えられた課題に対して、実際にフィールドワーク・まち歩きを行い、情報や資料を収集してレポートを作成する。
- ・地域課題の解決に向けたグループ提言「若者の感じた倉敷と将来ビジョン」(プレゼンテーション)の準備を行う。

以上の活動や準備を含めて、合計60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

倉敷と仕事（99309）

前期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 21 W,W,W,M
単位数	2．0 単位
担当教員	 小山悦司  橋元純也  菅正樹

授業の概要

地域の課題解決に向けて主体的に学ぶ態度や姿勢を育成する科目である。大学が立地する倉敷市のまちづくりの理念を共有して課題を発見し、その解決に向けて様々な人々と協働して取り組むことのできる資質や能力を獲得することをねらいとしている。「くらしき若衆」育成プログラムの基盤となる科目であり、「くらしき若衆」として認定されるための必修科目である。

授業方法として、アクティブ・ラーニング（グループワーク、フィールドワーク、課題解決型学習、プレゼンテーション）を取り入れている。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、地域貢献力の高い人材の育成をめざした科目である。

【実務経験のある教員による授業科目】15回の授業のうち9回は、倉敷市文化振興財団理事長、語らい座大原本邸 館長、倉敷青年会議所理事長など、学外から招聘した講師（実務家）による講話がなされる。

到達目標

- (1) 倉敷市の課題やまちづくりの理念について理解し説明できる。
- (2) グループワーク等により地域課題の解決に向けた提言（プレゼンテーション）を行うことができる。
- (3) 倉敷市の企業や団体についての理解が深まり地元への就業意識が高まる。
- (4) 将来の進路実現に向けて職業に対する理解やキャリア形成力が高まる。
- (5) コミュニケーション能力など社会人基礎力の重要性を理解し説明できる。

評価方法

授業で毎回実施する小レポート（40％）、2回の課題レポート（40％）、プレゼンテーション（20％）に基づいて評価する。

到達目標（1）（3）（5）は小レポートと2回の課題レポート、（2）はプレゼンテーション、（4）は多面的に評価するルーブリックにより成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実際にフィールドワーク・まち歩きやグループワーク・プレゼンテーションを行うので、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

最終回の授業において、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

授業計画

- （4/15）オリエンテーション（小山・橋元・菅）
- （4/22）「倉敷の地域づくりの現状と今後の展望」倉敷市まちづくり推進課（橋元・菅）
- （5/6）フィールドワークのスケジュール&グループ編成（小山・橋元・菅）
- （5/13）「倉敷の歴史と文化（倉敷町衆講座）」倉敷市文化振興財団 理事長 岡荘一郎様（橋元・菅）
- （5/20）「倉敷に宿る大原精神（倉敷町衆講座）」公益財団法人有隣会 林良子様（菅）
フィールドワーク・まち歩き 5/23（土）～6/7（日）
- （5/27）「倉敷の安全・安心をめぐる地域課題」倉敷市防災危機管理室（橋元・菅）
〔課題レポート1：倉敷の魅力と課題〕
- （6/3）「地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について」倉敷市企画経営室（小山・橋元・菅）
- （6/10）「生涯人生設計と就職に向けて」（株）はたらころぼ井上翔平様（橋元・菅）
- （6/17）「仕事や人との関わり：社会人基礎力」オフィスリファイン桑田朋美様（菅）
- （6/24）「地域貢献と産業の活性化」倉敷青年会議所 理事長様（小山・橋元・菅）
- （7/1）「キャリア形成とインターンシップ」D-INTERNSHIP事務局長久保田正彦様（小山・橋元・菅）
- （7/8）「地域課題の整理（グループワーク）」【22103教室】【22012教室】（橋元・菅）
- （7/15）「提言に向けた資料作成（グループワーク）」【22103教室】【22012教室】（菅）
- （7/22）「全グループの提言（プレゼンテーション）」（小山・橋元・菅）

15 (7/29) グループ提言「若者の感じた倉敷と将来ビジョン」 (小山・橋元・菅)
〔課題レポート2：倉敷市の地域課題の解決に向けて〕

授業外学習

- ・与えられた課題に対して、実際にフィールドワーク・まち歩きを行い、情報や資料を収集してレポートを作成する。
- ・地域課題の解決に向けたグループ提言「若者の感じた倉敷と将来ビジョン」(プレゼンテーション)の準備を行う。

以上の活動や準備を含めて、合計60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 21 B,Y
単位数	2． 0 単位
担当教員	 小山悦司  橋元純也  菅正樹

授業の概要

地域の課題解決に向けて主体的に学ぶ態度や姿勢を育成する科目である。大学が立地する倉敷市のまちづくりの理念を共有して課題を発見し、その解決に向けて様々な人々と協働して取り組むことのできる資質や能力を獲得することをねらいとしている。「くらしき若衆」育成プログラムの基盤となる科目であり、「くらしき若衆」として認定されるための必修科目である。

授業方法として、アクティブ・ラーニング（グループワーク、フィールドワーク、課題解決型学習、プレゼンテーション）を取り入れている。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、地域貢献力の高い人材の育成をめざした科目である。

【実務経験のある教員による授業科目】15回の授業のうち9回は、倉敷市文化振興財団理事長、語らい座大原本邸 館長、倉敷青年会議所理事長など、学外から招聘した講師（実務家）による講話がなされる。

到達目標

- (1) 倉敷市の課題やまちづくりの理念について理解し説明できる。
- (2) グループワーク等により地域課題の解決に向けた提言（プレゼンテーション）を行うことができる。
- (3) 倉敷市の企業や団体についての理解が深まり地元への就業意識が高まる。
- (4) 将来の進路実現に向けて職業に対する理解やキャリア形成力が高まる。
- (5) コミュニケーション能力など社会人基礎力の重要性を理解し説明できる。

評価方法

授業で毎回実施する小レポート（４０％）、２回の課題レポート（４０％）、プレゼンテーション（２０％）に基づいて評価する。

到達目標（１）（３）（５）は小レポートと２回の課題レポート、（２）はプレゼンテーション、（４）は多面的に評価するルーブリックにより成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実際にフィールドワーク・まち歩きやグループワーク・プレゼンテーションを行うので、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

最終回の授業において、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

授業計画

- 1 （4/15）オリエンテーション（小山・橋元・菅）
- 2 （4/22）「倉敷の地域づくりの現状と今後の展望」倉敷市まちづくり推進課（橋元・菅）
- 3 （5/6）フィールドワークのスケジュール&グループ編成（小山・橋元・菅）
- 4 （5/13）「倉敷の歴史と文化（倉敷町衆講座）」倉敷市文化振興財団 理事長 岡荘一郎様（橋元・菅）
- 5 （5/20）「倉敷に宿る大原精神（倉敷町衆講座）」公益財団法人有隣会 林良子様（菅）
フィールドワーク・まち歩き 5/23（土）～6/7（日）
- 6 （5/27）「倉敷の安全・安心をめぐる地域課題」倉敷市防災危機管理室（橋元・菅）
〔課題レポート1：倉敷の魅力と課題〕
- 7 （6/3）「地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について」倉敷市企画経営室（小山・橋元・菅）
- 8 （6/10）「生涯人生設計と就職に向けて」（株）はたらころぼ井上翔平様（橋元・菅）
- 9 （6/17）「仕事や人との関わり：社会人基礎力」オフィスリファイン桑田朋美様（菅）
- 10 （6/24）「地域貢献と産業の活性化」倉敷青年会議所 理事長様（小山・橋元・菅）
- 11 （7/1）「キャリア形成とインターンシップ」D-INTERNSHIP事務局長久保田正彦様（小山・橋元・菅）
- 12 （7/8）「地域課題の整理（グループワーク）」【22103教室】【22012教室】（橋元・菅）
- 13 （7/15）「提言に向けた資料作成（グループワーク）」【22103教室】【22012教室】（菅）
- 14 （7/22）「全グループの提言（プレゼンテーション）」（小山・橋元・菅）

15 (7/29) グループ提言「若者の感じた倉敷と将来ビジョン」 (小山・橋元・菅)
〔課題レポート2：倉敷市の地域課題の解決に向けて〕

授業外学習

- ・与えられた課題に対して、実際にフィールドワーク・まち歩きを行い、情報や資料を収集してレポートを作成する。
- ・地域課題の解決に向けたグループ提言「若者の感じた倉敷と将来ビジョン」(プレゼンテーション)の準備を行う。

以上の活動や準備を含めて、合計60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 25 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 赤木恒雄  箕口けい子

授業の概要

地域社会の構成員として活躍できる能力を育成する科目である。

自分を振り返り、自分の進むべき方向性を明確にするための情報を知ることにより、地域社会の構成員として主体的に活動できる能力や姿勢を育成する科目である。

現代の激動する社会に対応するためには、大学 4 年間で幅広い教養と専門的知識の習得が必要である。同時に、時間的余裕のある大学時代は今までの自分を振り返り、自分の将来について考える、すなわち自分の人生設計について考えるよい機会でもある。「人生と仕事」は自分が今後就職し、どのような生き方をするか考えるためのヒントを提供する科目である。

そこで、講義では仕事を通しての人生設計について、また就職活動を行う上で必要となる知識に関する分野（エントリーシートの書き方、プレゼンテーション力、ビジネスマナーなど）（「就職に向けて」）と就職先となる様々な職業・職種についての知識に関する分野（「業界研究」）について、人生の先輩、企業人及び業界経験者からリレー方式で講話してもらう。

【アクティブラーニング】一部の授業ではグループワーク・グループディスカッションを取り入れている。

【実務経験のある教員による授業科目】学生の就業力を高めるために、「仕事の意義や重要性」「ビジネスマナー」「模擬面接・集団討論」「プレゼンテーション力」「自己分析・企業分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」をテーマにして、学外から招聘した講師（実務家）による授業が計6回実施される。さらに業界研究として、「メディア・映像系」「化学・食品・薬品系」「健康・医療系」「マーケティング・販売系」「マスコミ・広告代理店系」「情報・IT系」の分野ごとに、実務家の講師による授業が計6回実施される。

到達目標

- 1．将来の仕事・職種を考えるための知識を学び、自己実現の方法をしっかりと考え・実践することができる。
- 2．自己表現力、ビジネスマナー等を含めた「社会人基礎力」を身につけることの大切さを認識し、それに取り組むことができる。
- 3．様々な業界・業種について理解し、就職へのヒントを得ることができる。

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト（出席票への記載）50%（到達目標1、2、3を評価）、期末レポート50%（到達目標1、2、3を評価）の割合で総合的に評価する。

注意事項

- 1．各自が授業前に資料と出席票を取りに来ること。
- 2．提出された出席票で授業内容の確認が行われ、評価される。
- 3．授業時に配布される資料等はファイルしておくこと。
- 4．遅刻・私語・他者に迷惑を掛ける行為は厳禁とする。
- 5．授業には主体的、積極的に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（赤木恒雄）
第2回	就職に向けてⅠ 仕事入門講座（倉敷市役所企画経営室）
第3回	就職に向けてⅥ SPI問題対策について（赤木恒雄）
第4回	就職に向けてⅡ ビジネスマナーについて（平田真由美）
第5回	就職に向けてⅢ プレゼンテーション力について（濱家輝雄）
第6回	就職に向けてⅣ（模擬面接・集団討論について（平田真由美）

回数	内容
第7回	業界研究Ⅱ マスコミ・宣伝・営業力（久米田真志）
第8回	就職に向けてⅤ 自己分析・履歴書・エントリーシートの書き方（ハローワーク）
第9回	産業研究Ⅰ 情報・IT・企業系（村山公保）
第10回	業界研究Ⅲ 医療現場で働くこと（佐藤 正和）
第11回	就職に向けてⅦ 暮らしの中の税（倉敷税務署）
第12回	業界研究Ⅳ 化学・食品・薬品系（岡憲明）
第13回	業界研究Ⅴ 健康づくり産業について（岸本光顕）
第14回	業界研究Ⅵ フリーランスと会社勤めのキャリアパス～クリエイティブ職を例として（中川浩一）
第15回	まとめ・レポート（赤木恒雄）

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・授業の前に『授業計画』に目を通し、受講後は、レジュメ等を見ながら何を学んだのか、何を得たのかを考える。
- ・授業で学んだ内容を日常生活の中で、意識して実践する。
- ・絶えず新聞・テレビ等を通して、社会の動向を充分に把握しておく。

教科書

授業開始時にレジュメ・資料等を配布する。

参考書

授業時に適宜指示する。

備考

人生と仕事（99356）

後期

Life and Work

教養科目

年次	2 年
対象	25 ～ 25 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 赤木恒雄  箕口けい子

授業の概要

地域社会の構成員として活躍できる能力を育成する科目である。

自分を振り返り、自分の進むべき方向性を明確にするための情報を知ることにより、地域社会の構成員として主体的に活動できる能力や姿勢を育成する科目である。

現代の激動する社会に対応するためには、大学 4 年間で幅広い教養と専門的知識の習得が必要である。同時に、時間的余裕のある大学時代は今までの自分を振り返り、自分の将来について考える、すなわち自分の人生設計について考えるよい機会でもある。「人生と仕事」は自分が今後就職し、どのような生き方をするか考えるためのヒントを提供する科目である。

そこで、講義では仕事を通しての人生設計について、また就職活動を行う上で必要となる知識に関する分野（エントリーシートの書き方、プレゼンテーション力、ビジネスマナーなど）（「就職に向けて」）と就職先となる様々な職業・職種についての知識に関する分野（「業界研究」）について、人生の先輩、企業人及び業界経験者からリレー方式で講話してもらう。

【アクティブラーニング】一部の授業ではグループワーク・グループディスカッションを取り入れている。

【実務経験のある教員による授業科目】学生の就業力を高めるために、「仕事の意義や重要性」「ビジネスマナー」「模擬面接・集団討論」「プレゼンテーション力」「自己分析・企業分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」をテーマにして、学外から招聘した講師（実務家）による授業が計6回実施される。さらに業界研究として、「メディア・映像系」「化学・食品・薬品系」「健康・医療系」「マーケティング・販売系」「マスコミ・広告代理店系」「情報・IT系」の分野ごとに、実務家の講師による授業が計6回実施される。

到達目標

- 1．将来の仕事・職種を考えるための知識を学び、自己実現の方法をしっかりと考え・実践することができる。
- 2．自己表現力、ビジネスマナー等を含めた「社会人基礎力」を身につけることの大切さを認識し、それに取り組むことができる。
- 3．様々な業界・業種について理解し、就職へのヒントを得ることができる。

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト（出席票への記載）50%（到達目標1、2、3を評価）、期末レポート50%（到達目標 1、2、3を評価）の割合で総合的に評価する。

注意事項

- 1．各自が授業前に資料と出席票を取りに来ること。
- 2．提出された出席票で授業内容の確認が行われ、評価される。
- 3．授業時に配布される資料等はファイルしておくこと。
- 4．遅刻・私語・他者に迷惑を掛ける行為は厳禁とする。
- 5．授業には主体的、積極的に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（赤木恒雄）
第2回	就職に向けてⅠ 仕事入門講座（倉敷市役所企画経営室）
第3回	就職に向けてⅡ ビジネスマナーについて（平田真由美）
第4回	就職に向けてⅢ SPI問題対策について（赤木恒雄）
第5回	就職に向けてⅣ（模擬面接・集団討論について（平田真由美）
第6回	業界研究Ⅰ 検査と健康（藤本 一満）

回数	内容
第7回	就職に向けてⅤ プレゼンテーション力について（濱家輝雄）
第8回	業界研究Ⅱ マスコミ・宣伝・営業力（久米田眞志）
第9回	業界研究Ⅲ デザイン系（正宗 幸子）
第10回	就職に向けてⅥ 自己分析・履歴書・エントリーシートの書き方（ハローワーク）
第11回	業界研究Ⅳ 健康づくり産業について（岸本光顕）
第12回	就職に向けてⅦ 暮らしの中の税（倉敷税務署）
第13回	産業研究Ⅴ 情報・IT・企業系（村山公保）
第14回	業界研究Ⅵ 化学・食品・薬品系（岡憲明）
第15回	まとめ・レポート（赤木恒雄）

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・授業の前に『授業計画』に目を通し、受講後は、レジュメ等を見ながら何を学んだのか、何を得たのかを考える。
- ・授業で学んだ内容を日常生活の中で、意識して実践する。
- ・絶えず新聞・テレビ等を通して、社会の動向を充分に把握しておく。

教科書

授業開始時にレジュメ・資料等を配布する。

参考書

授業時に適宜指示する。

備考

地域貢献実践(芸術) (99602)

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3 年
対象	24 ～ 21 芸
単位数	1. 0 単位
担当教員	 大屋努

授業の概要

地域の資源と課題を発見・分析・検討し、主体的に解決策を立案・実践し、地域ニーズに対する自律的な問題解決能力の獲得を目標とする。
本科目は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC 事業）として実施される「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】 問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】 レポートやプレゼンテーションに対し、講評やレビューなどを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 地域の抱える課題を発見・分析することができる。
- 2 地域課題の解決策を立案・実践することができる。
- 3 課題解決に向けた成果を評価する能力を身に付ける。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3. 地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、まちづくりリーダーの育成を目標に設定している。

評価方法

到達目標 1 ～ 3 は、取り組む態度・姿勢（50%）、プレゼンテーション（20%）、活動の成果（30%）により評価する。総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

達成度を多面的に評価するループリック（達成水準を明確化した評価資料）の提出を求める。

地域行事の都合等により日程を変更することがある。

授業計画

[4月18日（土） 1時限] 倉敷芸術科学大学
・ガイダンス（※履修者は必ず出席すること）

[7月11日（土） 2～5時限] 学外実習（真備）
・地域での実践活動

[9月1日（火） 3～5時限] 倉敷芸術科学大学
・実践活動のレビュー、提案と企画、制作

※授業時間外にも実践活動を行う。（15時間以上）

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

・授業時間外に実践活動や準備を行う。

教科書

教科書を使用しない。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

地域貢献実践（産業）（99603）

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3年
対象	24～21産
単位数	1.0単位
担当教員	👤 小山悦司 👤 谷川真利子 👤 橋元純也

授業の概要

地域に貢献できる資質能力を育成する入門編として、与えられたテーマに基づき、地域の抱える課題を発見・分析し、検討する。そして、その課題への解決策を立案・実践し、その成果を評価する能力を培う。具体的には、倉敷市の協力を得て、課題解決型インターンシップに参加することで一連の課題解決のプロセスを実践することをねらいとしている。

本科目は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）の理念を継承した「くらしき若衆」認定の対象となる科目である。授業方法として、アクティブ・ラーニング（問題解決学習とプレゼンテーション）を取り入れている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、地域貢献力の高い人材の育成をめざした目標を設定している。

到達目標

- 1 地域の抱える課題を自ら発見・分析することができる。
- 2 地域課題への解決策を立案することができる。
- 3 地域課題への解決策を他者と協働して実践することができる。
- 4 課題解決に向けた成果を分かり易く明確に伝えることができる。

評価方法

インターンシップの活動記録30%（到達目標1・2・3を評価）、地域課題の解決に向けたレポート40%（到達目標1・2・3を評価）、成果報告プレゼンテーション30%（到達目標4を評価）で成績を評価し、総合計60点以上で合格とする。

注意事項

- ・受け入れ先の倉敷市に迷惑をかけることがないように安易な気持ちで履修しないこと。
- ・インターンシップ受入先の都合で日程が変更になる場合があるので、掲示によく注意しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス：地域貢献活動の実践に向けて【5月18日5限】（小山・谷川・橋元）
2. インターンシップの受入側とのマッチング【6月1日5限】（小山・谷川・橋元）
3. インターンシップの事前指導【6月15日5限】（小山・谷川・橋元）
4. 倉敷市役所を中心にインターンシップに従事（14時間以上）
【例】倉敷市「企画財政部くらしき移住定住推進室」、「男女共同参画課」、「健康づくり課」など
5. 中間報告とアドバイザーその1ー【6月29日5限】（小山・谷川・橋元）
6. インターンシップの継続
7. 中間報告とアドバイザーその2ー【7月6日5限】（小山・谷川・橋元）
8. インターンシップの成果報告【7月13日5限】（小山・谷川・橋元）
9. インターンシップの事後指導ー地域貢献活動の振り返りと今後の実践に向けてー【7月20日5限】（小山・谷川・橋元）
10. レポート・プレゼンテーションに対するフィードバックー総括・まとめー【7月27日5限】（小山・谷川・橋元）

授業外学習

与えられた課題に対して、インターンシップ活動を行い、情報や資料を収集して課題解決に向けたレポートを作成する。また、インターンシップ活動で得られた成果を報告するプレゼンテーションなどの準備を行う。合計して15時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

備考

地域貢献実践（生命）（99604）

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3 年
対象	24 ～ 21 生
単位数	1. 0 単位
担当教員	 小山悦司  佐藤恒夫

授業の概要

地域に貢献できる資質能力を育成する入門編として、与えられたテーマに基づき、地域の抱える課題を発見・分析し、検討する。そして、その課題への解決策を立案・実践し、その成果を評価する能力を培う。具体的には、倉敷市の協力を得て、課題解決型インターンシップに参加することで一連の課題解決のプロセスを実践することをねらいとしている。

本科目は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）の理念を継承した「くらしき若衆」認定の対象となる科目である。授業方法として、アクティブ・ラーニング（問題解決学習とプレゼンテーション）を取り入れている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、地域貢献力の高い人材の育成をめざした目標を設定している。

到達目標

- 1 地域の抱える課題を自ら発見・分析することができる。
- 2 地域課題への解決策を立案することができる。
- 3 地域課題への解決策を他者と協働して実践することができる。
- 4 課題解決に向けた成果を分かり易く明確に伝えることができる。

評価方法

インターンシップの活動記録 3 0 %（到達目標1・2・3を評価）、地域課題の解決に向けたレポート 4 0 %（到達目標1・2・3を評価）、成果報告プレゼンテーション 3 0 %（到達目標4を評価）で成績を評価し、総合計 6 0 点以上で合格とする。

注意事項

- ・受け入れ先の倉敷市に迷惑をかけることがないように安易な気持ちで履修しないこと。
- ・インターンシップ受入先の都合で日程が変更になる場合があるので、掲示によく注意しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス：地域貢献活動の実践に向けて【5月18日5限】（小山・谷川・橋元）
2. インターンシップの受入側とのマッチング【6月1日5限】（小山・谷川・橋元）
3. インターンシップの事前指導【6月15日5限】（小山・谷川・橋元）
4. 倉敷市役所を中心にインターンシップに従事（14時間以上）
【例】倉敷市「企画財政部くらしき移住定住推進室」、「男女共同参画課」、「健康づくり課」など
5. 中間報告とアドバイスーその1ー【6月29日5限】（小山・谷川・橋元）
6. インターンシップの継続
7. 中間報告とアドバイスーその2ー【7月6日5限】（小山・谷川・橋元）
8. インターンシップの成果報告【7月13日5限】（小山・谷川・橋元）
9. インターンシップの事後指導ー地域貢献活動の振り返りと今後の実践に向けてー【7月20日5限】（小山・谷川・橋元）
10. レポート・プレゼンテーションに対するフィードバックー総括・まとめー【7月27日5限】（小山・谷川・橋元）

授業外学習

与えられた課題に対して、インターンシップ活動を行い、情報や資料を収集して課題解決に向けたレポートを作成する。また、インターンシップ活動で得られた成果を報告するプレゼンテーションなどの準備を行う。合計して15時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

備考

地域貢献実践（危機）（99606）

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3 年
対象	24 ～ 23 危
単位数	1．0 単位
担当教員	 小山悦司  佐藤恒夫

授業の概要

地域に貢献できる資質能力を育成する入門編として、与えられたテーマに基づき、地域の抱える課題を発見・分析し、検討する。そして、その課題への解決策を立案・実践し、その成果を評価する能力を培う。具体的には、倉敷市の協力を得て、課題解決型インターンシップに参加することで一連の課題解決のプロセスを実践することをねらいとしている。

本科目は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）の理念を継承した「くらしき若衆」認定の対象となる科目である。授業方法として、アクティブ・ラーニング（問題解決学習とプレゼンテーション）を取り入れている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、地域貢献力の高い人材の育成をめざした目標を設定している。

到達目標

- 1 地域の抱える課題を自ら発見・分析することができる。
- 2 地域課題への解決策を立案することができる。
- 3 地域課題への解決策を他者と協働して実践することができる。
- 4 課題解決に向けた成果を分かり易く明確に伝えることができる。

評価方法

インターンシップの活動記録 3 0 %（到達目標1・2・3を評価）、地域課題の解決に向けたレポート 4 0 %（到達目標1・2・3を評価）、成果報告プレゼンテーション 3 0 %（到達目標4を評価）で成績を評価し、総合計 6 0 点以上で合格とする。

注意事項

- ・受け入れ先の倉敷市に迷惑をかけることがないように安易な気持ちで履修しないこと。
- ・インターンシップ受入先の都合で日程が変更になる場合があるので、掲示によく注意しておくこと。

授業計画

- 1．ガイダンス：地域貢献活動の実践に向けて【5月18日5限】（小山・谷川・橋元）
- 2．インターンシップの受入側とのマッチング【6月1日5限】（小山・谷川・橋元）
- 3．インターンシップの事前指導【6月15日5限】（小山・谷川・橋元）
- 4．倉敷市役所を中心にインターンシップに従事（14時間以上）
【例】倉敷市「企画財政部くらしき移住定住推進室」、「男女共同参画課」、「健康づくり課」など
- 5．中間報告とアドバイスーその1ー【6月29日5限】（小山・谷川・橋元）
- 6．インターンシップの継続
- 7．中間報告とアドバイスーその2ー【7月6日5限】（小山・谷川・橋元）
- 8．インターンシップの成果報告【7月13日5限】（小山・谷川・橋元）
- 9．インターンシップの事後指導ー地域貢献活動の振り返りと今後の実践に向けてー
【7月20日5限】（小山・谷川・橋元）
- 1 0．レポート・プレゼンテーションに対するフィードバックー総括・まとめー
【7月27日5限】（小山・谷川・橋元）

授業外学習

与えられた課題に対して、インターンシップ活動を行い、情報や資料を収集して課題解決に向けたレポートを作成する。また、インターンシップ活動で得られた成果を報告するプレゼンテーションなどの準備を行う。合計して 1 5 時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

備考

若衆実践演習（99652）

前期

Development of Regional Leader

教養科目

年次	3 年
対象	24 ～ 21 芸,産,生,危
単位数	1． 0 単位
担当教員	 小山悦司  原浩之  橋元純也

授業の概要

地域に貢献できる資質能力を育成する応用編として、地域の抱える課題を自ら発見・分析し、その課題への解決策を自律的に立案・実践し、その成果を多面的に評価する能力を培うとともに、若衆（地域で活躍する若者）の育成に繋げる。「くらしき若衆」育成プログラムのSTEP 3 に位置づけられた科目として、まちづくりリーダーに求められる資質能力を育成する。

本科目は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）の理念を継承した「くらしき若衆」認定の対象となる科目である。授業方法として、アクティブ・ラーニング（問題解決学習、プレゼンテーション、グループ・ディスカッション）を取り入れている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3.地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、地域貢献力の高い人材の育成をめざした目標を設定している。

到達目標

- 1 地域の抱える課題を自ら発見・分析することができる。
- 2 地域課題への解決策を立案することができる。
- 3 地域課題への解決策を他者と協働して実践することができる。
- 4 課題解決に向けた成果を明確に伝えることができる。

評価方法

地域課題の解決に向けたレポート5 0 %（到達目標1・2・3を評価）、成果報告プレゼンテーション5 0 %（到達目標4を評価）で成績を評価し、総合計6 0 点以上で合格とする。

注意事項

達成度を多面的に評価するルーブリック（達成水準等を明確化した評価資料）の提出を求める。

授業計画

1. ガイダンス：授業概要および地域課題の説明【8月11日3限】（小山・原・橋元）
2. 地域課題の解決に向けた実践活動の意義と実践事例の紹介【8月11日4限】（小山・原・橋元）
3. 実践活動の事前指導【8月11日5限】（小山・原・橋元）
※実践活動の実施－地域課題の発見・分析と解決策の立案－
4. 実践活動の中間報告【9月14日3限】（小山・原・橋元）
5. 中間報告に対するアドバイス 【9月14日4限】（小山・原・橋元）
※実践活動の継続－解決策の実践－
6. 実践活動の最終報告の準備【9月18日3限】（小山・原・橋元）
7. 実践活動の最終報告【9月18日4限】（小山・原・橋元）
8. 最終報告に対するフィードバック－総括・まとめ－【9月18日5限】（小山・原・橋元）

授業外学習

地域課題に対して自ら立案した解決策をもとに、地域で実践活動を行い、その経緯と成果をまとめてレポートを作成する。また、成果を報告するためのプレゼンテーションなどの準備を行う。合計して3 0 時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進む。
- 3 語彙の拡大をめざす。

評価方法

小テスト（30％）（到達目標3）、中間テスト（30％）（到達目標1・2）、定期テスト（40％）（到達目標1・2）

注意事項

英和辞典を持参し、積極的に取り組むこと。よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。学生番号順に席を指定するが、事情がある場合は調整するので個人的に相談してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明・自己紹介
第2回	Sweet Love
第3回	Food for the Future
第4回	Song of the Humpback
第5回	The 1000-Year Bird Song
第6回	Was King Tut Murdered?
第7回	Who Killed the Iceman?
第8回	中間まとめ
第9回	Living Treasures
第10回	The Changing Face of Kung Fu
第11回	The Secrets in the Sand
第12回	The Stories in the Rocks
第13回	Cities Beneath the Sea
第14回	The Truth about Great Whites
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

Before You Read, Vocabulary Practiceの予習 1.5時間。

Online Workbookでの全体復習 2時間。

小テスト用復習 30分。

教科書

Reading Explorer with Online Workbook Access Code (Third Edition) Level 2

(National Geographic Learning)

ISBN978-0-357-12470-3

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

英語 I（88405）

前期

English I

教養科目

年次	1年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、英文に慣れ親しみ、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。
- 5 『基本英語』との併習が望ましい。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになることを目的とする。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1 Profile
第3回	Unit 2 Sports
第4回	Unit 3 Special Occasions
第5回	Unit 1～Unit 3 まとめ
第6回	Unit 4 Families
第7回	Unit 5 Japan Quiz
第8回	Unit 6 Love and Marriage
第9回	Unit 4～Unit 6 まとめ
第10回	Unit 7 Life History
第11回	Unit 8 Leisure
第12回	Unit 9 College Life
第13回	Unit 7～Unit 9 まとめ
第14回	Unit 10 On Vacation
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 次回の授業箇所について、未知の語彙や文法事項については事前に調べ、本文を予習しておく。
- 2 問題を解いておく。
- 3 授業実施後、次の時間に実施される確認テストに向け、授業で扱った内容（単語と重要文など）を復習する。
- 5 特別課題として、Malala Yousafzaiなどによる有名な英語によるスピーチを聞き、レポートにまとめる。

教科書

Living Grammar 著者 : Atsuko Yamamoto, Naoko Osuka, Chikako Mano, Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett
成美堂: ISBN978-4-7919-1088-5

参考書

特になし

備考

英語 I（88501）

前期

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、英文に慣れ親しみ、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数 内容

第1回 ガイダンス

第2回 Unit 1 College Sports

第3回 Unit 2 Hip Hop Music

第4回 Unit 1～Unit 2 のまとめ

第5回 Unit 3 Travel

第6回 Unit 4 Video Games

第7回 Unit 3～Unit 4 のまとめ

第8回 Unit 5 Recycling

第9回 Unit 6 Fast Food

第10回 Unit 5～Unit 6 のまとめ

第11回 Unit 7 Extreme Weather

第12回 Unit 8 Medical Tourism

第13回 Unit 7～Unit 8 のまとめ

第14回 Unit 9 Advertising

第15回 総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

English Indicator 3 〈Intermediate〉

著者：Joshua Cohen, Kei Mihara, Yoshio Nakamura, Hiroshi Kimura

参考書

特になし

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 長木 愛

授業の概要

英語の基礎力、読解力、及びリスニング力の養成を目的としています。学習者の習熟度に合わせ語彙の構築や文法の復習をし、重要な語句や英語表現に関する小テストなどを課してその定着を図ります。またペアで音読練習したり筆写をしたりして、英語表現の習得を図ります。

到達目標

- 1 英語の文章を聞き、その概要を把握することができる。
- 2 実用的な語彙を多く習得し、英語を用いて積極的にコミュニケーションを取ることができる。
- 3 辞書を用いて英文を正確に理解できる文法力と英文読解力を身につける。

評価方法

小テスト及び課題（20％），スキット暗唱（10％），中間まとめ（30％），定期考査（40％）

注意事項

教科書、辞書、ファイルを必ず用意し，十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 1 What's your major?
第2回	2 How do you like your new school?
第3回	3 Let me introduce a new member to you.
第4回	4 How was your Golden Week?
第5回	5 I'm looking for a part-time job.
第6回	6 What do you call this in Japanese?
第7回	7 Have you been there?
第8回	1~7 Review 8 Could you tell me how to get there?
第9回	9 What do you want me to do?
第10回	10 I'm on a tight budget.
第11回	11 What do you think of this program?
第12回	12 I'm reviewing what I studied.
第13回	13 Final exam week is so stressful!
第14回	14 Is this your first trip abroad?
第15回	15 What would you like to order? General review

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎時予習として、WARM-UPの問題とLet's Readの意味調べをする。
授業で小テストを実施するので復習を必ず行い、毎回課題を提出する。

教科書

書名：Let's Read Aloud & Learn English
著者：角山照彦, Simon Capper
出版社：成美堂
ISBN 978-4-7919-7182-4

参考書

特になし

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 K
単位数	2．0 単位
担当教員	 長木 愛

授業の概要

英語の基礎力、読解力、及びリスニング力の養成を目的としています。学習者の習熟度に合わせ語彙の構築や文法の復習をし、重要な語句や英語表現に関する小テストなどを課してその定着を図ります。ペアまたはグループで、ドラマ中の会話文をさまざまな方法で音読したり、トピックについてディスカッションや英文作成をしたりすることで、英語表現の習得を図ります。

到達目標

- 1 英語の文章を読み、その概要を把握することができる。
- 2 英語を用いて積極的にコミュニケーションを取ることができる。
- 3 実用的な語彙を多く習得し、外国人との会話にも積極的に参加する態度を養うとともに、異文化について理解を深める。

評価方法

小テスト及び授業態度（20％），スキット（10％），中間まとめ（30％），定期考査（40％）

注意事項

教科書、辞書、ノートまたはファイルを必ず用意し，十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	1 Who Told? Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第3回	1 Who Told? Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第4回	2 Stolen Set List Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第5回	2 Stolen Set List Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第6回	3 You Can't Always Get What You Want Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第7回	3 You Can't Always Get What You Want Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第8回	Review 1 - 3
第9回	4 Who Won? Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第10回	4 Who Won? Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第11回	5 What's Your Dream? Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第12回	5 What's Your Dream? Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities

回数	内容
第13回	6 Dream On Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第14回	6 Dream On Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第15回	General Review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

・音声ファイルをダウンロードし、音読をすること。

①Previewing Activities

- ・Vocabulary A（3 0 分）：ドラマに出てくる語句の意味だけではなく、選択肢の意味も調べる。音声を聞いて、英単語を発音する。
- ・Vocabulary B（3 0 分）：Vocabulary Aの中から適語を選んで空欄を埋め、英文を完成させる。英文の意味も調べておく。
- ・Expressions（3 0 分）：ドラマに出てくる重要英文表現を、日本文と正しく組み合わせる。音声を聞いて、何度も繰り返し音読する。
- ・Listening Tip（3 0 分）：ドラマに登場する聞き取りにくい箇所の発音に慣れるための練習コーナー。ネイティブに続いて繰り返し音読し、Vocabulary Bと同様、英文を丸暗記できるまで練習して記憶に努める。

②Viewing Activities

- ・True/False Questions（9 0 分）：ダウンロード音声とスクリプトを活用し、内容一致問題を解く。
- ・Partial Dictation（3 0 分）：Dictation主体の問題だが、True/False Questionsの確認用と心得ておく。

③Post-viewing Activities

- ・Grammar in Focus・Check（1 0 分）：文法・語法問題を解く。
- ・Expansion（3 0 分）：授業で習った表現を参考にして、英作文をする。次の講義で行う小テストに備える。

教科書

書名：Communicate in English with glee -- Don't Stop Believin' 『グリー』で学ぶコミュニケーション英語③ドント・ストップ・ビリーヴィン

編著者：角山照彦, Simon Capper

出版社：松柏社

ISBN 978-4-88198-753-7

参考書

特になし

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 K
単位数	2．0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進む。
- 3 辞書を引き続けずにすむ程度の基本的な語彙を身につける。

評価方法

小テスト（30％）（到達目標3）、中間テスト（30％）（到達目標1・2）、定期テスト（40％）（到達目標1・2）

注意事項

英和辞典を持参し、積極的に取り組むこと。よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。学生番号順に席を指定するが、事情がある場合は調整するので個人的に相談してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明・自己紹介
第2回	A Mysterious Visitor
第3回	The Lost City of Atlantis
第4回	The World of Speed Eating
第5回	The Hottest Chilies
第6回	Digging for the Past
第7回	Getting the Shot
第8回	中間まとめ
第9回	I've Found the Titanic!
第10回	My Descent to the Titanic
第11回	The Disease Detective
第12回	At the Scene of a Crime
第13回	Planting for the Planet
第14回	Fatal Attraction
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

Before You Read, Vocabulary Practiceの予習 1.5時間。

Online Workbookでの全体復習 2時間。

小テスト用復習 30分。

教科書

Reading Explorer with Online Workbook Access Code (Third Edition) Level Foundations

(National Geographic Learning)

ISBN978-0-35-712472-7

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 M
単位数	2．0 単位
担当教員	 津野熊総一郎

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読を行う学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。さらに文法事項についても確認する。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解出来る自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につける。
- 2.必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・課題レポート・発表・小テストなどの平均点と定期試験で評価する。
評価の比率は,平常点（30％）、定期試験（70％）を基準とする。

注意事項

教科書は必ず準備する。ノートは冊子になったものを必ず用意する。
英和辞典は毎時間持参する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 Lesson 1 It's a Long Way to the Top
- 3 Lesson 2 Singapore's Chingay Parade
- 4 Lesson 3 English, for Better or for Worse
- 5 Lesson 4 How Important Is Education to You
- 6 Lesson 5 From Anime to Zen
- 7 Lesson 6 The Storm
- 8 Lesson 1 ～Lesson 6まとめ確認テスト・解説
- 9 Lesson 7 Public Works for the State and the Citizens
- 10 Lesson 8 Riding an Old Steam Train
- 11 Lesson 9 Farm Stays
- 12 Lesson 10 Is Sunshine Really Bad for Us?
- 13 Lesson 11 What's in a Name?
- 14 Lesson 12 You Are What You Eat
- 15 まとめ（総復習）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎時の授業で小テストを実施するので、予習・復習を必ず行う。
毎時課題を提出する。

教科書

New English Master（成美堂）ISBN:978-4-7919-4788-1

参考書

授業で随時紹介します。

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 M
単位数	2．0 単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。
- 5 『基本英語』との併習が望ましい。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 語彙を確実に身につけると同時に、様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数 内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Unit 1 Sowing Seeds of Peace, : Education & Hope: Malala
- 第3回 Unit 2 Sowing Seeds of Food Savings : OzHarvest Market
- 第4回 Grammar Unit 1 動詞（1）
- 第5回 Unit 3 Sowing Seeds of Safety: : An Eye on Crime
- 第6回 Unit 4 Sowing Seeds of Work: : Work Balance
- 第7回 Grammar Unit 2 動詞（2）
- 第8回 Unit 5 Sowing Seeds of Exercise: : Sport BMX and Urban Fun?
- 第9回 Unit 6 Sowing Seeds of Happiness: : Happiness
- 第10回 Grammar Unit 3 動詞（3）
- 第11回 Unit 7 Sowing Seeds of Entertainment: : Sports and Games
- 第12回 Unit 8 Sowing Seeds of Medical Science Health : Medical Science
- 第13回 Grammar Unit 4 動詞（4）
- 第14回 Unit 9 Sowing Seeds of Psychology : Resilience
- 第15回 総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った基本文や単語が記憶に定着するようにする。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解しておく。

教科書

書名：Dear Learners Drop Everything and Read 南雲堂
著者名：Machida Junko, Yagi Monako, Ian Ellsworth, Nagamoto Yoshihiro
B-900 ISBN978-4-523-17900-9 C0082

参考書

特になし

備考

英語 I（88401）

前期

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 W,W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、英文に慣れ親しみ、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数 内容

第1回 ガイダンス

第2回 Unit 1 Small Talk

第3回 Unit 2 Human Relations

第4回 Unit 1～Unit 2 まとめ

第5回 Unit 3 Culture and Globalization

第6回 Unit 4 Healthy Life

第7回 Unit 3～Unit 4 まとめ

第8回 Unit 5 Future Careers

第9回 Unit 6 That Shirt Suits You!

第10回 Unit 5～Unit 6 まとめ

第11回 Unit 7 Taking a Trip

第12回 Unit 8 Do You Like Sports?

第13回 Unit 7～Unit 8 まとめ

第14回 Unit 9 Let's Do Something Fun!

第15回 総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

TARGET! pre-intermediate, 著者 Akira Morita, Makiko Iio, Takehiro Hashimoto, Yukinobu Satake, Gordon Myskow 金星堂

参考書

特になし

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 W,W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力と会話力の養成を目的とする。重要な会話・文章表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため音読やペアワークを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者・話者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進む。
- 3 辞書を引き続けずにすむ程度の基本的な語彙を身につける。

評価方法

小テスト－30％（到達目標 3）、中間テスト－30％（到達目標 1・2）、定期テスト－40％（到達目標 1・2）
WEBの宿題の進捗状況が悪い場合は減点の可能性がある。

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。必要であれば辞書を持参のこと（スマホの利用は認めない）。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	I'm a student. (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第3回	I'm a student. (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第4回	What's your phone number? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第5回	What's your phone number? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第6回	That's my wallet! (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第7回	That's my wallet! (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第8回	Review
第9回	Do you like hip-hop? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第10回	Do you like hip-hop? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第11回	What do you do for fun? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第12回	What do you do for fun? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第13回	Can you play the guitar? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第14回	Can you play the guitar? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第15回	Summary

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

小テストの勉強 30分

WEBの宿題 1時間半

毎日のシャドーイング 15×6日

教科書

Ken Wilson著, SMART CHOICE (Starter), Third Edition (Oxford)

ISBN 978-0-19-460253-2

参考書

各自使いやすい英和・和英辞典

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 津野熊総一郎

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読を行う学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。さらに文法事項についても確認する。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解出来る自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につける。
- 2.必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・課題レポート・発表・小テストなどの平均点と定期試験で評価する。
評価の比率は,平常点（30％）、定期試験（70％）を基準とする。

注意事項

教科書は必ず準備する。ノートは冊子になったものを必ず用意する。英和辞典は毎時間持参する。

授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 College Life(I): Welcome to College
3. Unit 2 College Life(II):Course Registration
4. Unit 3 Hobbies: Do It Yourself
5. Unit 4 Romance: The Guardian of Love
6. Unit 5 Transportation:Low-Cost Carriers
7. Unit 6 Business: An Indian Restaurateur
- 8 Unit 1 ～Unit 6まとめ確認テスト・解説
- 9 Unit 7 Society: Global Self-Help Revolution
- 10 Unit 8 Health: Achilles Tendon Rupture
- 11 Unit 9 The Environment: Aluminum-can Recycling
- 12 Unit 10 Medicine: Alternative Medicine
- 13 Unit 11 Finance: Two Big Players
- 14 Unit 12 Shopping: Smart Shopping
- 15 まとめ（総復習）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時の授業で小テストを実施するので、予習・復習を必ず行う。毎時課題を提出する。

教科書

Power-Up English <Pre-Intermediate>初級編（南雲堂）ISBN:978-4-523-17772-2

参考書

授業で随時紹介します。

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 長木 愛

授業の概要

英語の基礎力、読解力、及びリスニング力の養成を目的としています。学習者の習熟度に合わせ語彙の構築や文法の復習をし、重要な語句や英語表現の小テストなどを課してその定着を図ります。各ユニットのトピックに関するDVDを数回英語で視聴して内容理解を深めます。そしてペアまたはグループで、会話をさまざまな方法で音読練習したり、トピックについてディスカッションや英文作成をしたりすることで、英語で発信する力を養います。

到達目標

- 1 英語の文章を読んだり聴いたりし、その概要を把握することができる。
- 2 実用的な語彙を多く習得し、英語を用いて積極的にコミュニケーションを取ることができる。
- 3 諸外国の問題を、外国人と話したり意思疎通を図ろうとするときに必要な基本的な知識や問題意識を身につける。

評価方法

小テスト及び授業態度（20％）、スキット（10％）、中間まとめ（30％）、定期考査（40％）

注意事項

教科書、辞書、ノートを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 1: Education and Gender DVD Activities
第3回	Unit 1: Education and Gender Reading Activities / Further Activities
第4回	Unit 2: Global Warming DVD Activities
第5回	Unit 2: Global Warming Reading Activities / Further Activities
第6回	Unit3 : Drinking Water DVD Activities
第7回	Unit3 : Drinking Water Reading Activities / Further Activities
第8回	Review / Discussion
第9回	Unit 4: Poverty and Hunger DVD Activities
第10回	Unit 4: Poverty and Hunger Reading Activities / Further Activities
第11回	Unit 5: Fighting Disease DVD Activities

回数	内容
第12回	Unit 5: Fighting Disease Reading Activities / Further Activities
第13回	Unit 6: Terrorism DVD Activities
第14回	Unit 6: Terrorism Reading Activities / Further Activities
第15回	General review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

予習として

①DVD Activities

- ・ Vocabulary Check: 選択肢の意味を調べ、マッチングさせる。
- ・ True or False Questions: 選択肢の意味を調べておく。
- ・ Dictation: 英文を読んで意味を調べ、内容を理解しておく。

②Reading Activities

- ・ 英文を読んで意味を調べ、内容を理解しておく。
- ・ Reading Comprehensionの問いに答えておく。

復習として

③Further Activities

- ・ ConversationとRelated Data and Discussionの内容を覚え、次の講義で行う小テストに備える。

教科書

書名：Global Issues Towards Peace DVDで学ぶ共存社会ーグローバル時代を考える

著者：達川奎三, ウォルター・デイビス 他

出版社：南雲堂

ISBN 978-4-523-17741-8

参考書

特になし

備考

英語 I（88104）

前期

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 B
単位数	2. 0 単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。
- 2 身近な興味深い話題、ビジネスなどの場面を取り上げた様々な英文に触れ、英語を楽しみながら読み進める。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々なビジネス場面で用いられる用語を学ぶ。
- 4 基本的な英語（日常生活やビジネスの場面でよく用いる英語）を聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数 内容

第1回 ガイダンス

第2回 Unit 1: Transportation and Information

第3回 Unit 2: Instructions and Explanations

第4回 Unit 1～Unit 2 のまとめ

第5回 Unit 3 Eating and Drinking

第6回 Unit 4: Business Scene

第7回 Unit 3～Unit 4 のまとめ

第8回 Unit 5: Communication

第9回 Units 6 Socializing

第10回 Unit 5～Unit 6 のまとめ

第11回 Unit 7 Invitation

第12回 Unit 8 Medical Treatment and Insurance

第13回 Units 7～8のまとめ

第14回 Unit 9 Culture and Entertainment

第15回 総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や英語表現を記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び関連した課題を授業までに解いておく。

教科書

書名：START-UP COURSE FOR THE TOEIC L&R TEST

著者名 : Nagaki Kitayama, Bill benfield, mony Tavakoli, 出版社 : 成美堂 ISBN978-4-7919-3420-1 C1082

参考書

特になし

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 B
単位数	2．0 単位
担当教員	 津野熊総一郎

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読を行う学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。さらに文法事項についても確認する。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解出来る自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につける。
- 2.必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・課題レポート・発表・小テストなどの平均点と定期試験で評価する。
評価の比率は,平常点（30％）、定期試験（70％）を基準とする。

注意事項

教科書は必ず準備する。ノートは冊子になったものを必ず用意する。
英和辞典は毎時間持参する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 Unit 1 Marathon Men and Women
- 3 Unit 2 Healthy Choices
- 4 Unit 3 Laughing Matters
- 5 Unit 4 Animation the Japanese Way
- 6 Unit 5 Dreams Come True?
- 7 Unit 6 The Statue of Liberty
- 8 Unit 1 ～Unit 6まとめ確認テスト・解説
- 9 Unit 7 The Taj Mahal and Shah Jahan
- 10 Unit 8 Universal Design
- 11 Unit 9 Mars One
- 12 Unit 10 Getting Around
- 13 Unit 11 The "Meat" of Tomorrow
- 14 Unit 12 Art Crime
- 15 まとめ（総復習）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎時の授業で小テストを実施するので、予習・復習を必ず行う。
毎時課題を提出する。

教科書

教科書：Reading Steps（金星堂）ISBN:978-4-7647-3992-5

参考書

授業で随時紹介します。

EnglishⅡ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 M
単位数	2．0 単位
担当教員	 津野熊総一郎

授業の概要

英語Ⅰで身につけた読解力をさらに高め、専門書読解の学力を強化するためにより踏み込んで、多様な分野の英文に触れる。文法事項については練習問題を通じて確認する。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解出来る自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につける。
- 2.必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・課題レポート・発表・小テストなどの平均点と定期試験で評価する。
評価の比率は,平常点（30％）、定期試験（70％）を基準とする。

注意事項

教科書は必ず準備する。ノートは冊子になったものを必ず用意する。英和辞典は毎時間持参する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 Lesson 13 A Car for the Blind
- 3 Lesson 14 Talking Drums
- 4 Lesson 15 The Future for Farmers
- 5 Lesson 16 The Extraordinary Steve Jobs
- 6 Lesson 17 A Cool Memory
- 7 Lesson 18 Holmes? Watson?
- 8 Lesson 13 ～Lesson 18 まとめ確認テスト・解説
- 9 Lesson 19 Aussie English
- 10 Lesson 20 Garfield
- 11 Lesson 21 Climbing
- 12 Lesson 22 Lost in Translation
- 13 Lesson 23 Preservatives
- 14 Lesson 24 The Tramp
- 15 まとめ（総復習）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時の授業で小テストを実施するので、予習・復習を必ず行う。毎時課題を提出する。

教科書

New English Master（成美堂）ISBN:978-4-7919-4788-1

参考書

授業で随時紹介します。

備考

年次	1年
対象	26 ～ 17 M
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語Iに引き続いて、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 語彙を確実に身につけると同時に、様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになることを目的とする。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 10 Sowing Seeds of Facts：Efforts to lag Fake-news
第3回	Grammar Unit 5 助動詞（1）
第4回	Unit 11 Sowing Seeds of Intelligence：Brain Development
第5回	Unit 12 Sowing Seeds of Friendship：Yosegaki Hinomaru
第6回	Grammar Unit 6 助動詞（2）
第7回	Unit 13 Sowing Seeds of Humanity：A Hero
第8回	Grammar Unit 7 比較（1）
第9回	Grammar Unit 8 比較（2）
第10回	別教材（1）
第11回	別教材（2）
第12回	Grammar Unit 9 準動詞（1） 不定詞
第13回	Grammar Unit 10 準動詞（2） 動名詞、分詞
第14回	別教材（3）
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

書名：Dear Learners Drop Everything and Read 南雲堂
著者名：Machida Junko, Yagi Monako, Ian Ellsworth, Nagamoto Yoshihiro
B- 900 ISBN978-4-523-17900-9 C0082

参考書

特になし

備考

年次	1年
対象	26～17K
単位数	2.0単位
担当教員	 長木愛

授業の概要

英語の基礎力、読解力、及びリスニング力の養成を目的としています。学習者の習熟度に合わせ語彙の構築や文法の復習をし、重要な語句や英語表現に関する小テストなどを課してその定着を図ります。ペアまたはグループで、ドラマ中の会話文をさまざまな方法で音読したり、トピックについてディスカッションや英文作成をしたりすることで、英語表現の習得を図ります。

到達目標

- 1 英語の文章を読み、その概要を把握することができる。
- 2 英語を用いて積極的にコミュニケーションを取ることができる。
- 3 実用的な語彙を多く習得し、外国人との会話にも積極的に参加する態度を養うとともに、異文化について理解を深める。

評価方法

小テスト及び授業態度（20％）、スキット（10％）、中間まとめ（30％）、定期考査（40％）

注意事項

教科書、辞書、ノートまたはファイルを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	7 Rachel's Mother Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第3回	7 Rachel's Mother Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第4回	8 Tina's Dance Partner Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第5回	8 Tina's Dance Partner Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第6回	9 Regional's Set List Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第7回	9 Regional's Set List Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第8回	Review 1 - 3
第9回	10 Journey's Medley Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第10回	10 Journey's Medley Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第11回	11 A New Life Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第12回	11 A New Life Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities

回数	内容
第13回	12 To Sir, With Love Previewing Activities / Viewing Activities (1)
第14回	12 To Sir, With Love Viewing Activities (2) / Post-viewing Activities
第15回	General Review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

・音声ファイルをダウンロードし、音読をすること。

①Previewing Activities

- ・Vocabulary A（3 0 分）：ドラマに出てくる語句の意味だけではなく、選択肢の意味も調べる。音声を聞いて、英単語を発音する。
- ・Vocabulary B（3 0 分）：Vocabulary Aの中から適語を選んで空欄を埋め、英文を完成させる。英文の意味も調べておく。
- ・Expressions（3 0 分）：ドラマに出てくる重要英文表現を、日本文と正しく組み合わせる。音声を聞いて、何度も繰り返し音読する。
- ・Listening Tip（3 0 分）：ドラマに登場する聞き取りにくい箇所の発音に慣れるための練習コーナー。ネイティブに続いて繰り返し音読し、Vocabulary Bと同様、英文を丸暗記できるまで練習して記憶に努める。

②Viewing Activities

- ・True/False Questions（9 0 分）：ダウンロード音声とスクリプトを活用し、内容一致問題を解く。
- ・Partial Dictation（3 0 分）：Dictation主体の問題だが、True/False Questionsの確認用と心得ておく。

③Post-viewing Activities

- ・Grammar in Focus・Check（1 0 分）：文法・語法問題を解く。
- ・Expansion（3 0 分）：授業で習った表現を参考にして、英作文をする。次の講義で行う小テストに備える。

教科書

書名：Communicate in English with glee -- Don't Stop Believin' 『グリー』で学ぶコミュニケーション英語③ドント・ストップ・ビリーヴィン

編著者：角山照彦, Simon Capper

出版社：松柏社

ISBN 978-4-88198-753-7

参考書

特になし

備考

年次	1年
対象	26～17K
単位数	2.0単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

前期の英語Ⅰにひきつづき英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進む。
- 3 辞書を引かず、にすむ程度の基本的な語彙を身につける。

評価方法

小テスト（30％）（到達目標3）、中間テスト（30％）（到達目標1・2）、定期テスト（40％）（到達目標1・2）

注意事項

英和辞典を持参し、積極的に取り組むこと。よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。話し合いをしやすい席順に席替えをする予定なので、聴取などが困難な学生は快適に受講できる座席になるように申し出てほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	英語Iの復習と解説（フィードバック）・概要説明
第2回	Understanding Dreams
第3回	Seeing the Impossible
第4回	A Penguin's Year
第5回	Do Animals Laugh?
第6回	A Love Poem in Stone
第7回	The Great Dome of Florence
第8回	中間まとめ
第9回	Wild Weather
第10回	When Weird Weather Strikes
第11回	The Mammoth's Tale
第12回	Monsters of the Deep
第13回	The Robots are Coming!
第14回	How Will We Live in 2045?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

Before You Read, Vocabulary Practiceの予習 1.5時間。

Online Workbookでの全体復習 2時間。

小テスト用復習 30分。

教科書

Reading Explorer with Online Workbook Access Code (Third Edition) Level Foundations

(National Geographic Learning)

ISBN978-0-35-712472-7

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

EnglishⅡ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 津野熊総一郎

授業の概要

英語Ⅰで身につけた読解力をさらに高め、専門書読解の学力を強化するためにより踏み込んで、多様な分野の英文に触れる。文法事項については練習問題を通じて確認する。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解出来る自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につける。
- 2.必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・課題レポート・発表・小テストなどの平均点と定期試験で評価する。
評価の比率は,平常点（30％）、定期試験（70％）を基準とする。

注意事項

教科書は必ず準備する。ノートは冊子になったものを必ず用意する。英和辞典は毎時間持参する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 Unit 13 Careers: Job Hunting
- 3 Unit 14 Art:The Shadow of a Great Artist
- 4 Unit 15 Culture: Everyday Japan and "Matsuri" Japan
- 5 Unit 16 Population: The Declining Birthrate
- 6 Unit 17 Disaster:Narrow Escape
- 7 Unit 18 Travel: Invitation to Hokkaido
- 8 Unit 13 ～Unit 18まとめ確認テスト・解説
- 9 Unit 19 Sports: The World's Most popular Sports ?
- 10 Unit 20 Life: Quality of Life
- 11 Unit 21 Entertainment: Television Prime Time
- 12 Unit 22 Language: Loanwords in Japanese
- 13 Unit 23 Science: The Goal of Science
- 14 Unit 24 Technology: A Language Robot
- 15 まとめ（総復習）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎時の授業で小テストを実施するので、予習・復習を必ず行う。毎時課題を提出する。

教科書

教科書：Power-Up English <Intermediate>（南雲堂）ISBN:978-4-523-17772-2

参考書

参考書等：授業で随時紹介します。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 Y
単位数	2. 0 単位
担当教員	 長木 愛

授業の概要

英語の基礎力、読解力、及びリスニング力の養成を目的としています。学習者の習熟度に合わせ語彙の構築や文法の復習をし、重要な語句や英語表現の小テストなどを課してその定着を図ります。各ユニットのトピックに関するDVDを数回英語で視聴して内容理解を深めます。そしてペアまたはグループで、会話をさまざまな方法で音読練習したり、トピックについてディスカッションや英文作成をしたりすることで、英語で発信する力を養います。

到達目標

- 1 英語の文章を読んだり聴いたりし、その概要を把握することができる。
- 2 実用的な語彙を多く習得し、英語を用いて積極的にコミュニケーションを取ることができる。
- 3 諸外国の問題を、外国人と話したり意思疎通を図ろうとするときに必要な基本的な知識や問題意識を身につける。

評価方法

小テスト及び授業態度（20％）、スキット（10％）、中間まとめ（30％）、定期考査（40％）

注意事項

教科書、辞書、ノートを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 7: Internment DVD Activities
第3回	Unit 7: Internment Reading Activities / Further Activities
第4回	Unit 8: Atomic Weapons DVD Activities
第5回	Unit 8: Atomic Weapons Reading Activities / Further Activities
第6回	Unit 9: Genocide and Crimes against Humanity DVD Activities
第7回	Unit 9: Genocide and Crimes against Humanity Reading Activities / Further Activities
第8回	Review / Discussion
第9回	Unit 10: Landmines DVD Activities
第10回	Unit 10: Landmines Reading Activities / Further Activities
第11回	Unit 11: Refugees DVD Activities

回数	内容
第12回	Unit 11: Refugees Reading Activities / Further Activities
第13回	Unit 12: Nelson Mandela DVD Activities
第14回	Unit 12: Nelson Mandela Reading Activities / Further Activities
第15回	General review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

予習として

①DVD Activities

- ・ Vocabulary Check: 選択肢の意味を調べ、マッチングさせる。
- ・ True or False Questions: 選択肢の意味を調べておく。
- ・ Dictation: 英文を読んで意味を調べ、内容を理解しておく。

②Reading Activities

- ・ 英文を読んで意味を調べ、内容を理解しておく。
- ・ Reading Comprehensionの問いに答えておく。

復習として

③Further Activities

- ・ ConversationとRelated Data and Discussionの内容を覚え、次の講義で行う小テストに備える。

教科書

書名：Global Issues Towards Peace DVDで学ぶ共存社会ーグローバル時代を考える

著者：達川奎三, ウォルター・デイビス 他

出版社：南雲堂

ISBN 978-4-523-17741-8

参考書

特になし

備考

年次	1年
対象	26 ～ 17 B
単位数	2. 0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語Ⅰに引き続いて英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。
- 2 身近な興味深い話題やビジネスの場面を取り上げた様々な英文に触れ、英語を楽しみながら読み進める。
- 3基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々なビジネス場面で用いられる用語を学ぶ。
- 4 基本的な英語（日常生活やビジネスの場面でよく用いる英語）を聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 10 Shopping
第3回	Unit 11: Sports and Exercise
第4回	Units 10～11のまとめ
第5回	Units 12 Trouble and Claims
第6回	Unit 13 Extra Test 1
第7回	Units 12～Extra Test 1のまとめ
第8回	Unit 13: Extra Test 2
第9回	Units 14 Extra Test 3
第10回	Units 15 Extra Test 2～Extra Test 3のまとめ
第11回	別教材1
第12回	別教材2
第13回	別教材3
第14回	別教材4
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文を記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び関連した課題を授業までに解しておく。

教科書

書名 : START-UP COURSE FOR THE TOEIC L&R TEST
著者名 : Nagaki Kitayama, Bill benfield, mony Tavakoli, 出版社 : 成美堂 ISBN978-4-7919-3420-1 C1082

参考書

特になし

備考

EnglishⅡ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 B
単位数	2．0 単位
担当教員	 津野熊総一郎

授業の概要

英語Ⅰで身につけた読解力をさらに高め、専門書読解の学力を強化するためにより踏み込んで、多様な分野の英文に触れる。文法事項については練習問題を通じて確認する。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解出来る自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につける。
- 2.必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・課題レポート・発表・小テストなどの平均点と定期試験で評価する。
評価の比率は,平常点（30％）、定期試験（70％）を基準とする。

注意事項

教科書は必ず準備する。ノートは冊子になったものを必ず用意する。英和辞典は毎時間持参する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 Unit 13 Do Animals Know Things We Don't Know?
- 3 Unit 14 Godiva--The Chocolate and the Day
- 4 Unit 15 Aloha Hawaii
- 5 Unit 16 Everyone Loves a Circus
- 6 Unit 17 Text Messaging
- 7 Unit 18 What Type Are You?
- 8 Unit 13 ～Unit 18まとめ確認テスト・解説
- 9 Unit 19 Japanese Food Customs
- 10 Unit 20 Mascot Characters
- 11 Unit 21 Trees--One of Nature's Wonders
- 12 Unit 22 Koban at Your Service
- 13 Unit 23 3-D Printers
- 14 Unit 24 Fashion Trends Start Here
- 15 まとめ（総復習）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎時の授業で小テストを実施するので、予習・復習を必ず行う。毎時課題を提出する。

教科書

Reading Steps（金星堂）ISBN:978-4-7647-3992-5

参考書

授業で随時紹介します。

備考

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	26～17 W,W,W
単位数	2.0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1英語に引き続いて、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、英文に慣れ親しみ、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 10 Art Appreciation
第3回	Unit 9～Unit 10 まとめ
第4回	Unit 11 Let's Eat Out!
第5回	Unit 12 A Career in International Business
第6回	Unit 11～Unit 12 まとめ
第7回	Unit 13 Science for the Future
第8回	Unit 14 Technology and Modern Life
第9回	Unit 13～Unit 14 まとめ
第10回	Unit 15 Saving the Environment
第11回	Special Reading 1
第12回	Unit 15～Special reading 1 まとめ
第13回	Special Reading 2
第14回	Special Reading 3
第15回	総まとめ

授業外学習

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

TARGET! pre-intermediate, 著者 Akira Morita, Makiko Iio, Takehiro Hashimoto, Yukinobu Satake, Gordon Myskow 金星堂
ISBN978-4-7647-4017-4

参考書

特になし

備考

年次	1年
対象	26 ～ 17 W,W,W
単位数	2．0単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

前期の英語Ⅰにひきつづき、英語の基礎力、特に読解力と会話力の養成を目的とする。重要な会話・文章表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため音読やペアワークを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者・話者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進む。
- 3 辞書を引き続けずにすむ程度の基本的な語彙を身につける。

評価方法

小テスト－30％（到達目標 3）、中間テスト－30％（到達目標 1・2）、定期テスト－40％（到達目標 1・2）
WEBの宿題の進捗状況が悪い場合は減点の可能性がある。

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。必要であれば辞書を持参のこと（スマホの利用は認めない）。

授業計画

回数	内容
第1回	英語Ⅰの復習・解説（フィードバック）・概要説明
第2回	What's she wearing? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第3回	What's she wearing? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第4回	Are there any windows? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第5回	Are there any windows? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第6回	The bank is on the corner. (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第7回	The bank is on the corner. (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第8回	Review
第9回	Do we have any milk? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第10回	Do we have any milk? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第11回	Where were you yesterday? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第12回	Where were you yesterday? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第13回	What did you do? (Vocabulary / Speaking / Grammar)
第14回	What did you do? (Reading / Listening / Learning Outcomes)
第15回	Summary

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

小テストの勉強 30分

WEBの宿題 1時間半

毎日のシャドーイング 15×6日

教科書

Ken Wilson著, SMART CHOICE (Starter), Third Edition (Oxford)

ISBN 978-0-19-460253-2

参考書

各自使いやすい英和・和英辞典

備考

年次	1年
対象	26～17R
単位数	2.0単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語Ⅰにひきつづき、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進む。
- 3 語彙の拡大をめざす。

評価方法

小テスト（30％）（到達目標3）、中間テスト（30％）（到達目標1・2）、定期テスト（40％）（到達目標1・2）

注意事項

英和辞典を持参し、積極的に取り組むこと。よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。学生番号順に席を指定するが、事情がある場合は調整するので個人的に相談してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明・自己紹介
第2回	The Flower Trade
第3回	The Power of Perfume
第4回	An Incredible Journey
第5回	The Travels of Ibn Battuta
第6回	The Teenage Brain
第7回	Seeing Double
第8回	中間まとめ
第9回	The Big Thaw
第10回	Life on the Edge
第11回	The Knowledge Illusion
第12回	The Limits of Lying
第13回	The Dream of Flight
第14回	Dark Descent
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

Before You Read, Vocabulary Practiceの予習 1.5時間。

Online Workbookでの全体復習 2時間。

小テスト用復習 30分。

教科書

Reading Explorer with Online Workbook Access Code (Third Edition) Level 2

(National Geographic Learning)

ISBN978-0-357-12470-3

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

年次	1年
対象	26 ～ 17 R
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1英語に引き続いて、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、英文に慣れ親しみ、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになることを目的とする。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 11 Out and About
第3回	Unit 12 Rules
第4回	Unit 13 Folk Tales
第5回	Unit 11～Unit 13 まとめ
第6回	Unit 14 News & Events
第7回	Unit 15 Amazing Animals
第8回	Unit 16 Feelings
第9回	Unit 14～Unit 16 まとめ
第10回	Unit 17 World Quiz
第11回	Unit 18 Business
第12回	Unit 19 Environment
第13回	Unit 17～Unit 19 まとめ
第14回	Unit 20 Old Sayings
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 次回の授業箇所について、未知の語彙や文法事項については事前に調べ、本文を予習しておく。
- 2 問題を解いておく。
- 3 授業実施後、次の時間に実施される確認テストに向け、授業で扱った内容（単語と重要文など）を復習する。
- 4 特別課題として、Steve Jobsなどによる有名な英語によるスピーチを聞き、レポートにまとめる。

教科書

Living Grammar 著者 : Atsuko Yamamoto, Naoko Osuka, Chikako Mano, Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett
成美堂: ISBN978-4-7919-1088-5

参考書

特になし

備考

年次	1年
対象	26 ～ 17 N
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語Ⅰに引き続いて、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。
- 2 様々な話題を英語で読むことによって、新しい視点を取り入れる。
- 3 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）を聞き取る練習する。
- 4 文法を体系的に学ぶ。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 様々な分野で用いられる用語を学び、また扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 10 Business Travel
第3回	Unit 9～Unit 10 のまとめ
第4回	Unit 11 E-commerce
第5回	Unit 12 Coffee Shop
第6回	Unit 11～Unit 12 のまとめ
第7回	Unit 13 Robots
第8回	Unit 14 SNS
第9回	Unit 13～Unit 14 のまとめ
第10回	Unit 15 Skyscrapers
第11回	Special Reading 1
第12回	Unit 15～Special Reading 1
第13回	Special Reading 2
第14回	Special Reading 3
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

English Indicator 3 〈Intermediate〉

著者：Joshua Cohen, Kei Mihara, Yoshio Nakamura, Hiroshi Kimura
南雲堂：17834-7 B-834 511828

参考書

特になし

備考

年次	1年
対象	26～17N
単位数	2.0単位
担当教員	 長木愛

授業の概要

英語の基礎力、読解力、及びリスニング力の養成を目的としています。学習者の習熟度に合わせ語彙の構築や文法の復習をするとともに、多くの文章を読んだり聞いたりすることで重要な語句や英語表現の定着を図ります。またディスカッションや簡単な英作文をすることにより、英語で意見を述べる力を養います。

到達目標

- 1 英語の文章を聞き、その概要を把握することができる。
- 2 辞書を用いて英文を正確に理解できる文法力と英文読解力を身につける。
- 3 実用的な語彙を多く習得し、英語で意見を言うことができる。

評価方法

小テスト及び授業態度（20％）、レポート（10％）、中間まとめ（30％）、定期考査（40％）

注意事項

教科書、辞書、ノートを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション Unit 1: Suntory University Preps Workers for Global Growth
第2回	Unit 2: Japan Productivity Gains Key to Staving off Decline
第3回	Unit 3: Japanese Office Worker's Stunning iPhone Sketches
第4回	Unit 4: Perceptions of Space, from Japan to the World
第5回	Unit 7: Omotenashi Hospitality Boosts Japan
第6回	Unit 8: Multi-lingualization in Progress at Kyoto Station
第7回	Unit 10: Language Skills Key for Kawashima
第8回	Review / Discussion
第9回	Unit 11: Things Japanese People Should Not Say to Westerners
第10回	Unit 12: If Addressed by a Westerner ...
第11回	Unit 14: Sayoko Yamaguchi- The Wearist, Clothed in the Future
第12回	Unit 15: University Survival Strategy
第13回	Unit 16: Universities, NPOs Beef up Safety for Students Going Abroad
第14回	Unit 18: Foreign-studies Universities to Train Volunteer Army of Interpreters
第15回	General review

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・音声ファイルをダウンロードし、予習と復習に利用すること。

予習として、「From News」の意味調べとComprehension Check（１）の整序問題、音声ファイルを聴いて「Dialogue」の空欄補充をし意味を調べ、内容の理解をしておく。

授業で小テストを実施するので、復習を必ず行う。

教科書

書名： Global Leadership Adventures 日本のリアル・トピック20ーグローバル時代を考える

編著者：Peter Nagano

出版社：松柏社

ISBN 978-4-88198-711-7

参考書

特になし

備考

中国語 I（88201）

前期

Chinese I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	人 趙慧欣

授業の概要

前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、自己紹介と簡単な会話ができることを目標とする。

日本語にはない中国語の発音や表現のパターンも考慮した講義内容を配置しており、本文以外に会話文と練習問題を設けているので、学生が主体的に授業を取り組み、自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

- ・ 日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターする
- ・ 基本文法、構文を身につける
- ・ 中国語で自己紹介ができる

評価方法

講義中の態度、学習に対する積極性(30%)と定期試験(70%)で総合評価を行う。

注意事項

外国語は発音から勉強しないと話せない聞き取れないので、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に発表したりする体制を取っているので、やれば楽しい学習になる。今までほとんど成績を修めている。

授業計画

- 1.日本人の中国語学習の利点と難点
- 2.基本母音
- 3.基本母音の音節
- 4.母音とその表記
5. 2 1 の子音
- 6.子音と母音の音節構成
- 7.断定表現
- 8.「是」を含む文
- 9.時間、曜日などに関する表現
- 10.存在表現「在、有」の使い分け
- 11.挨拶言葉
- 12.存在表現「.....着」などの用法
- 13.語順「去+動作動詞」
- 14.語順「心理動詞+動作動詞」趣味の表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 中国語の方言、標準語を理解するのにネットで調べてみること
- 第 2回 基本母音 6 つの母音を書きながら覚えること
- 第 3回 母音の音節練習すること
- 第 4回 母音とその表記を覚えるまで練習すること
- 第 5回 2 1 の子音にある「zh ch sh」「f」を練習すること 第6回 子音と母音構成した音節を練習すること
- 第 7回 断定表現「是」の構文を理解するのにテキストにある練習問題をする
- 第 8回 「是」を含む文を理解するのにテキストにある練習問題をする
- 第 9回 「是」についてテキストにある練習問題をする
- 第10回 存在表現「在」の用法を理解するのにテキストにある練習問題をする

第11回 「在」 含む文を覚えるのに練習問題をする事
第12回 「有」 の用法を覚えるのに練習問題をする事
第13回 「有」 を含む文を覚えるのに練習問題をする事
第14回 第1課から第 5 課までの文法ポイントの例文を読み直すこと
第15回 第 5 課を参照しながら作文の練習をすること

教科書

大学教育出版「～独学もできる～中国語の基本表現」 著者 趙慧欣・趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など

備考

中国語 I（88301）

前期

Chinese I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 趙慧欣

授業の概要

前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、自己紹介と簡単な会話ができることを目標とする。

日本語にはない中国語の発音や表現のパターンも考慮した講義内容を配置しており、本文以外に会話文と練習問題を設けているので、学生が主体的に授業を取り組み、自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

- ・ 日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターすること
- ・ 基本文法、構文を身につけること
- ・ 中国語で自己紹介ができること

評価方法

講義中の態度、学習に対する積極性(30%)と定期試験(70%)で総合評価を行う。

注意事項

外国語は発音から勉強しないと話せない聞き取れないので、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に発表したりする体制を取っているので、やれば楽しい学習になる。今までほとんど成績を修めている。

授業計画

- 1.日本人の中国語学習の利点と難点
- 2.基本母音
- 3.基本母音の音節
- 4.母音とその表記
5. 2 1 の子音
- 6.子音と母音の音節構成
- 7.断定表現
- 8.「是」を含む文
- 9.時間、曜日などに関する表現
- 10.存在表現「在、有」の使い分け
- 11.挨拶言葉
- 12.存在表現「.....着」などの用法
- 13.語順「去+動作動詞」
- 14.語順「心理動詞+動作動詞」趣味の表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 中国語の方言、標準語を理解するのにネットで調べてみること
- 第 2回 基本母音 6 つの母音を書きながら覚えること
- 第 3回 母音の音節練習すること
- 第 4回 母音とその表記を覚えるまで練習すること
- 第 5回 2 1 の子音にある「zh ch sh」「f」を練習すること 第6回 子音と母音構成した音節を練習すること
- 第 7回 断定表現「是」の構文を理解するのにテキストにある練習問題をすること
- 第 8回 「是」を含む文を理解するのにテキストにある練習問題をすること
- 第 9回 「是」についてテキストにある練習問題をすること
- 第10回 存在表現「在」の用法を理解するのにテキストにある練習問題をすること

第11回 「在」 含む文を覚えるのに練習問題をする事
第12回 「有」 の用法を覚えるのに練習問題をする事
第13回 「有」 を含む文を覚えるのに練習問題をする事
第14回 第1課から第 5 課までの文法ポイントの例文を読み直すこと
第15回 第 5 課を参照しながら作文の練習をすること

教科書

大学教育出版「～独学もできる～中国語の基本表現」 著者 趙慧欣・趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 趙慧欣

授業の概要

前期に習った発音と基本表現を覚えた後、表現よりやや長い構文、より多くの動詞、接続表現、語順などを習う

到達目標

- ・より多くの動詞、接続表現、語順を習って、家族の紹介、身近な日常生活に関することを本を頼らずに各自で作文できる。
- ・口頭発表できるようにする、。
- ・相手に何かを尋ねることができる。

評価方法

講義中の態度、練習の積極性、自主性(30%)と定期試験(70%)で総合評価を行う。

注意事項

初心者には必ず前期から履修することを勧める。前期に既に発音、簡単な構文を勉強した、中国語Ⅰを終了した学生を対象に設定した講義内容である。講義中にテキスト、ノート等を使用し、自主的に練習する体制を取っているので、積極的にやれば楽しい学習になる。日本人には一番簡単な外国語は中国語です。今までほとんどの学生が優秀な成績を修めている。

授業計画

- 1.介詞「在」の使い方
- 2.「在……工作、在……当、是……」表現
- 3.3種類の趣味に関する表現
- 4.動作動詞、趣味の表現
- 5.語順「去+動作動詞」
- 6.作文「私の家族」
- 7.「ながら……」、「不是……就是……」
8. 文における動詞の順序
- 9.交通機関の利用に関する表現
- 10.「不+形容詞」「从～到」の使い方
- 11.構文「動詞+了+数量詞」
- 12「また」に当たる中国語の4つの副詞の使い分け
- 13.構文「昨天我做了很多事情」
- 14.使役表現、仮定表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

第1回介詞「在+動詞」の使い方を理解するのに練習問題をする こと。

第2回 「在……工作、在……当、是……」表現の練習

第3回 趣味に関する表現を整理すること

第4回 作文「我家的早晨」

第5回 交通手段に関する表現を覚えること。

第6回 中国語『移動動詞+動作動詞』の語順を覚えること。

第7回 趣味に関する表現の4種類を理解しながら練習問題を完成すること。

第8回 「動詞+名詞」の用法を理解するのに練習問題をする、「去+動作動詞」の構文を練習し「から～まで」にあたる中国語は二つあるのを覚えること。

第9回 「動詞+了+助数詞」、「また」にあたる中国語の4つの使い分けを理解し、練習問題を参考に練習すること。

- 第10回 昨日した事を習った表現を用いて作文すること 第9課の練習問題をする事
- 第11回 第10課の文法ポイント 使役表現をまとめて覚えること。
- 第12回 仮定表現を覚えて作文を書くこと
- 第13回 命令表現、禁止表現を作文しながら覚えること。
- 第10課 会話文練習すること。
- 第14回 習った接続表現で作文を書いてみること。
- 第15回 ノートの整理をして、復習すること。

教科書

大学出版社 中国語基本表現 著者 趙慧欣 趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 趙慧欣

授業の概要

前期に習った発音と基本表現を覚えた後、表現よりやや長い構文、より多くの動詞、接続表現、語順などを習う

到達目標

- ・より多くの動詞、接続表現、語順を習って、家族の紹介、身近な日常生活に関することを本を頼らずに各自で作文できる。
- ・口頭発表できるようにする。
- ・相手に何かを尋ねることができる。

評価方法

講義中の態度、練習の積極性、自主性(30%)と定期試験(70%)で総合評価を行う。

注意事項

初心者には必ず前期から履修することを勧める。前期に既に発音、簡単な構文を勉強した、中国語Ⅰを終了した学生を対象に設定した講義内容である。講義中にテキスト、ノート等を使用し、自主的に練習する体制を取っているので、積極的にやれば楽しい学習になる。日本人には一番簡単な外国語は中国語です。今までほとんどの学生が優秀な成績を修めている。

授業計画

- 1.介詞「在」の使い方
- 2.「在……工作、在……当、是……」表現
- 3.3種類の趣味に関する表現
- 4.動作動詞、趣味の表現
- 5.語順「去+動作動詞」
- 6.作文「私の家族」
- 7.「ながら……」、「不是……就是……」
8. 文における動詞の順序
- 9.交通機関の利用に関する表現
- 10.「不+形容詞」「从～到」の使い方
- 11.構文「動詞+了+数量詞」
- 12「又」に当たる中国語の4つの副詞の使い分け
- 13.構文「昨天我做了很多事情」
- 14.使役表現、仮定表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

第1回介詞「在+動詞」の使い方を理解するのに練習問題をする こと。

第2回 「在……工作、在……当、是……」表現の練習

第3回 趣味に関する表現を整理すること

第4回 作文「我家的早晨」

第5回 交通手段に関する表現を覚えること。

第6回 中国語『移動動詞+動作動詞』の語順を覚えること。

第7回 趣味に関する表現の4種類を理解しながら練習問題を完成すること。

第8回 「動詞+名詞」の用法を理解するのに練習問題をする、「去+動作動詞」の構文を練習し「から～まで」にあたる中国語は二つあるのを覚えること。

第9回 「動詞+了+助数詞」、「また」にあたる中国語の4つの使い分けを理解し、練習問題を参考に練習すること。

- 第10回 昨日した事を習った表現を用いて作文すること 第9課の練習問題をする事
- 第11回 第10課の文法ポイント 使役表現をまとめて覚えること。
- 第12回 仮定表現を覚えて作文を書くこと
- 第13回 命令表現、禁止表現を作文しながら覚えること。
- 第10課 会話文練習すること。
- 第14回 習った接続表現で作文を書いてみること。
- 第15回 ノートの整理をして、復習すること。

教科書

大学出版社 中国語基本表現 著者 趙慧欣 趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。
海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。
5 月、アメリカ人インターンとチームティーチングの予定である。

到達目標

- 1 自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につける。
- 2 ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行えるようになる。
- 3 頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口をついて出るようになる。

評価方法

授業態度・小テスト－3 0 %（到達目標1）、中間テスト－3 0 %（含口頭発表）、（到達目標2・3）、定期テスト－4 0 %（含口頭発表）（到達目標2・3）

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Nice to meet you!
第3回	What do you do?
第4回	Do you like spicy food?
第5回	How often do you do yoga?
第6回	What are you watching?
第7回	Where were you yesterday?
第8回	Review
第9回	Which one is cheaper?
第10回	What's she like?
第11回	What can you do there?
第12回	Is there a bank near here?
第13回	Did you have a good time?
第14回	I'm going to go by car.
第15回	Summary

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

小テストの準備 30分

シャドーイング練習 15分× 6

Web教材（毎回復習に必ずログイン、小テストのConversationの復習は最低限）←小テスト返却時に未消化の場合減点 2 時間

教科書

Ken Wilson 著 SMART CHOICE 3/E:1SB&Online Practice ISBN 978019460264

参考書

各自使いやすい英和・和英辞典

備考

英会話 I (88109)

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 Glenn Sumner

授業の概要

初級者向けのやさしい英会話のフレーズでペア・ワークやグループ・ワークやロールプレイで会話力を養成します。
学生全員参加の活気溢れる授業を提供します。
見やすく書きやすいレイアウトと楽しく学べる工夫が一杯です。
英会話の様々な場面で自信を持って話せるようになることを目的としています。
各ユニットでは、 1 つの基本フレーズを学習し、そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話を練習、英会話の場面に沿った実践的なリーディングとリスニングの問題に挑戦。

到達目標

リスニングとスピーキングに重点を置いた基本的な英会話のスキルを身につける。そして、英語の外国の文化、社会、あるいは通貨、興味のある場所などを学ぶ。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。評価は授業態度(予習を含む)(20%)、宿題(10%)、小テスト／研究課題(20%)、定期試験(50%)で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
第2回	Unit 1 You and me
第3回	Unit 2 Growing up
第4回	Unit 3 At home and at school
第5回	Unit 4 Going out
第6回	Unit 5 Food and drink
第7回	Unit 6 The future
第8回	Units 1-6のまとめ
第9回	Unit 7 Travel
第10回	Unit 8 Staying healthy
第11回	Unit 9 People I know
第12回	Unit 10 Storytelling
第13回	Unit 11 Entertainment
第14回	Unit 12 Society

回数	内容
第15回	Units 6-12のまとめ
授業外学習 Take It Easy! の教科書を用いたインターネットのウェブ上で復習する。また、宿題や、研究課題などの提出。次に勉強するユニットの内容に含まれた、新しい単語の予習。	
教科書 センゲージ ラーニング出版 Take It Easy! - Talking Naturally and Confidently - Text (80 pp) Herman Bartelen ISBN 978-4-86312-039-6	
参考書 なし	
備考	

英会話 I (TOEIC) (88503)

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2. 0 単位
担当教員	👤 谷川真利子

授業の概要

- 1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。
- 2 TOEIC Testに主眼を置き、出題形式、聞き取り及び文法問題の解き方を学ぶ。
- 3 テーマ別の授業構成で、そのテーマに頻出する語句にも注意を払い、英文を読む。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 TOEICの問題形式に慣れ、基本的な英語（日常生活やビジネスの場面でよく用いる英語）を聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）で、総合評価する。なお、この科目には英語資格試験の成績を単位保証に利用する。詳しくは初回授業で説明する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1:
第3回	Unit 2:
第4回	Unit 3:
第5回	Unit 4:
第6回	Unit 5:
第7回	Unit 6:
第8回	Unit 1～Unit 6のまとめ
第9回	Unit 7.
第10回	Unit 8.
第11回	Unit 9:
第12回	Unit 10.
第13回	Unit 11
第14回	Unit 7～Unit 11のまとめ
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計6 0 時間

- 1 次回の授業箇所について、未知の語彙や文法事項については事前に調べ、リスニング以外の問題を解いておく。
- 2 扱うテーマについての一般的知識を、事前にインターネット等を通して調べておく。
- 3 授業実施後に次の時間に実施される確認テストに向け、授業で扱った内容（単語、文法、重要文など）を復習する。

教科書

書名：Welcome to the TOEIC L&R Test ---New Edition---
著者名：Yoshio Kitahara 出版社：朝日出版 ISBN978-4-255-15649-1

参考書
特になし

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 長木愛

授業の概要

大学内のさまざまなシーンで使われる基本的な英語表現を身につけるとともに、英語で積極的にコミュニケーションがとれることを目標としています。各ユニットの会話例をペアまたはグループで覚えるまで音読をしたり、自分のことについて英文を作成しそれをもとにコミュニケーション活動をしたりします。

到達目標

- 1 身近なことについて英語で伝えることができる。
- 2 英語を用いて積極的にコミュニケーションを取ることができる。
- 3 自分の言いたいことをうまく伝えることができない時でも、ジェスチャーや言い換えなどを用いて、コミュニケーションを継続することができる。

評価方法

授業態度：10% 宿題：20% スキット発表：30% 定期試験：40%

注意事項

英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
授業中は演習中心で進めるので、予習・宿題をしっかりと授業に臨こと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 1: Nice to Meet You
第3回	Unit 2: This Is My Friend
第4回	Unit 3: Where Do People Hang Out?
第5回	Unit 4: I Went to That Place
第6回	Review 1: First Week at School
第7回	Unit 5: I Have a Question
第8回	Unit 6: Would It Be Possible to Study This?
第9回	Unit 7: I Have to Miss Next Class
第10回	Review 2: A Day of Classes
第11回	Unit 8: What Are You Doing on Sunday?
第12回	Unit 9: What Should We Get?
第13回	Unit 10: Yeah, I'll Give You That
第14回	Unit 11: Come On! I'll Help You
第15回	Review 3: Rev Up Your Social Life!

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 Activity 1 と 2 の英語表現の意味を確認し、3 回音読する。
 - 2 Conversation Focus/ Language Focus/ Talk Timeの英作文をする。
 - 3 CDを聴きながら、Activity 1 のリピーティング、シャドーイングをする。
-

教科書

マイケル・クリチェリー著 Encounters on Campusすぐ使える英語コミュニケーション(2018) 南雲堂 ISBN:978-4-523-17863-7

参考書

特になし

備考

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 Glenn Sumner

授業の概要

初級者向けのやさしい英会話のフレーズでペア・ワークやグループ・ワークやロールプレイで会話力を養成します。
学生全員参加の活気溢れる授業を提供します。
見やすく書きやすいレイアウトと楽しく学べる工夫が一杯です。
英会話の様々な場面で自信を持って話せるようになることを目的としています。
各ユニットでは、 1 つの基本フレーズを学習し、 そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話を練習、英会話の場面に沿った実践的なリーディングとリスニングの問題に挑戦。

到達目標

リスニングとスピーキングに重点を置いた基本的な英会話のスキルを身につける。そして、英語の外国の文化、社会、あるいは通貨、興味のある場所などを学ぶ。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。評価は授業態度(予習を含む)(20%)、宿題(10%)、小テスト／研究課題(20%)、定期試験(50%)で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
Unit 1: Pleased to meet you | Unit 2: I'm from Nagoya
Unit 3: I'm retired now | Unit 4: This is my family
Unit 5: How are you? | Unit 6: Could you say that again, please?
Unit 7: I live in an apartment | Unit 8: Do you have a garden?
Unit 9: Do you have any hobbies? | Unit 10: I have rice and miso soup for breakfast
Units 1-10のまとめ
Open topic | Interview test
Unit 11: Let's go to an Italian restaurant | Unit 12: Thank you for the chocolates
Unit 13: I like to watch variety shows | Unit 14: How was your weekend?
Unit 15: These pancakes are delicious! | Unit 16: How do you celebrate?
Unit 17: How do you keep in shape? | Unit 18: How much is this sweater?
Unit 19: I'm looking for some souvenirs | Unit 20: See you soon!
Units 11-20のまとめ
Units 1-20 Full review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間
Making friends 1の教科書を用いたインターネットのウェブ上で復習する。また、宿題や、研究課題などの提出。次に勉強するユニットの内容に含まれた、新しい単語の予習。

教科書

Macmillan Languagehouse - Making friends 1 | ウィリアムソン デービッド/ウィリアムソン マデレン | ISBN: 978-4-7773-6125-0

参考書

なし

備考

英会話Ⅱ(TOEIC) (88554)

後期

English Conversation Ⅱ

教養科目

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2．0 単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

- 1英会話Ⅰに引き続いて、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。
- 2 TOEIC Testに主眼を置き、出題形式、聞き取り及び文法問題の解き方を学ぶ。
- 3 テーマ別の授業構成で、そのテーマに頻出する語句にも注意を払い、英文を読む。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける。
- 2 必要があれば英語力を改善するため、文法事項を確認しながら英文を読み進む。
- 3 TOEICの問題形式に慣れ、基本的な英語（日常生活やビジネスの場面でよく用いる英語）を聞き取れるようになる。

評価方法

授業態度（予習を含む）（15％）、小テスト（45％）、定期試験（40％）で、総合評価する。なお、この科目には英語資格試験の成績を単位保証に利用する。詳しくは初回授業で説明する。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1: Travel
第3回	Unit 2: Dining Out
第4回	Unit 3: Shopping
第5回	Unit 4: Entertainment
第6回	Unit 5: Advertising
第7回	Unit 6: Events
第8回	Unit 1- Unit 6のまとめ
第9回	Unit 7. Daily Life
第10回	Unit 8. Media
第11回	Unit 9: Recruiting
第12回	Unit 10. Production & Sales
第13回	Unit 11. Meeting
第14回	Unit 7- Unit 11のまとめ
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 次回の授業箇所について、未知の語彙や文法事項については事前に調べ、リスニング以外の問題を解いておく。
- 2 扱うテーマについての一般的知識を、事前にインターネット等を通して調べておく。
- 3 授業実施後に次の時間に実施される確認テストに向け、授業で扱った内容（単語、文法、重要文など）を復習する、

教科書

書名：SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER

著者名：Koji Hayakawa, Yoichi Kishi 出版社：金星堂

参考書

特になし

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 Glenn Sumner

授業の概要

初級者向けのやさしい英会話のフレーズでペア・ワークやグループ・ワークやロールプレイで会話力を養成します。
学生全員参加の活気溢れる授業を提供します。
見やすく書きやすいレイアウトと楽しく学べる工夫が一杯です。
英会話の様々な場面で自信を持って話せるようになることを目的としています。
各ユニットでは、 1 つの基本フレーズを学習し、 そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話を練習、英会話の場面に沿った実践的なリーディングとリスニングの問題に挑戦。

到達目標

リスニングとスピーキングに重点を置いた基本的な英会話のスキルを身につける。そして、英語の外国の文化、社会、あるいは通貨、興味のある場所などを学ぶ。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。評価は授業態度(予習を含む)(20%)、宿題(10%)、小テスト／研究課題(20%)、定期試験(50%)で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
Unit 1: Pleased to meet you | Unit 2: I'm from Nagoya
Unit 3: I'm retired now | Unit 4: This is my family
Unit 5: How are you? | Unit 6: Could you say that again, please?
Unit 7: I live in an apartment | Unit 8: Do you have a garden?
Unit 9: Do you have any hobbies? | Unit 10: I have rice and miso soup for breakfast
Units 1-10のまとめ
Open topic | Interview test
Unit 11: Let's go to an Italian restaurant | Unit 12: Thank you for the chocolates
Unit 13: I like to watch variety shows | Unit 14: How was your weekend?
Unit 15: These pancakes are delicious! | Unit 16: How do you celebrate?
Unit 17: How do you keep in shape? | Unit 18: How much is this sweater?
Unit 19: I'm looking for some souvenirs | Unit 20: See you soon!
Units 11-20のまとめ
Units 1-20 Full review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間
Making friends 1の教科書を用いたインターネットのウェブ上で復習する。また、宿題や、研究課題などの提出。次に勉強するユニットの内容に含まれた、新しい単語の予習。

教科書

Macmillan Languagehouse - Making friends 1 | ウィリアムソン デービッド/ウィリアムソン マデレン | ISBN: 978-4-7773-6125-0

参考書

なし

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2．0 単位
担当教員	 Glenn Sumner

授業の概要

初級者向けのやさしい英会話のフレーズでペア・ワークやグループ・ワークやロールプレイで会話力を養成します。
学生全員参加の活気溢れる授業を提供します。
見やすく書きやすいレイアウトと楽しく学べる工夫が一杯です。
英会話の様々な場面で自信を持って話せるようになることを目的としています。
各ユニットでは、1つの基本フレーズを学習し、そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話を練習、英会話の場面に沿った実践的なリーディングとリスニングの問題に挑戦。

到達目標

リスニングとスピーキングに重点を置いた基本的な英会話のスキルを身につける。そして、英語の外国の文化、社会、あるいは通貨、興味のある場所などを学ぶ。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。評価は授業態度(予習を含む)(20%)、宿題(10%)、小テスト／研究課題(20%)、定期試験(50%)で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
第2回	Unit 1 You and me
第3回	Unit 2 Growing up
第4回	Unit 3 At home and at school
第5回	Unit 4 Going out
第6回	Unit 5 Food and drink
第7回	Unit 6 The future
第8回	Units 1-6のまとめ
第9回	Unit 7 Travel
第10回	Unit 8 Staying healthy
第11回	Unit 9 People I know
第12回	Unit 10 Storytelling
第13回	Unit 11 Entertainment
第14回	Unit 12 Society

回数	内容
第15回	Units 6-12のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

Take It Easy! の教科書を用いたインターネットのウェブ上で復習する。また、宿題や、研究課題などの提出。次に勉強するユニットの内容に含まれた、新しい単語の予習。

教科書

センゲージ ラーニング出版 Take It Easy! - Talking Naturally and Confidently - Text (80 pp) | Herman Bartelen | ISBN 978-4-86312-039-6

参考書

なし

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 17 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。
海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。
12月までは、アメリカ人インターンとティームティーチングの予定である。

到達目標

- 1 自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につける。
- 2 ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行えるようになる。
- 3 頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口をついて出るようになる。

評価方法

授業態度・小テスト－3 0 %（到達目標 1）、中間テスト－3 0 %（含口頭発表）、（到達目標 2・3）、定期テスト－4 0 %（含口頭発表）（到達目標 2・3）

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	How was your vacation?
第3回	I think it's exciting!
第4回	Do it before you're 30!
第5回	The best place in the world!
第6回	Where's the party?
第7回	You should try it!
第8回	Review
第9回	There are too many stores!
第10回	I like people who are smart.
第11回	What were you doing?
第12回	It must be an earthquake!
第13回	I used to sing.
第14回	If you live downtown. . .
第15回	Summary

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

小テストの準備30分

シャドーイング練習など15分×6

Web教材の宿題（毎回復習に必ずログイン、小テストのConversationの復習は最低限）←小テスト返却時に未消化の場合減点 2時間

教科書

Ken Wilson著 SMART CHOICE (2), Third Edition (Oxford)

参考書

各自使いやすい英和・和英辞典

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

今まで学習した中級レベルの日本語を復習し、次の段階に進むための足掛かりとなる授業です。まず、文章を読んで読解力を伸ばしていきます。テーマに沿った文章を読むことによって興味を持ちながら語彙を増やしていきましょう。そして、新しい文型を学び、それを使って作文を書き、積極的に発表していきましょう。これらの活動を通して「読む・書く」「話す・聞く」の四技能の相互的な言語能力と自立学習の能力を伸ばしていきます。

到達目標

- 1 文章を読んで内容を把握することができる。
- 2 文章の中に出てくる新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4 機能別目標に沿った文型を学び、場面に応じて使うことができるようになる。
- 5 学んだ文型を使って会話をしたり、文を書くことができるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート提出・発表・確認テストなど（70％）と定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	テスト、オリエンテーション
第2回	「感情を表す」ときに使う文型、会話
第3回	「決心を表す」ときに使う文型、会話
第4回	「気持ちを強調する」ときに使う文型、会話
第5回	「原因や理由を表す」ときに使う文型、会話
第6回	「することが難しいことを表す」ときに使う文型、会話
第7回	「動作の対象を表す」ときに使う文型、会話
第8回	「出来事の瞬間を表す」ときに使う文型、会話
第9回	「同時に起こる物事を表す」ときに使う文型、会話
第10回	「時間の前後を表す」ときに使う文型、会話
第11回	「注意や連絡を表す」ときに使う文型、会話
第12回	「立場を表す」ときに使う文型、会話
第13回	「それ以外にも方法があることを伝える」ときに使う文型、会話
第14回	「物事が実現するための条件を表す」ときに使う文型、会話

回数	内容
第15回	「条件を仮定する」ときに使う文型、会話

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業の前には新出語彙の意味を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『学ぼう！にほんご 中級』 専門教育出版 ISBN 978-4-88324-420-1

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

『日本語総まとめ N1』 語彙 アスク出版 ISBN 978-4-87217-725-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

Japanese I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

大学の学習においては読解力が求められます。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につけます。そのための具体的な方法として文章縮約の技術を習得します。また、作文を縮約の応用として位置づけ、構成を意識した作文の実践を行います。

到達目標

- 1 文章を、原文の5～6割程度の長さに縮約できるようになる。
- 2 構成を意識した作文ができるようになる。
- 3 文章の大意を把握できるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート・発表・確認テストなど（70％）と、定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	テスト・オリエンテーション
第2回	短文読解・縮約演習
第3回	中文読解・縮約演習「就職活動と色彩心理」
第4回	作文「国旗について」
第5回	短文読解・縮約演習
第6回	中文読解・縮約演習
第7回	作文「新聞記事を書く」
第8回	短文読解・縮約演習
第9回	中文読解・縮約演習「卒業生の学校制服に対する意識調査」
第10回	作文「制服は必要か不必要か」
第11回	短文読解・縮約演習
第12回	作文「投書に答える」
第13回	短文読解・縮約演習
第14回	中文読解・縮約演習「体の部位と動作表現」
第15回	作文「子供のときよくした遊び」

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 提示された語句リストの意味・用法を調べておくこと。
- ・ 授業で指示された課題は提出期限を守って提出すること。

教科書

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』スリーエーネットワーク ISBN 978-4-88319-509-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2．0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

今まで学習した中級レベルの日本語を復習し、次の段階に進むための足掛かりとなる授業です。まず、文章を読んで読解力を伸ばしていきます。テーマに沿った文章を読むことによって興味を持ちながら語彙を増やしていきましょう。そして、新しい文型を学び、それを使って作文を書き、積極的に発表していきましょう。これらの活動を通して「読む・書く」「話す・聞く」の四技能の相互的な言語能力と自立学習の能力を伸ばしていきます。

到達目標

- 1 文章を読んで内容を把握することができる。
- 2 文章の中に出てくる新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4 機能別目標に沿った文型を学び、場面に応じて使うことができるようになる。
- 5 学んだ文型を使って会話をしたり、文を書くことができるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート提出・発表・確認テストなど（70％）と定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	読解「感激したこと、驚いたこと」、作文「私の周りにいるすごい人」
第2回	読解「意志・決心」、作文「試合にでるからには優勝する」
第3回	読解「衝動」、作文「がまんできずにしてしまったこと」
第4回	読解「結果の元となった理由」、作文「きっかけになったこと」
第5回	読解「『できない』ということを表現する」、作文「せざるを得なかったこと」
第6回	読解「物事の対象を示す」、作文「～をめぐる問題。」
第7回	読解「出来事の途中の様子」、作文「～したきり会っていない人」
第8回	読解「同時に起こっているように見えること」、作文「ついでに～してくれるサービス」
第9回	読解「場面を順番に説明する」、作文「生まれつきの才能次第で人生が決まるか」
第10回	読解「場面や時点を表現する」、作文「～際に気をつけること」
第11回	読解「物事を考えている立場を理解する」、作文「性格や特徴にギャップのある人」
第12回	読解「部分的に否定する」、作文「嫌いではないのにしていないこと」
第13回	読解「逆説の表現」、作文「外見や出身国で判断することについて」
第14回	読解「条件を仮定する」、作文「無人島に行くとしたら」

回数	内容
第15回	読解「『否定はできない』という気持ちを表現する」、作文「起こるかもしれない可能性」

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業の前には新出語彙の意味を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『学ぼう！にほんご 中級』 専門教育出版 ISBN 978-4-88324-420-1

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

『日本語総まとめ N1』 語彙 アスク出版 ISBN 978-4-87217-725-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

大学の学習においては読解力が求められます。この授業では、論理的に構成された文章を読むことによって、大学生としての基礎的な読解能力を身につけます。身近なテーマによる課題文を読むことによって、興味を持ちながら語彙力を高めます。そして、新しい文型を学び、作文、発表に応用します。これらの活動を通して言語能力の四技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に伸ばしていきます。

到達目標

- 1 論理的に構成された文を読み、内容を理解できるようになる。
- 2 課題文のテーマに即した語句を学び、使うことができるようになる。
- 3 学んだ文型を使って会話をしたり、文を書くことができるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート・発表・確認テストなど（70％）と、定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	「色」文法表現、語句、短作文、会話
第2回	「色」文法表現、語句、短作文、会話
第3回	読解「病院の色」会話、聴解
第4回	「ユーモア・ジョーク」文法表現、語句、短作文、会話
第5回	「ユーモア・ジョーク」文法表現、語句、短作文、会話
第6回	読解「エープリル・フール」会話、聴解
第7回	「制服」文法表現、語句、短作文、会話
第8回	「制服」文法表現、語句、短作文、会話
第9回	読解「学校の制服」会話、聴解
第10回	「算数」文法表現、語句、短作文、会話
第11回	「算数」文法表現、語句、短作文、会話
第12回	読解「計算の方法を説明する」会話、聴解
第13回	「遊びと運動」文法表現、語句、短作文、会話
第14回	「遊びと運動」文法表現、語句、短作文、会話
第15回	読解「子供の遊び」会話、聴解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 提示された語句リストの意味・用法を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・ 授業で指示された課題は提出期限を守って提出すること。

教科書

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』スリーエーネットワーク ISBN 978-4-88319-509-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

ハングルⅠ（88202）

前期

Korean Ⅰ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 18 芸,産,生,危
単位数	2．0 単位
担当教員	 河智弘

授業の概要

韓国語の基礎を習得するために必要な文字、発音を学んだ上で、簡単な会話文をロールプレイなどで実践する。

到達目標

韓国語の基礎である文字、発音をマスターして、実際に使える日常会話が駆使できるようになる。

評価方法

授業への取り組み（30％）、小テスト（30％）、期末試験（40％）で総合的に評価する。

注意事項

授業の中では発表や会話を行うので積極的に取り込むこと。

授業計画

回数	内容
第1回	講義の目的、概要、ハングルとは
第2回	文字（母音と子音）
第3回	パッチムと発音練習
第4回	初対面の挨拶
第5回	出身はソウルです
第6回	図書館ではありません
第7回	日韓合作ドラマ
第8回	時間がありますか
第9回	インターネットをします
第10回	貿易会社で働いています
第11回	東大門市場に行きます
第12回	買い物
第13回	それは一万ウォンです
第14回	韓国の文化
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教科書をよく読んで復習しておくこと。

教科書

参考書

辞典等参考文献は適宜案内する。

備考

ハングルⅡ（88252）

後期

Korean Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 18 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 河智弘

授業の概要

基本文型と文法を会話文の中で習得し、日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。前期で学んだ韓国語の基礎を生かして、会話、慣用的な表現などを用いて、読み、書き、聞き取り、話すことをバランスよく習得していくことを目的とする。

到達目標

韓国語の基礎である文字、発音をマスターして、実際に使える日常会話が駆使できるようになる。

評価方法

授業への取り組み（3 0 %）、小テスト（3 0 %）、期末試験（4 0 %）で総合的に評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	前期の復習
第2回	今、何時ですか
第3回	日本語を話されますか
第4回	そんなに遠くありません
第5回	いつ韓国に来ましたか
第6回	民俗村に一緒に行きましょう
第7回	韓国の映画鑑賞
第8回	パーティーの準備をしています
第9回	何も食べられませんでした
第10回	陶磁器が見たいです
第11回	写真を撮ってもいいですか
第12回	もう行かなければなりません
第13回	手紙を書きます
第14回	韓国事情
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計6 0 時間

教科書をよく読んで復習しておくこと。

教科書

NEW カナダ KOREAN 初級1 税込2,700円 講義中に販売します。

参考書

辞典等参考文献は適宜案内する。

備考

English Ⅲ

教養科目

年次	2 年
対象	25 ～ 22 芸,産,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

基本英語や英語I・IIなどで身につけた英語力のうち特に読解力を用い、実際に英米人のために書かれた読み物を扱う。
授業を受動的に聞くのではなく、自ら耳や口を使うことで、学習者が活動する授業内容としたい。
CNNの学生向けニュースを扱うことで、ネイティブスピーカーに対峙しても動じない力と度胸を養う。
学部や大学院の専門書のみならず、多岐にわたる就職対策にも役立てることができるはずである。

到達目標

- 1 日本人ではなく英語話者向けに書かれた英文を理解できるようになる
- 2 辞書を丁寧にひくことで、語彙を拡大する
- 3 解読で終わらないように、正しい発音で音読をして、読んだ内容を取り込み自分のものとする
- 4 英米人の文化や価値観を理解できるようになる

評価方法

- 授業に取り組む態度・姿勢を含めて以下のように評価する
- ・小テスト 30%（快適な授業環境のため、始業チャイムとともに配布し実施する）（到達目標 2）
 - ・中間テスト 30%（到達目標1・3・4）
 - ・定期テスト 40%（到達目標1・3・4）

注意事項

選択科目であるので、少々困難に思われても辞書を丁寧にひき、内容を理解しようとする意志をもって取り組んで欲しい。
授業を快適に進めるため、宿題を欠かさず、積極的かつ自発的に学ぶ姿勢を望む。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Largest Model Train
第3回	No Phones in French Schools
第4回	Food on Instagram
第5回	Adventure Healing
第6回	Knocker-Uppers
第7回	Hungarian Cake
第8回	Review
第9回	New TVs
第10回	Teaching English as a Second Language
第11回	Burgers and Antibiotics
第12回	Ikigai
第13回	Workers in South Korea

回数	内容
第14回	Smart Park in Dubai
第15回	Ice Palaces

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ Vocabulary 関連のExercise(Vocabulary/Vocabulary Exercise/ Topic Paragraph)を済ませる 1時間
- ・ 小テスト用と内容理解の復習 1.5時間
- ・ 付属のCDを用いてシャドーイングをする 毎日15分×6

教科書

CNN10 Student News

Fuyuhiko Sekidoほか

朝日出版社

ISBN978-4-255-15646-0

参考書

英和辞典か英英辞典（使い易いならば電子辞書でもかまわない）、スマートフォンの使用は認めない

備考

English IV

教養科目

年次	2 年
対象	25 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

基本英語、英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲあるいは英会話Ⅰで身につけた語彙や文法表現を用いて、主に英作文によってアウトプットする能力を育成するため、パラグラフライティングの学習を行う。

単一の学科ではなく全学から参加できる科目であるため、学部や大学院の専門英作文のみならず、就職対策にも役立てることができるはずである。

順を追って積み上げてゆくテキストを用い、自発的に学ぶことで、ライティングスキルを段階的に身につけることを目的としている。

到達目標

- 1 文をつなぐ表現や便利な表現を予め提示したテキストの課題に従い、段階的に英文が作成できるようになる
- 2 難解なことばなどをいかに自分の知るやさしい表現で伝えるか、という切り替えができることで、そのスキルが英会話にも活かせるようになる
- 3 実際に書いたものを発表することで、互いに批評し学生間で弱点や長所といったポイントを指摘しあえる
- 4 語彙を拡大する

評価方法

毎回書き上げたものを音読し、学生間でコメントを言い合うが、それを毎回提出し添削を受けることで段階的によりよいものに仕上げていく。

発表とコメント20%（到達目標3・4）、提出物80%（到達目標1・2）で評価する。

注意事項

自発的に取り組まねばならない授業形態なので、みずから英作文をするという目的意識を持って参加して欲しい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス・自己紹介など
第2回	Self Introduction
第3回	Past Memories
第4回	My Daily Life
第5回	My Beliefs
第6回	My Future Profession
第7回	People I Respect
第8回	Things I Treasure
第9回	Looking Back
第10回	Places Worth Visiting
第11回	(Un) Pleasant Things
第12回	Writing a Story
第13回	Words in my Vocabulary
第14回	Talking about "Types"

回数	内容
第15回	Presentation

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・モデルパラグラフの読み（15分）
- ・つなぐ表現と便利な表現の書き込みによる予習（30分）
- ・添削のアドバイスに従った推敲（1時間）
- ・習熟度に応じた英文法の問題を解く（15分）

教科書

A Passage to Paragraph Writing, Koki Endo 著 （センゲージラーニング）
ISBN978-4-86312-182-9

参考書

使いやすい英和・和英・英英辞典など（電子辞書でもよいが、スマートフォン等は不可）

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

大学での学習においては読解力が求められます。この授業ではまず、大学生に求められる読解力を身に付けるため、難易度の高い文章を読みます。テーマに沿った文章を読むことによって、興味を持ちながら語彙を増やしていきましょう。そして、新しい文型を学び、それを使って作文を書き、考えを積極的に発表していきましょう。これらの活動をとおして「読む・書く」「話す・聞く」の四技能の総合的な言語能力を伸ばしていきます。

到達目標

- 1 難易度の高い長文を読み、内容が理解し要約できるようになる。
- 2 文章の中に出てくる新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4 テーマに沿った文型を学び、使うことができるようになる。
- 5 学んだ文型を使って会話をしたり、文を書くことができるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート提出・発表・確認テストなど（70％）と定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	文法表現、語彙「健康」、作文「私の国の民間療法」
第2回	文法表現、語彙「少子高齢化」、作文「老人福祉施設に入った方がいいか」
第3回	文法表現、語彙「コミュニケーション」、作文「コミュニケーションで重要なこと」
第4回	文法表現、語彙「習慣/風習」、作文「自国の慣習・生活習慣・マナー」
第5回	文法表現、語彙「大学での学習」、作文「入学試験を易しくして卒業を難しくする？」
第6回	文法表現、語彙「社会保障、社会福祉」、作文「高負担・高給付か低負担・低給付か」
第7回	文法表現、語彙「子供/若者」、作文「自国の少年・若者に関する問題」
第8回	文法表現、語彙「労働」、作文「職場や会社を選ぶとき重視すること」
第9回	文法表現、語彙「ボランティア活動」、作文「ボランティア活動」
第10回	文法表現、語彙「都市/地方」、作文「地方新聞の記事をまとめる」
第11回	文法表現、語彙「食糧問題」、作文「日本と自国の食料品の価格の違い」
第12回	文法表現、語彙「マナー・モラル」、作文「人類の発明がもたらしたもの」
第13回	文法表現、語彙「環境問題」、作文「ごみを減らすために私たちができること」
第14回	文法表現、語彙「教育」、作文「公平に教育の機会を与えるには」

回数	内容
第15回	文法表現、語彙「国際活動・国際協力」、作文「地球規模の問題・解決方法」

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業の前には新出語彙の意味を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『学ぼう！にほんご 中上級』 専門教育出版 ISBN 978-4-88324-449-2

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

『日本語総まとめ N1』 語彙 アスク出版 ISBN 978-4-87217-725-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

日本語Ⅲ（88353）

後期

Japanese Ⅲ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

大学の学習においては読解力が求められます。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につけます。そのための具体的な方法として文章縮約の技術を習得します。また、作文を縮約の応用として位置づけ、構成を意識した作文の実践を行います。

到達目標

- 1 文章を、原文の5～6割程度の長さに縮約できるようになる。
- 2 構成を意識した作文ができるようになる。
- 3 文章の大意を把握できるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート・発表・確認テストなど（70％）と、定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	短文読解・縮約演習
第2回	中文読解・縮約「お金を投げる・洗う」
第3回	作文「自国の通貨」
第4回	短文読解・縮約演習
第5回	中文読解・縮約演習「生命にとって水とは何か」
第6回	作文「無駄遣い」
第7回	短文読解・縮約演習
第8回	中文読解・縮約演習「アイスマン」
第9回	作文「血液型による性格判断」
第10回	短文読解・縮約演習
第11回	中文読解・縮約演習「manga」
第12回	作文「読書歴」
第13回	短文読解・縮約演習
第14回	中文読解・縮約演習「進化の隣人チンパンジーの子育て」
第15回	作文「外国語学習」

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・提示された語句リストの意味・用法を調べておくこと。
- ・授業で指示された課題は提出期限を守って提出すること。

教科書

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』スリーエーネットワーク ISBN 978-4-88319-509-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

Japanese IV

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

大学での学習においては読解力が求められます。この授業ではまず、大学生に求められる読解力を身に付けるため、難易度の高い文章を読みます。テーマに沿った文章を読むことによって、興味を持ちながら語彙を増やしていきましょう。そして、新しい文型を学び、それを使って作文を書き、考えを積極的に発表していきましょう。これらの活動をとおして「読む・書く」「話す・聞く」の四技能の総合的な言語能力を伸ばしていきます。

到達目標

- 1 難易度の高い長文を読み、内容が理解し要約できるようになる。
- 2 文章の中に出てくる新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4 テーマに沿った文型を学び、使うことができるようになる。
- 5 学んだ文型を使って会話をしたり、文を書くことができるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート提出・発表・確認テストなど（70％）と定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	読解「清潔好きの日本人」、会話、聴解
第2回	読解「少子高齢化の現状と対策」、会話、聴解
第3回	読解「お互いのコミュニケーションのために」、会話、聴解
第4回	読解「古来の知恵か弊害か」、会話、聴解
第5回	読解「日米の大学生はどこが違うか」、会話、聴解
第6回	読解「社会保障という備え」、会話、聴解
第7回	読解「少年犯罪における匿名報道の是非」、会話、聴解
第8回	読解「日本的な経営慣行と新時代の到来」、会話、聴解
第9回	読解「働く人のボランティア活動」、会話、聴解
第10回	読解「都市から地方へ、人は移り住む」、会話、聴解
第11回	読解「生産に必要な水とエネルギー」、会話、聴解
第12回	読解「『江戸しぐさ』と現代人のモラル」、会話、聴解
第13回	読解「世界共通語になった日本の精神」、会話、聴解
第14回	読解「格差社会と教育」、会話、聴解

回数	内容
第15回	読解「フェアトレードの精神に則り」、会話、聴解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業の前には新出語彙の意味を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『学ぼう！にほんご 中上級』 専門教育出版 ISBN 978-4-88324-449-2

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

『日本語総まとめ N1』 語彙 アスク出版 ISBN 978-4-87217-725-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

Japanese IV

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

大学の学習においては読解力が求められます。この授業では、論理的に構成された文章を読むことによって、大学生としての基礎的な読解能力を身につけます。身近なテーマによる課題文を読むことによって、興味を持ちながら語彙力を高めます。そして、新しい文型を学び、作文、発表に応用します。これらの活動を通して言語能力の四技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に伸ばしていきます。

到達目標

- 1 論理的に構成された文を読み、内容を理解できるようになる。
- 2 課題文のテーマに即した語句を学び、使うことができるようになる。
- 3 学んだ文型を使って会話をしたり、文を書くことができるようになる。

評価方法

授業態度・課題レポート・発表・確認テストなど（70％）と、定期試験（30％）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	「お金」文法表現、語句、短作文、会話
第2回	「お金」文法表現、語句、短作文、会話
第3回	読解「古くなったお札の行方」会話、聴解
第4回	「水」文法表現、語句、短作文、会話
第5回	「水」文法表現、語句、短作文、会話
第6回	読解「水への関心」会話、聴解
第7回	「遺伝」文法表現、語句、短作文、会話
第8回	「遺伝」文法表現、語句、短作文、会話
第9回	読解「南米の先住民は全員O型？」会話、聴解
第10回	「漫画・アニメ・本」文法表現、語句、短作文、会話
第11回	「漫画・アニメ・本」文法表現、語句、短作文、会話
第12回	読解「座談会『漫画について』」会話、聴解
第13回	「ヒトと動物」文法表現、語句、短作文、会話
第14回	「ヒトと動物」文法表現、語句、短作文、会話
第15回	読解「ヒトのことばと鳥の歌」会話、聴解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 提示された語句リストの意味・用法を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・ 授業で指示された課題は提出期限を守って提出すること。

教科書

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』スリーエーネットワーク ISBN 978-4-88319-509-1

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

保健体育概論（88302）

前期

Health and Physical Education

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 K,N,I,I,B,Y,M,R,,
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 菅正樹

授業の概要

本講義の主たるねらいは、我々人間が基礎的な知識として最低限度理解しておかなくてはならない、健康生活への位置づけと健康体の必要について論述するものである。

内容的には、運動を中心に展開される健康生活を取り巻く色々な事象について取り上げ、健康体の育成への足掛かりを教授するものである。

到達目標

身体の基礎的な機能を理解し、健康体を維持・増進していく上で身体的特性及び骨密度のデータ等を測定し、運動の必要性を把握させ、安全な運動強度でのトレーニングができるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（20％）及び定期試験（80％）で評価する。

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	人間と運動のつながり
第3回	体力とは
第4回	健康とは
第5回	運動処方について
第6回	適度な運動
第7回	健康と運動
第8回	運動強度について
第9回	身体組成
第10回	脂肪分解と運動
第11回	生活習慣病と運動
第12回	ストレスと運動
第13回	休養と健康
第14回	休養と健康
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

学内外の図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。

教科書

授業時に配布

参考書

随時配布

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 W,W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

より健康的な社会生活をおくるために一人一人が日々QOLを向上できる社会環境構築を目指すことは重要である。保健理論と体育理論を基礎とした「行動体力」、「防衛体力」から理想的な健康生活について理解する。
とくに、健康体・健康生活の保持・増進に重要な「運動－栄養－休養」のサイクルについて学び、実践できる姿勢を育成する科目であり、社会生活に照らし合わせて生活環境や様々な状況において適切な判断と行動ができる人材の育成を目的としている。

到達目標

生活習慣と疾患、運動と栄養、そして休養との関連を学び健康の重要性について理解することによって、より健康的な生活を送るようになる。

評価方法

授業に取り組む態度（20％）、レポート（30％）、テスト（50％）にて総合評価する。

注意事項

講義中に適宜指示する。

授業計画

- オリエンテーション
- 保健理論と体育理論
- 健康の定義
- 生活習慣病の原因
- メタボリックシンドロームの定義
- 行動体力と防衛体力
- 環境因子とホメオスタシス
- 神経系機能と内分泌機能の関係
- 有酸素機能と心肺機能
- 無酸素運動と筋機能
- 食生活と摂取エネルギー
- 運動と消費エネルギー
- 休養の必要性とその方法
- ヘルスサイクルとは？
- まとめ（健康のデザイン）

授業外学習

学習時間の目安：約60時間
講義毎の予習、復習及び課題レポートを5題提出すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

ヘルスサイエンス 川上雅之他著（不昧堂出版）

備考

保健体育実技 I（88403）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 W,W,W
単位数	1． 0 単位
担当教員	 菅正樹

授業の概要

明るく充実した質の高い人生を送るためには何が必要なのでしょう？本授業では、生涯にわたって健康で活力のある生活を獲得するために、「健康づくり」の理論的背景と具体的な実践方法について実技を通して学びます。

到達目標

- ・健康づくりの基礎理論を身につける。
- ・健康運動の実践のために、心拍数の測定方法を身につける。
- ・生涯スポーツの技術を身につける。

評価方法

授業に取り組む姿勢(60%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。

注意事項

雨天・その他の状況により種目の変更がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	健康づくりの基礎理論（有酸素運動）
第3回	有酸素運動（エアロビクス）
第4回	有酸素運動（ウォーキング）
第5回	健康づくりの基礎理論（基礎代謝）
第6回	基礎代謝を高める運動（筋力トレーニング）
第7回	生涯スポーツ（バドミントン）
第8回	生涯スポーツ（バドミントン）
第9回	生涯スポーツ（バドミントン）
第10回	生涯スポーツ（ソフトボール）
第11回	生涯スポーツ（ソフトボール）
第12回	生涯スポーツ（ソフトボール）
第13回	生涯スポーツ（卓球）
第14回	生涯スポーツ（卓球）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

・ジョギング・筋力トレーニング等を週に3回以上の頻度で行うこと。

教科書

無

参考書

資料配布

備考

保健体育実技 I（88203）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 K,M
単位数	1． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

評価方法

授業に取り組む姿勢(60%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。
- ・朝食、ランチをしっかりと食べてきてください。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションとチーム分け
第2回	バドミントン（基本練習）
第3回	バドミントン（ルールと戦術）
第4回	バドミントン（ゲーム個人戦）
第5回	バドミントン（ゲーム団体戦）
第6回	卓球（基本練習）
第7回	卓球（ルールと戦術）
第8回	卓球（ゲームと個人戦）
第9回	卓球（ゲームと団体戦）
第10回	バレーボール（パス：オーバー・アンダー）
第11回	バレーボール（シートレシーブ）
第12回	バレーボール（アタック・ブロック）
第13回	バレーボール（ゲーム）
第14回	バレーボール（ゲーム）
第15回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

普段の生活の中で、歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

特になし。

備考

保健体育実技 I（88205）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N,R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

評価方法

授業に取り組む姿勢(60%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。
- ・昼食、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションとチーム分け
第2回	バドミントン（基本練習）
第3回	バドミントン（ルールと戦術）
第4回	バドミントン（ゲーム個人戦）
第5回	バドミントン（ゲーム団体戦）
第6回	卓球（基本練習）
第7回	卓球（ルールと戦術）
第8回	卓球（ゲームと個人戦）
第9回	卓球（ゲームと団体戦）
第10回	バレーボール（パス：オーバー・アンダー）
第11回	バレーボール（シートレシーブ）
第12回	バレーボール（アタック・ブロック）
第13回	バレーボール（ゲーム）
第14回	バレーボール（ゲーム）
第15回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

普段の生活の中で、歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

特になし。

備考

保健体育実技 I（88212）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 19 B,Y
単位数	1． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

評価方法

授業に取り組む姿勢(60%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。
- ・昼食、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションとチーム分け
第2回	バドミントン（基本練習）
第3回	バドミントン（ルールと戦術）
第4回	バドミントン（ゲーム個人戦）
第5回	バドミントン（ゲーム団体戦）
第6回	卓球（基本練習）
第7回	卓球（ルールと戦術）
第8回	卓球（ゲームと個人戦）
第9回	卓球（ゲームと団体戦）
第10回	バレーボール（パス：オーバー・アンダー）
第11回	バレーボール（シートレシーブ）
第12回	バレーボール（アタック・ブロック）
第13回	バレーボール（ゲーム）
第14回	バレーボール（ゲーム）
第15回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

普段の生活の中で、歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

特になし。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 B,Y
単位数	1． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

評価方法

授業に取り組む姿勢(60%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。
- ・昼食、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションとチーム分け
第2回	バスケットボール（ドリブル・パス）
第3回	バスケットボール（ランニングシュート・ジャンプシュート）
第4回	バスケットボール（カットインプレー・スクリーンプレー）
第5回	バスケットボール（ルールの確認と戦術）
第6回	バスケットボール（ゲーム）
第7回	バスケットボール（ゲーム）
第8回	フットサル（パス・トラップ）
第9回	フットサル（ドリブル・キープ）
第10回	フットサル（シュート・ディフェンス）
第11回	フットサル（ルールの確認と戦術）
第12回	フットサル（ゲーム）
第13回	フットサル（ゲーム）
第14回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ
第15回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

普段の生活の中で、歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

特になし。

備考

保健体育実技Ⅱ（88253）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 K,M
単位数	1． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

評価方法

授業に取り組む姿勢(60%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。
- ・朝食、ランチをしっかり食べてきてください。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションとチーム分け
第2回	バスケットボール（ドリブルパス）
第3回	バスケットボール（ランニングシュート ジャンプシュート）
第4回	バスケットボール（カットインプレー スクリーンプレー）
第5回	バスケットボール（ルールの確認と戦術の立案）
第6回	バスケットボール（ゲーム）
第7回	バスケットボール（ゲーム）
第8回	フットサル（パス トラップ）
第9回	フットサル（ドリブル キープ）
第10回	フットサル（シュート ディフェンス）
第11回	フットサル（ルールの確認と戦術の立案）
第12回	フットサル（ゲーム）
第13回	フットサル（ゲーム）
第14回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ
第15回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

普段の生活の中で、歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

特になし。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N,R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

評価方法

授業に取り組む姿勢(60%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。
- ・昼食（ランチ）をしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションとチーム分け
第2回	バスケットボール（ドリブル・パス）
第3回	バスケットボール（ランニングシュート・ジャンプシュート）
第4回	バスケットボール（カットインプレー・スクリーンプレー）
第5回	バスケットボール（ルールの確認と戦術）
第6回	バスケットボール（ゲーム）
第7回	バスケットボール（ゲーム）
第8回	フットサル（パス・トラップ）
第9回	フットサル（シュート・ディフェンス）
第10回	フットサル（シュート・ディフェンス）
第11回	フットサル（ルールの確認と戦術）
第12回	フットサル（ゲーム）
第13回	フットサル（ゲーム）
第14回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ
第15回	レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

普段の生活の中で、歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと

教科書

プリントを配布する。

参考書

特になし。

備考

保健体育実技Ⅱ（88454）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1年
対象	26 ～ 17 W,W,W
単位数	1． 0単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

健康の保持増進という観点から、各種実技種目を通じて呼吸循環器系に適切な運動負荷を与えることを目的とし、健康体に関する各種運動・スポーツの重要性を理解させる。また、器具を用いない基本的な有酸素運動（ジョギング・ウォーキング）の技術を習得し、日常の生活に則した健康体の保持増進に対して理解を深めさせる。

到達目標

- 1 「有酸素運動実践のために、負荷の設定方法や心拍数の測定方法を身につける」
- 2 「健康運動・軽運動の技術を身につける」

評価方法

授業に取り組む姿勢60%、課題レポート40%で総合的に評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

雨天・その他の状況により種目の変更がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、レクリエーションゲーム
第2回	器具を用いない運動（1）ジョギング（指導・実践上の注意点と速度変化）
第3回	器具を用いない運動（2）ジョギング（速度と時間の関係）
第4回	器具を用いない運動（3）ジョギング（心拍数の変化）
第5回	器具を用いない運動（4）ウォーキング（指導・実践上の注意点と速度変化）
第6回	器具を用いない運動（5）ウォーキング（速度と時間の関係）
第7回	器具を用いない運動（6）ウォーキング（心拍数の変化）
第8回	健康運動としてのジョギング・ウォーキング
第9回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム
第10回	健康運動・軽運動としてのバドミントン
第11回	健康運動・軽運動としてのサッカー
第12回	健康運動・軽運動としてのソフトボール
第13回	健康運動・軽運動としてのバレーボール
第14回	健康運動・軽運動としてのバスケットボール
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

・ジョギング・筋力トレーニング等を週に3回以上の頻度で行うこと。

教科書

無

参考書

資料配布

備考

保健体育実技 I（88406）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N,K,N,I,B,Y,M,R
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 菅正樹

授業の概要

本授業においては、健康でしなやかな身体を作りを目指し、ダンスや身体表現を通して、他者との関りを持ち、身体表現することの意義や重要性を学びます。

到達目標

- 1 自身の身体を理解し、非言語表現・身体表現の意義や重要性を理解する。
- 2 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、生涯に必要な運動が習得することが出来るようになる。
- 3 他者を理解し、コミュニケーション能力を習得することが出来るようになる。

評価方法

学習態度（積極性、理解度、コミュニケーション、技術の向上）60％実技課題4 0％で総合的に判断する。

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ストレッチと筋力トレーニング
第3回	ストレッチと筋力トレーニング
第4回	リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング
第5回	リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング
第6回	アイソレーション
第7回	ダンスステップ（初級）
第8回	ダンスステップ（中級）
第9回	ダンスステップ（まとめ）
第10回	グループ発表（準備）
第11回	グループ発表（創作）
第12回	グループ発表（質上げ）
第13回	グループ発表（まとめ）
第14回	作品鑑賞
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：15時間
日常生活において体力づくりを行うこと。
前回の授業の復習をしておくこと。

教科書
授業時に配布

参考書
授業時に配布

備考

保健体育実技Ⅱ（88457）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N,K,N,I,B,Y,M,R
単位数	1．0 単位
担当教員	 菅正樹

授業の概要

本授業においては、健康でしなやかな身体を作りを目指し、ダンスや身体表現を通して、他者との関りを持ち、グループ、または個人を非言語で身体表現することの意義や重要性を学びます。

到達目標

- 自身の身体を理解し、非言語表現身体表現の意義や重要性を理解する。
- 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、生涯に必要な運動が習得することが出来るようになる。
- 他者を理解し、コミュニケーション能力を習得することが出来るようになる。

評価方法

学習態度（積極性、理解度、コミュニケーション、技術の向上）6 0 %、実技課題4 0 %で総合的に判断する。

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ストレッチと筋力トレーニング
第3回	ストレッチと筋力トレーニング
第4回	リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング
第5回	リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング
第6回	アイソレーション
第7回	ダンスステップ（初級）
第8回	ダンスステップ（中級）
第9回	ダンスステップ（まとめ）
第10回	グループ発表（準備）
第11回	グループ発表（創作）
第12回	グループ発表（質上げ）
第13回	グループ発表（まとめ）
第14回	作品鑑賞
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：15時間

教科書

授業時に配布

参考書

随時配布

備考

保健体育概論（88458）

後期

Health and Physical Education

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N,K,N,I,B,Y,M,R,,
単位数	2． 0 単位
担当教員	 菅正樹

授業の概要

スポーツの起源から現代に至るまでのスポーツの歴史を概説し、様々な視点から社会的な状況とともに、現代社会におけるスポーツの特徴と課題について考える。

到達目標

- 1 スポーツの歴史や文化的特徴について理解する。
- 2 スポーツを様々な視点から考える力を身につける。

評価方法

授業態度（6 0 %）レポート課題（4 0 %）で総合的に評価する。

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	スポーツとは
第3回	スポーツの歴史（1）
第4回	スポーツの歴史（2）
第5回	スポーツと歴史（3）
第6回	オリンピックとは
第7回	パラリンピックとは
第8回	世界のスポーツ・日本のスポーツ
第9回	スポーツとルール
第10回	芸術とスポーツ
第11回	現代社会とスポーツ（1）
第12回	現代社会とスポーツ（2）
第13回	未来のスポーツ（1）
第14回	未来のスポーツ（2）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計6 0 時間

図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。

教科書

必要資料は作成して配布予定

参考書

随時配布する。

備考

Philosophy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

この授業では、現代社会における哲学の位置づけを確認したうえで、実践哲学・西洋哲学・東洋哲学といった分類にしたがって哲学の諸相を学びながら、哲学の視点・方法・論点を身につけることによって、国際社会・現代社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性をともなうコミュニケーション能力を伸ばす契機とする。

第1～4回で、哲学の位置づけ、および実践哲学としての倫理学・道徳学における主要な視点・方法・論点を基礎として学び、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、現代社会に大きな影響を与える西洋哲学における主要な視点・方法・論点を学び、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、現代日本にも大きな影響を与える東洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第6・11回において、第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 目標①：実践哲学の視点・方法・論点について、基礎的な知識をえる。
- 目標②：西洋哲学の視点・方法・論点について、基礎的な知識をえる。
- 目標③：東洋哲学の視点・方法・論点について、基礎的な知識をえる。
- 目標④：哲学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）により、以下のように評価する。

- 第05回の1/3まとめ時におこなう解説文作成問題（30%）：到達目標①④を評価
- 第10回の2/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35%）：到達目標②④を評価
- 第15回の3/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35%）：到達目標③④を評価

注意事項

哲学に関する知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 現代社会における哲学 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	実践哲学① 自己と他者 予習：人格同一性・仏教の渴愛・孟子の惻隱の情について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	実践哲学② 道徳と法 予習：直躬説話・尊属殺・キケロ・カントについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	実践哲学③ 西洋と東洋 予習：修身・齊家・治国・平天下について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第5回	1/3まとめ／解説文作成・提出 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：実践哲学の視点・方法・論点を整理する。
第6回	西洋哲学① 功利主義 予習：ベンサム・規則功利主義・サバイバルロッターリーについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	西洋哲学② 自由主義 予習：JSミル・危害原則・愚行権について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	西洋哲学③ 構造主義 予習：レヴィ＝ストロース・フーコーについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	西洋哲学④ 正義論 予習：ロールズ・無知のベールについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ／解説文作成・提出 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：西洋哲学の視点・方法・論点を整理する。
第11回	東洋哲学① 天と道と気 予習：論語について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	東洋哲学② 性命と身体 予習：本性論・経絡について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	東洋哲学③ 仁義と忠孝 予習：孟子・韓非子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	東洋哲学④ 無為と自然 予習：老子・莊子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ／解説文作成・提出 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：東洋哲学の視点・方法・論点を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

History

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

この授業では、中国史と日本とのかかわりを確認したうえで、中国古代史における重要概念の整理と、戦国期から前漢末・王莽期までの政治史・軍事史・産業史の概観とおこない、歴史学の視点・方法・論点を身につけることによって、国際社会・現代社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性をともなうコミュニケーション能力を伸ばす契機とする。

第1～4回で、中国史と日本とのかかわり、および中国古代史における重要概念を基礎として学び、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、戦国期・秦帝国期について学び、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、前漢帝国期・王莽期について学び、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第6・11回において、第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 目標①：中国古代史における重要概念について、基礎的な知識をえる。
- 目標②：戦国期・秦帝国期について、基礎的な知識をえる。
- 目標③：前漢帝国期・王莽期について、基礎的な知識をえる。
- 目標④：中国古代史の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

- 提出物の状況・内容（100%）により、以下のように評価する。
- 第05回の1/3まとめ時におこなう解説文作成問題（30%）：到達目標①④を評価
- 第10回の2/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35%）：到達目標②④を評価
- 第15回の3/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35%）：到達目標③④を評価

注意事項

中国古代史に関する知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス／中国史と日本 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	中国古代史の重要概念① 天下・革命・華夷 予習：天下・革命・華夷について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	中国古代史の重要概念② 災異・礼法・公私 予習：災異・礼法・公私について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	中国古代史の重要概念③ 封建・宗族・鬼神 予習：封建・宗族・鬼神について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第5回	1/3まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：中国古代史の重要概念について整理する。
第6回	戦国期① 政治 予習：戦国七雄・变法運動・合縦連衡について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	戦国期② 軍事 予習：楽毅・白起・廉頗・王翳について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	戦国期③ 産業 予習：鉄器と産業の関係について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	秦帝国 予習：始皇帝・郡県制・巡行について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：戦国期・秦帝国について整理する。
第11回	前漢帝国① 漢初の時代 予習：項羽・劉邦・呂后について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	前漢帝国② 文帝・景帝期 予習：呉楚七国の乱について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	前漢帝国③ 武帝期 予習：匈奴対策・塩鉄専売・均輸平準について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	王莽期 予習：王莽について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：前漢帝国・王莽期について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照
復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

この授業では、宗教の要件・類型を確認したうえで、世界の諸宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相を学びながら、宗教学の視点・方法・論点を身につけることによって、国際社会・現代社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性をとみなうコミュニケーション能力を伸ばす契機とする。

第1～7回で、宗教の要件・類型、および諸宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相を学び、第8回の中間まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第9～14回で、宗教学の立場から社会の諸問題を考える視点・方法・論点を学び、第15回の期末まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第9回において、第8回中間まとめ時に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 目標①：諸宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などについて、基礎的な知識をえる。
- 目標②：宗教学の視点・方法・論点について、基礎的な知識をえる。
- 目標③：諸宗教や宗教学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

- 提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。
- 第08回の中間まとめ時におこなう解説文作成問題（50％）：到達目標①③を評価
- 第15回の期末まとめ時におこなう解説文作成問題（50％）：到達目標②③を評価

注意事項

宗教・宗教学に関する知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス／宗教の要件／宗教の類型 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	宗教の起源／ゾロアスター教／ヒンドゥー 予習：ゾロアスター教・ヒンドゥーの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	ユダヤ教／神道 予習：ユダヤ教・神道の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	儒教／道教 予習：儒教・道教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	キリスト教 予習：キリスト教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№5の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第6回	イスラーム / 新宗教 予習：イスラームの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	仏教 / ニューエイジ 予習：仏教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	中間まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№1～7の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教の要件・類型、および諸宗教の諸相を整理する。
第9回	宗教学の位置・視点 / 宗教学の方法_・論点 予習：宗教学の視点・方法・論点について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	宗教の4要素 予習：宗教の4要素（教義・教団・儀礼・体験）について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№10の内容を整理し、例題を解きなおす。
第11回	宗教と芸術・象徴 予習：宗教と芸術・象徴とのかかわりについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	宗教と国家・共同体・差別 予習：宗教と国家・共同体・差別とのかかわりについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	宗教と消費文化・メディア 予習：宗教と消費文化・メディアとのかかわりについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	宗教と暴力・科学技術・医療 予習：宗教と暴力・科学技術・医療とのかかわりについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	期末まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№9～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教学の視点・方法・論点について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 17 芸,産,生,危
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

この授業では、中国古典文学と日本とのかかわりを確認したうえで、各古典の内容・構成・成り立ち・時代相などの諸相を学びながら、文章と詩歌の一般的な鑑賞法を身につけることによって、国際社会・現代社会に対応・貢献するための幅ひろい教養と豊かな人間性をとまなうコミュニケーション能力を伸ばす契機とする。

第1～4回で、中国古典文学と日本とのかかわり、および比較的小さい文章作品についてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた作品の鑑賞文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、比較的小さい文章作品について学び、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた作品の鑑賞文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、詩歌作品について学び、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた作品の鑑賞文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第6・11回において、第5・10回に提出された鑑賞文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 目標①：中国古典文学の文章作品について、基礎的な知識をえる。
- 目標②：中国古典文学の詩歌作品について、基礎的な知識をえる。
- 目標③：中国古典文学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な鑑賞文が書ける。

評価方法

- 提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。
- 第05回の1/3まとめ時におこなう鑑賞文作成問題（30％）：到達目標①③を評価
- 第10回の2/3まとめ時におこなう鑑賞文作成問題（35％）：到達目標①③を評価
- 第15回の3/3まとめ時におこなう鑑賞文作成問題（35％）：到達目標②③を評価

注意事項

中国古典文学に関する知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス／中国古典文学と日本 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	文章① 論語と礼記の文章 予習：論語と礼記について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	文章② 孟子と荀子の文章 予習：孟子と荀子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	文章③ 孫子と呉子の文章 予習：孫子と呉子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ／鑑賞文作成・提出 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、鑑賞文作成にそなえる。 復習：文章①②③で取りあげた作品について整理する。

回数	内容
第6回	文章④ 老子と莊子の文章 予習：老子と莊子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	文章⑤ 墨子と呂氏春秋の文章 予習：墨子と呂氏春秋について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	文章⑥ 韓非子と管子の文章 予習：韓非子と管子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	文章⑦ 史記と論衡の文章 予習：史記と論衡について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ / 鑑賞文作成・提出 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、鑑賞文作成にそなえる。 復習：文章④～⑦で取りあげた作品について整理する。
第11回	詩歌① 詩経と楚辞の詩歌 予習：詩経と楚辞について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	詩歌② 唐詩の源流と初唐の詩歌 予習：初唐の詩人について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	詩歌③ 盛唐の詩歌 予習：盛唐の詩人について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	詩歌④ 中唐と晩唐の詩歌 予習：中唐と晩唐の詩人について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ / 鑑賞文作成・提出 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、鑑賞文作成にそなえる。 復習：詩歌①～④で取りあげた作品について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる作品について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考